

**児童虐待未然防止のための
養育支援サービスのあり方に関する調査**

結果報告書

平成 21 年 3 月

千葉県社会福祉審議会
児童福祉専門分科会 社会的養護検討部会

児童虐待防止調査研究委員会

はじめに

近年、児童相談所における虐待相談件数が増加し続けるとともに、親の虐待によって子どもの命が奪われる事件も後を絶たないなど、児童虐待問題が深刻化しています。

そうした中、千葉県では、児童虐待を防止するための抜本的な対策を講ずるため、平成 17 年度に社会福祉審議会児童福祉専門分科会社会的養護検討部会のもとに「児童虐待防止調査研究委員会」(以下、委員会)を設置し、児童虐待防止に資するための基礎的なデータを蓄積することにより、これを踏まえた具体的な施策のあり方について提言することとしました。委員会は、児童福祉、教育、医療などの分野の学識経験者や関係者から構成されています。

平成 17 年度には、県内の男女 9,000 名を無作為に抽出し、郵送によるアンケート調査を実施しました(千葉県子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査)。委員会では、調査の集計結果から、県民の子育て意識や児童虐待についての意識、支援サービスの利用に関する意識などの現状を分析・評価し、平成 18 年 3 月に「千葉県子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査 結果報告書」としてとりまとめました。

そして、平成 18 年度には、これらの調査結果を踏まえ、「児童虐待についての広報の工夫」「児童虐待防止を図るための町村部における支援体制の強化」「子育て世代の特質にあったきめ細かな支援対策とその周知」「暴力の連鎖を断ち切るための支援体制整備」という 4 つの課題を特に県が早急に取り組むべき事柄として指摘したところです。

このうち、「子育て世代の特質にあったきめ細かな支援対策とその周知」についての具体的な方策を検討するため、平成 19 年度には、県内の 1 歳 6 か月の子どもを持つ親 1,264 名に対して、郵送によるアンケート調査を実施するとともに、回答者の中から抽出した 47 名に対し、インタビュー調査を実施しました。

委員会では、調査の結果を踏まえ、子育て支援サービスにおける情報収集の方法、サービスの利用状況や利用しない(できない)理由などの現状を分析し、本報告書にまとめました。

今後、委員会では、これらの調査結果から、子育て支援サービスにおける情報提供の方法、利用しやすいサービスや相談体制のあり方など、児童虐待を未然に防止するための具体的な施策について提言を行うとともに、平成 17 年度に実施した意識調査の結果なども踏まえ、最終報告をとりまとめる予定です。

虐待防止を実現するには、関係機関それぞれの積極的な取組みは無論のこと、県民一人ひとりの理解と協力が不可欠です。本調査研究の成果が関係者のみならず、広く県民の方々に共有・活用されることで、かけがえのない子どもの命と福祉が守られるとともに、子どもたちを産み育てやすい地域づくりに寄与できることを願っております。

最後になりましたが、本調査を実施するに当たり、ご協力下さった方々に対し、厚く感謝申し上げます。次第です。

平成 21 年 3 月

千葉県社会福祉審議会児童福祉専門分科会

社会的養護検討部会児童虐待防止調査研究委員会委員長

才村 純

児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査 結果報告書

はじめに	1
・調査の目的	3
・調査の方法	3
1．アンケート調査	3
(1)目的	3
(2)方法	3
(3)調査時期	3
(4)調査地区及び配布総数	3
(5)調査内容	4
2．インタビュー調査	4
(1)目的	4
(2)方法	4
(3)調査時期	4
(4)対象都市の選定について	4
(5)インタビュー対象者の選定	5
(6)調査内容	5
3．分析の方法	6
4．検討の経過	6
・調査結果	8
1．アンケート調査結果	8
(1)回収率	8
(2)健診受診児童の属性	8
(3)回答者の属性	11
(4)日常的な親子の外出先	12
(5)外出先の選定基準	16
(6)情報取得の方法	17
(7)育児をする上での気持ち・周りの人との関係	19
(8)必要とする子育て支援サービス	21
(9)地域の子育て支援サービスについての認知、利用経験、今後の利用（参加）意向	23
(10)外出への積極性	40
(11)家庭訪問型サービスの利用の意向	41
(12)子育てで困った経験のエピソード	42
2．インタビュー調査結果	50
(1)インタビュー調査実施都市の特徴（アンケート結果）及び調査実施実績	51
(2)インタビュー対象者の属性	51
(3)情報提供	52
(4)居場所提供	56
(5)相談	58
(6)一時的保育	60
(7)家庭訪問型支援	64
(8)自治体への要望	64
3．調査結果から導き出される課題と対応策	67
課題	67
対応策	70
資料：アンケート調査票	72
インタビュー調査結果概要	83

・調査の目的

本調査は「千葉県子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査」(平成17年度実施)の結果に基づき、平成18年度に本委員会で検討した「児童虐待防止に県が取り組むべき課題」のうち、「子育て世代の特質にあったきめ細やかな支援対策とその周知」を取り上げ、児童虐待の未然防止という観点から、専業主婦のニーズに焦点をあてた子育て支援サービスの拡充、及び、子育て支援サービスに関する情報の効果的な提供への対応策を検討するために実施したものである。

具体的には、1歳6か月の子どもを持つ保護者に対して、現在の子育て支援サービスの利用の状況や情報収集の方法などを聞くことにより、子育て支援サービスを利用する上での問題点や課題を把握し、子育て支援サービスを利用しやすいものとするための方策を検討することを目的として行った。特に、現在子育て支援サービスを利用していない未利用者に対して、利用していない、または、できない理由を明らかにすることにより、未利用者をサービスにつなげるための課題を抽出し、今後の子育て支援サービスのあり方を検討するための資料とすることとした。

・調査の方法

本調査はアンケート調査及びインタビュー調査により実施した。

1. アンケート調査

(1) 目的

1歳6か月児を持つ保護者の子育て支援サービスの利用実態、情報収集や地域の子育て支援サービスの認知などを把握すること、及び、インタビュー調査対象者候補を確保することを目的とした。

(2) 方法

1歳6か月児を持つ保護者への質問紙調査(「地域の子育て支援サービスの活用に関するアンケート」)を実施した。調査対象都市の保健センターの協力を得て、1歳6か月健康診査の案内に質問紙を同封し、健診当日に問診票と一緒に回収した。なお、一部地区の保健センターでは健診当日配布・回収した。

(3) 調査時期 平成19年10月～12月

(4) 調査地区及び配布総数

平成17年度意識調査対象市町村の中から、都市規模や地域性を考慮し絞り込みをした上で、1歳6か月健康診査での質問紙配布に協力が可能であった以下の8都市を選定した。調査対象都市及び配布数は表1の通りである。

表1 対象都市及び配布数

地域名	都市名	配布数
葛南・東葛地域	浦安市	392
	柏市	284
印旛地域	佐倉市	211
香取・海匝地域	旭市	107
山武・夷隅地域	東金市	70
	いすみ市	56
君津・安房地域	木更津市	112
	南房総市	32
合計		1,264

(5) 調査内容

健診受診児童及び家族の属性

健診受診児童（1歳6か月健診の対象児童）のきょうだい数及び出生順位、性別
同居家族、家族人数、保育所の定期的利用の有無、利用頻度

回答者の属性

子どもとの関係、年齢、就労の有無、就労形態、住居形態、居住年数

健診受診児との日常的な外出先

よく行く場所、移動手段、所要時間、頻度

外出先の選択基準

情報の収集手段

育児をする上での気持ちや周りの人との関係

毎日の充実、子育てへの自信、子育てのストレス

子どもを見てくれる存在、子どものことを話し合える存在

育児について教えてくれる存在、配偶者の育児協力度

必要とする子育て支援サービスの機能

地域の子育て支援サービスの認知、利用経験、利用意向、利用したくない理由

子どもとの外出への積極性、積極的でない理由

家庭訪問型サービスの利用意向、利用したいサービス

子育てで「本当に困った！」経験のエピソード

インタビュー調査への協力の可否

2. インタビュー調査

(1) 目的

インタビュー調査はアンケート調査の結果を踏まえ、子育て支援サービスを利用していない子育て家庭が利用に至らない要因を探ることを目的として行った。インタビュー対象者が子育て支援サービスを利用している場合には、利用に至ったプロセスを聞くことにより、未利用者をサービスにつなげるためのサービス提供のあり方を検討する。

(2) 方法

インタビュー会場を設定し（一部、家庭訪問にて実施）、1人約40分で、半構造化面接（ ）を実施した。

半構造化面接：質問項目の大枠を用意しておくが、被験者の応答により、ある程度の自由度をもって進める形の面接

(3) 調査時期 平成20年1月～2月

(4) 対象都市の選定について

本調査の目的（子育て支援サービスに結びついていない子育て家庭をいかにサービスに結びつけることができるか）に照らし合わせ、アンケート調査結果より、子育て支援サービスを必要とする家庭（核家族世帯、専業主婦）が多いと考えられる地域であり、子育て支援サービスが整備されているにもかかわらず、利用に結びついていない実態を聞くことが可能と思われる対象者のいる地域を選定した。

表2 対象都市名

地域名	都市名
葛南・東葛地域	浦安市
	柏市
山武・夷隅地域	東金市
君津・安房地域	木更津市

地域の特性（都市型、中間型、農村型）及び子育て支援サービスの整備状況による違いを把握するために、特性の異なる4都市を選定した（表2）。

（5）インタビュー対象者の選定

インタビュー対象者は、アンケート調査において、インタビュー調査に協力できる（できるかもしれない）と回答した協力者のうち、アンケートで無職と回答していることを条件とし、子どもの出生順位、同居家族の有無、日常的な外出行動や子育て支援サービスの認知及び利用度、外出への積極性などの回答についてチェックし選定した上で、調査日当日の協力が得られた対象者に依頼した。

（6）調査内容

外出時の困難性

子どもの属性及びサポート体制の有無

子どもの出生順位・きょうだい数、同居家族の有無、及び夫婦の実家との関係及び距離、夫の育児協力度、家族以外の支援者や友人の有無 など

これまでもっとも必要だと思った子育て支援サービスについて

サービスの種類・内容、そのサービスについての利用実態、情報取得ルート

利用のしやすさ、利用の満足度、利用に至らなかった理由及び利用のための条件

一時的保育について

一時的に子どもの保育を頼める存在 頼める人がいる場合、その人との関係

一時的保育サービスの認知、利用経験、利用への意向、抵抗感

利用したときの気持ち（良かったこと、気になったこと、その後の利用の継続）

利用できなかった理由、利用のための条件、今後の利用意向 など

居場所提供について

子どもとよく行く場所

地域にある居場所提供型サービスの認知、利用経験、利用意向

利用後の評価、利用のための条件、今後の利用意向 など

情報提供について

子育てや子育て支援に関する情報収集の方法

現在の情報収集の方法で十分な情報が得られているか、

適切な情報提供場所、必要な情報内容

相談

子育てに関する悩みなどを相談できる人の有無 相談できる人がいる場合、その人との関係、

相談機関の認知、相談内容（可能であれば）、実際の相談経験

利用しやすい相談体制（場所、形態、対応者 など）

家庭訪問型支援

利用意向、利用したいサービス、利用のための条件、利用したくない理由 など

就労意欲

働きたい意志があるのに働けない状態なのか、自ら望んで家庭で子育てをしているか など

3. 分析の方法

子育て支援サービスの整備の状況なども含めた地域特性、対象者の属性を考慮しながら結果を整理し、子育て支援サービスの利用につながらない理由や、利用を促進するための方策について具体的意見を抽出し、考えられる方法や今後の課題を検討する。

4. 検討の経過

(1) 検討の経過

開催日	回数	検討内容
平成17年 11月28日	第1回 児童虐待防止調査研究委員会	・児童虐待防止調査研究委員会の取り組み方針について ・17年度の調査研究について
平成18年 3月29日	第2回 児童虐待防止調査研究委員会	・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査』結果報告 ・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査』のまとめについて
平成18年 4月28日	第3回 児童虐待防止調査研究委員会	・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査』の結果についての協議
平成18年 5月19日	第4回 児童虐待防止調査研究委員会	・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する住民の意識調査』結果について ・調査報告書の内容及び課題についての検討
平成18年 7月31日	第5回 児童虐待防止調査研究委員会	・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する住民の意識調査』の最終取りまとめ ・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する住民の意識調査』から見出された課題と対応についての協議
平成18年 12月21日	第6回 児童虐待防止調査研究委員会	・『千葉県 子育て支援・児童虐待防止に関する意識調査』結果から導き出される課題と対応策についての協議 ・平成19年度の調査研究について
平成19年 7月24日	第7回 児童虐待防止調査研究委員会	・『児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査』(案)の検討 ・平成20年度の調査研究について
平成20年 3月18日	第8回 児童虐待防止調査研究委員会	・『児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査』の調査結果について
平成20年 8月8日	第9回 児童虐待防止調査研究委員会	・『児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査』結果について ・『児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査』結果から導き出される対応策について
平成20年 11月17日	第10回 児童虐待防止調査研究委員会	・『児童虐待未然防止のための養育支援サービスのあり方に関する調査』結果報告書の取りまとめについて

(2) 児童虐待防止調査研究委員

氏名	分野	所属(役職)
井上 信久和(副委員長)	学識経験者	聖徳大学人文学部心理学科(教授)
内田 徳子	法律	柏綜合法律事務所 (千葉県弁護士会子どもの権利委員会委員)
小関 智子	教育	成田市立久住第一小学校(校長)(平成18年3月まで)
齊藤 万比古	精神医療	国立国際医療センター国府台病院(第2病棟部長)
才村 純(委員長)	学識経験者	関西学院大学人間福祉学部人間科学科(教授)
椎名 英夫	保育	千葉県保育協議会(副会長) (次世代育成支援を推進する千葉県民会議委員)
鈴木 教義	幼稚園	全千葉県私立幼稚園連合会(常任理事)
森田 雄司	児童養護施設	子山ホーム(施設長)
丁子 源三郎	民生児童委員	千葉県民生委員・児童委員協議会(会長)

(3) 事務局

千葉県健康福祉部児童家庭課 虐待防止対策室	〒260-8667	千葉市中央区市場町1番1号
-----------------------	-----------	---------------

(4) 調査実施機関

有限会社 エムアンドエムインク 子どもの領域研究所	〒152-0004	東京都目黒区鷹番1-13-20-202
---------------------------	-----------	---------------------

・調査結果

1. アンケート調査結果

(1) 回収率

アンケート調査の有効回収数 867 件、有効回収率は 68.6%であった(表 1)。

表 1 アンケート調査の配布数及び回収数

		配布数	有効回収数	有効回収率	インタビュー協力者
葛南・東葛地域	浦安市	392	286	73.0%	55(42)
	柏市	284	157	55.3%	35(24)
印旛地域	佐倉市	211	129	61.1%	27(16)
香取・海匝地域	旭市	107	86	80.4%	16(6)
山武・夷隅地域	東金市	70	62	88.6%	11(7)
	いすみ市	56	31	55.4%	9(3)
君津・安房地域	木更津市	112	84	75.0%	23(14)
	南房総市	32	32	100.0%	6(4)
合 計		1,264	867	68.6%	182(116)

*インタビュー協力者()内は「無職」と回答した人の数

(2) 健診受診児童の属性

1) きょうだい数及び出生順位、性別

健診受診児童の出生順位は、第 1 子が約半数(50.4%)が最も多く、第 2 子が 35.8%であった(表 2-1-1)。きょうだい数(表 2-1-2)は 1 人が最も多く(48.2%)、2 人が 36.7%と続いた。きょうだい数と出生順位の割合が近似していることから、健診受診児が末子であることがうかがえる。また、表は掲載していないが、健診受診児童がきょうだい数 2 人の第 1 子である例が 19 件(2.2%)含まれていた。

都市別の特徴を見ると、いすみ市、木更津市などできょうだい数が多い傾向が見られた。

子どもの性別(表 2-1-3)については全体ではおおよそ男女半分ずつであった。

表2-1-1 出生順位(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	出生順位						
		総数	第1子	第2子	第3子	第4子	第6子	無回答
都市別	全体	867	437	310	93	21	1	5
		100.0	50.4	35.8	10.7	2.4	0.1	0.6
	浦安市	286	146	108	26	5	0	1
		100.0	51.0	37.8	9.1	1.7	0.0	0.3
	柏市	157	87	49	16	4	1	0
		100.0	55.4	31.2	10.2	2.5	0.6	0.0
	佐倉市	129	66	43	15	3	0	2
		100.0	51.2	33.3	11.6	2.3	0.0	1.6
	旭市	86	43	29	10	3	0	1
		100.0	50.0	33.7	11.6	3.5	0.0	1.2
東金市	62	29	28	4	1	0	0	
	100.0	46.8	45.2	6.5	1.6	0.0	0.0	
いすみ市	31	15	12	4	0	0	0	
	100.0	48.4	38.7	12.9	0.0	0.0	0.0	
木更津市	84	37	29	15	2	0	1	
	100.0	44.0	34.5	17.9	2.4	0.0	1.2	
南房総市	32	14	12	3	3	0	0	
	100.0	43.8	37.5	9.4	9.4	0.0	0.0	

表2-1-2 きょうだい数(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	きょうだい数						
		総数	1人	2人	3人	4人	6人	無回答
都市別	全体	867	418	318	103	21	1	6
		100.0	48.2	36.7	11.9	2.4	0.1	0.7
	浦安市	286	141	112	27	5	0	1
		100.0	49.3	39.2	9.4	1.7	0.0	0.3
	柏市	157	85	49	18	4	1	0
		100.0	54.1	31.2	11.5	2.5	0.6	0.0
	佐倉市	129	62	48	15	3	0	1
		100.0	48.1	37.2	11.6	2.3	0.0	0.8
	旭市	86	39	33	10	3	0	1
		100.0	45.3	38.4	11.6	3.5	0.0	1.2
東金市	62	29	24	8	1	0	0	
	100.0	46.8	38.7	12.9	1.6	0.0	0.0	
いすみ市	31	14	11	6	0	0	0	
	100.0	45.2	35.5	19.4	0.0	0.0	0.0	
木更津市	84	35	29	16	2	0	2	
	100.0	41.7	34.5	19.0	2.4	0.0	2.4	
南房総市	32	13	12	3	3	0	1	
	100.0	40.6	37.5	9.4	9.4	0.0	3.1	

表2-1-3 子どもの性別(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	子どもの性別			
		総数	男	女	無回答
都市別	全体	867	448	418	1
		100.0	51.7	48.2	0.1
	浦安市	286	150	136	0
		100.0	52.4	47.6	0.0
	柏市	157	73	84	0
		100.0	46.5	53.5	0.0
	佐倉市	129	64	65	0
		100.0	49.6	50.4	0.0
	旭市	86	51	35	0
		100.0	59.3	40.7	0.0
東金市	62	33	29	0	
	100.0	53.2	46.8	0.0	
いすみ市	31	14	17	0	
	100.0	45.2	54.8	0.0	
木更津市	84	42	41	1	
	100.0	50.0	48.8	1.2	
南房総市	32	21	11	0	
	100.0	65.6	34.4	0.0	

2) 世帯構成及び家族人員

世帯構成(表2-2-1)については、全体では夫婦と子どもからなる核家族が最も多く(77.5%)、祖母などの同居家族のいる家庭は2割(20.8%)であった。ひとり親家庭は全体でも5件(0.5%)と極めて少なかった。また、家族人数(表2-2-2)については、夫婦と子ども1人の3人(29.5%)、夫婦と子ども2人の場合などの4人(28.0%)が多く、人数が増えるにつれ、割合は減少した。

都市別には大きな特徴がみられ、浦安市で同居家族ありが1割に満たないのに対して、旭市(55.8%)、いすみ市(41.9%)、南房総市(31.3%)などは同居家族のいる割合が非常に高かった。また、同居家族のいる世帯が多いこれらの地区では、家族の人数が多い傾向が見られた。

表2-2-1 世帯構成(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	世帯構成					無回答
		総数	核家族		同居家族あり		
			夫婦と子ども	ひとり親と子ども	夫婦と子ども同居家族	ひとり親と子ども同居家族	
都市別	全体	867	672	2	180	3	10
		100.0	77.5	0.2	20.8	0.3	1.2
	浦安市	286	258	0	25	0	3
		100.0	90.2	0.0	8.7	0.0	1.0
	柏市	157	131	0	23	2	1
		100.0	83.4	0.0	14.6	1.3	0.6
	佐倉市	129	99	1	27	1	1
		100.0	76.7	0.8	20.9	0.8	0.8
	旭市	86	35	1	48	0	2
		100.0	40.7	1.2	55.8	0.0	2.3
東金市	62	46	0	16	0	0	
	100.0	74.2	0.0	25.8	0.0	0.0	
いすみ市	31	18	0	13	0	0	
	100.0	58.1	0.0	41.9	0.0	0.0	
木更津市	84	65	0	18	0	1	
	100.0	77.4	0.0	21.4	0.0	1.2	
南房総市	32	20	0	10	0	2	
	100.0	62.5	0.0	31.3	0.0	6.3	

表2-2-2 家族人数(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	家族人数						
		総数	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
都市別	全体	867	2	256	243	114	114	138
		100.0	0.2	29.5	28.0	13.1	13.1	15.9
	浦安市	286	0	95	90	31	13	57
		100.0	0.0	33.2	31.5	10.8	4.5	19.9
	柏市	157	0	61	38	19	15	24
		100.0	0.0	38.9	24.2	12.1	9.6	15.3
	佐倉市	129	1	39	38	18	18	15
		100.0	0.8	30.2	29.5	14.0	14.0	11.6
	旭市	86	1	15	20	11	33	6
		100.0	1.2	17.4	23.3	12.8	38.4	7.0
東金市	62	0	12	21	11	7	11	
	100.0	0.0	19.4	33.9	17.7	11.3	17.7	
いすみ市	31	0	7	7	5	7	5	
	100.0	0.0	22.6	22.6	16.1	22.6	16.1	
木更津市	84	0	21	22	15	13	13	
	100.0	0.0	25.0	26.2	17.9	15.5	15.5	
南房総市	32	0	6	7	4	8	7	
	100.0	0.0	18.8	21.9	12.5	25.0	21.9	

3) 保育所の利用

保育所の利用(表2-3-1)については、利用なしが78.7%で多く、保育所の利用ありは約2割(19.9%)にとどまっていた。そのうち、利用頻度(利用日数や利用時間)から判断して、通常保育としての利用は15.0%であり、一時保育や特定保育の利用(一部、保育所での子育て支援の利用が含まれる)と判断されるものが4.0%あった。都市別の利用状況をみると、特に南房総市で通常保育の利用が多い(21.9%)ほかは大きな差は見られなかった。

次に、母親の就労状況をみると(表2-3-2)全体では無職が4分の3(72.6%)を占め、有職が27.3%であった。都市別では、浦安市、柏市、佐倉市、東金市、木更津市については概ね全体の割合と同じ割合であるところ、いすみ市、旭市、南房総市は就労率が高かった(順に45.2%、43.9%、38.7%)。また、これらの三都市については、同居家族がいる割合が高いという点でも共通していた。保育所の利用割合では大きな差が見られなかったが、就労状況に差が見られることから、保育所を利用しない場合は同居家族が子どもの養育を担っていることがうかがえた。

さらに、有職の場合の就労形態(表2-3-3)については、全体では、フルタイム勤務(43.7%)、パート勤務(26.8%)、自営業、育児休業中(共に10.0%)の順に多かったが、都市別に見ると、浦安市にフルタイム勤務者が多く(66.7%)、東金市、木更津市、南房総市ではパート勤務がフルタイム勤務を上回っていた。一方、旭市では約3割が自営業であるという特徴がみられた。

表2-3-1 保育所の利用(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	総数	保育所利用あり			保育所 利用なし	無回答	
			通常保育	一時保育 特定保育	その他			
全体		867	173	130	35	8	682	12
		100.0	19.9	15.0	4.0	0.9	78.7	1.4
浦安市		286	59	44	14	1	223	4
		100.0	20.6	15.4	4.9	0.3	78.0	1.4
柏市		157	34	25	6	3	123	0
		100.0	21.6	15.9	3.8	1.9	78.3	0.0
佐倉市		129	23	17	4	2	104	2
		100.0	17.9	13.2	3.1	1.6	80.6	1.6
旭市		86	15	12	2	1	71	0
		100.0	17.5	14.0	2.3	1.2	82.6	0.0
東金市		62	12	8	4	0	47	3
		100.0	19.4	12.9	6.5	0.0	75.8	4.8
いすみ市		31	7	5	2	0	24	0
		100.0	22.6	16.1	6.5	0.0	77.4	0.0
木更津市		84	15	12	3	0	67	2
		100.0	17.9	14.3	3.6	0.0	79.8	2.4
南房総市		32	8	7	0	1	23	1
		100.0	25.0	21.9	0.0	3.1	71.9	3.1

表2-3-2 母親の就労の有無(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	母親就労の有無			
		総数	無職	有職	無回答
全体		847	615	231	1
		100.0	72.6	27.3	0.1
浦安市		279	221	57	1
		100.0	79.2	20.4	0.4
柏市		155	119	36	0
		100.0	76.8	23.2	0.0
佐倉市		128	92	36	0
		100.0	71.9	28.1	0.0
旭市		82	46	36	0
		100.0	56.1	43.9	0.0
東金市		59	42	17	0
		100.0	71.2	28.8	0.0
いすみ市		31	17	14	0
		100.0	54.8	45.2	0.0
木更津市		82	59	23	0
		100.0	72.0	28.0	0.0
南房総市		31	19	12	0
		100.0	61.3	38.7	0.0

表2-3-3 母親の就労形態(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	母親の就労形態						無回答
		総数	フルタイム 勤務	パート勤 務	自営業	育休中	その他	
全体		231	101	62	23	23	16	6
		100.0	43.7	26.8	10.0	10.0	6.9	2.6
浦安市		57	38	9	2	1	7	0
		100.0	66.7	15.8	3.5	1.8	12.3	0.0
柏市		36	17	12	2	3	2	0
		100.0	47.2	33.3	5.6	8.3	5.6	0.0
佐倉市		36	13	7	2	9	4	1
		100.0	36.1	19.4	5.6	25.0	11.1	2.8
旭市		36	15	6	11	1	2	1
		100.0	41.7	16.7	30.6	2.8	5.6	2.8
東金市		17	3	7	3	3	0	1
		100.0	17.6	41.2	17.6	17.6	0.0	5.9
いすみ市		14	4	4	1	3	1	1
		100.0	28.6	28.6	7.1	21.4	7.1	7.1
木更津市		23	7	11	2	2	0	1
		100.0	30.4	47.8	8.7	8.7	0.0	4.3
南房総市		12	4	6	0	1	0	1
		100.0	33.3	50.0	0.0	8.3	0.0	8.3

(3) 回答者の属性

回答者(表3-1)は母親が圧倒的に多く、父親が14件(1.6%)であった。その他は2件(0.2%)あったのみであるが、父母が一緒に回答したものと、祖母によるものだった。

回答者の年齢(表3-2)は30代が最も多く(66.8%)、次いで20代(26.8%)であった。都市別に見ると、木更津市(38.1%)、いすみ市(35.5%)などでは20代が多く、浦安市(20.3%)では20代が少なく、30代(71.7%)が他の都市よりも多かった。

住居の形態(表3-3)は、全体では集合住宅(52.1%)、一戸建て(46.9%)と2分されているが、都市別には特徴がみられた。集合住宅が多いのは浦安市(82.5%)で、一戸建ての割合は非常に少ない。次に集合住宅が多いのが柏市で、全体の割合とほぼ同様であった。佐倉市、木更津市はその割合が逆転し、一戸建てが集合住宅より約20ポイント多くなっていた。残る4市はいずれも一戸建ての割合が高く、多い順に東金市(82.3%)、南房総市(78.1%)、いすみ市(74.2%)、旭市(72.1%)であった。

次に、居住年数(表3-4)については、1年から3年未満(29.5%)、3年から5年未満(23.8%)が多かった。都市別に見ると、柏市(43.3%)、佐倉市(42.6%)、木更津市(41.7%)では3年未満が比較的多く、東金市(43.6%)、いすみ市(42.0%)、旭市(40.7%)では5年以上が多い傾向が見られた。居住年数の長い地域は同居家族のいる世帯の多い市とも重なりが見られた。

表3-1 回答者の属性(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	回答者の属性				
		総数	母親	父親	その他	無回答
全体	867	847	14	2	4	
浦安市	100.0	97.7	1.6	0.2	0.5	
柏市	286	279	3	1	3	
佐倉市	100.0	97.6	1.0	0.3	1.0	
旭市	157	155	2	0	0	
東金市	100.0	98.7	1.3	0.0	0.0	
いすみ市	129	128	1	0	0	
木更津市	100.0	99.2	0.8	0.0	0.0	
南房総市	86	82	3	1	0	
全体	100.0	95.3	3.5	1.2	0.0	
浦安市	62	59	2	0	1	
柏市	100.0	95.2	3.2	0.0	1.6	
佐倉市	31	31	0	0	0	
旭市	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
東金市	84	82	2	0	0	
いすみ市	100.0	97.6	2.4	0.0	0.0	
木更津市	32	31	1	0	0	
南房総市	100.0	96.9	3.1	0.0	0.0	

表3-2 回答者の年齢(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	回答者の年齢				
		総数	10代	20代	30代	40代以上
全体	867	1	232	579	52	3
浦安市	100.0	0.1	26.8	66.8	6.0	0.3
柏市	286	0	58	205	21	2
佐倉市	100.0	0.0	20.3	71.7	7.3	0.7
旭市	157	0	43	108	6	0
東金市	100.0	0.0	27.4	68.8	3.8	0.0
いすみ市	129	0	34	83	12	0
木更津市	100.0	0.0	26.4	64.3	9.3	0.0
南房総市	86	0	25	56	5	0
全体	100.0	0.0	29.1	65.1	5.8	0.0
浦安市	62	1	19	39	2	1
柏市	100.0	1.6	30.6	62.9	3.2	1.6
佐倉市	31	0	11	19	1	0
旭市	100.0	0.0	35.5	61.3	3.2	0.0
東金市	84	0	32	49	3	0
いすみ市	100.0	0.0	38.1	58.3	3.6	0.0
木更津市	32	0	10	20	2	0
南房総市	100.0	0.0	31.3	62.5	6.3	0.0

表3-3 住居形態(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	住居形態		
		総数	一戸建て	集合住宅
全体	867	407	452	8
浦安市	100.0	46.9	52.1	0.9
柏市	286	47	236	3
佐倉市	100.0	16.4	82.5	1.0
旭市	157	72	84	1
東金市	100.0	45.9	53.5	0.6
いすみ市	129	75	54	0
木更津市	100.0	58.1	41.9	0.0
南房総市	86	62	24	0
全体	100.0	72.1	27.9	0.0
浦安市	62	51	9	2
柏市	100.0	82.3	14.5	3.2
佐倉市	31	23	8	0
旭市	100.0	74.2	25.8	0.0
東金市	84	52	31	1
いすみ市	100.0	61.9	36.9	1.2
木更津市	32	25	6	1
南房総市	100.0	78.1	18.8	3.1

表3-4 居住年数(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	居住年数					
		総数	1年未満	1年~	3年~	5年~	10年~
全体	867	74	256	206	182	120	29
浦安市	100.0	8.5	29.5	23.8	21.0	13.8	3.3
柏市	286	22	86	74	71	25	8
佐倉市	100.0	7.7	30.1	25.9	24.8	8.7	2.8
旭市	157	17	51	33	36	16	4
東金市	100.0	10.8	32.5	21.0	22.9	10.2	2.5
いすみ市	129	15	40	28	23	21	2
木更津市	100.0	11.6	31.0	21.7	17.8	16.3	1.6
南房総市	86	4	22	18	14	21	7
全体	100.0	4.7	25.6	20.9	16.3	24.4	8.1
浦安市	62	3	19	10	13	14	3
柏市	100.0	4.8	30.6	16.1	21.0	22.6	4.8
佐倉市	31	2	5	9	6	7	2
旭市	100.0	6.5	16.1	29.0	19.4	22.6	6.5
東金市	84	10	25	22	15	10	2
いすみ市	100.0	11.9	29.8	26.2	17.9	11.9	2.4
木更津市	32	1	8	12	4	6	1
南房総市	100.0	3.1	25.0	37.5	12.5	18.8	3.1

(4) 日常的な親子の外出先

1) 記入された箇所数

「ふだんの日に子ども(健診対象児)とよく行く場所」について3つまで自由に記入してもらった。記入された箇所数(表4-1)は、3カ所が最も多く(59.2%)、2カ所、1カ所と続いた。

表4-1 ふだんの日の外出先 記入カ所数(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	記入カ所数				
		総数	1カ所	2カ所	3カ所	0カ所
全体	867	105	182	513	67	
	100.0	12.1	21.0	59.2	7.7	
浦安市	286	21	49	196	20	
	100.0	7.3	17.1	68.5	7.0	
柏市	157	22	40	87	8	
	100.0	14.0	25.5	55.4	5.1	
佐倉市	129	19	27	72	11	
	100.0	14.7	20.9	55.8	8.5	
旭市	86	14	15	45	12	
	100.0	16.3	17.4	52.3	14.0	
東金市	62	9	13	34	6	
	100.0	14.5	21.0	54.8	9.7	
いすみ市	31	4	9	15	3	
	100.0	12.9	29.0	48.4	9.7	
木更津市	84	12	19	47	6	
	100.0	14.3	22.6	56.0	7.1	
南房総市	32	4	10	17	1	
	100.0	12.5	31.3	53.1	3.1	

2) 外出先としてあげられた場所

記入された外出先の総数は2008カ所であった。それを場所別に分類した結果(表4-2)では、公園が最も多く(27.3%)、続く商業施設(25.5%)もほぼ同じ割合で、この2つが全体の半分を占めた。その他では、実家などの親戚の家(12.6%)、友人の家(7.0%)があげられた。

(なお、回答者別外出先記入の有無は14ページに記載)

表4-2 外出先の分類

	総数	子育て支援施設			児童館	多目的公共施設	図書館	保育所・幼稚園・小学校			
		子育て支援センター	つどいの広場	子育てサロン				園庭開放	通園	きょうだいの送迎	その他
全体	2008	82	18	4	80	36	24	44	17	24	28
	100.0	4.1	0.9	0.2	4.0	1.8	1.2	2.2	0.8	1.2	1.4
浦安市	709	50	10	3	18	11	10	8	4	13	14
	100.0	7.1	1.4	0.4	2.5	1.6	1.4	1.1	0.6	1.8	2.0
柏市	364	10	0	1	15	9	6	14	8	2	0
	100.0	2.7	0.0	0.3	4.1	2.5	1.6	3.8	2.2	0.5	0.0
佐倉市	289	10	0	0	27	2	6	13	2	1	5
	100.0	3.5	0.0	0.0	9.3	0.7	2.1	4.5	0.7	0.3	1.7
旭市	179	2	8	0	2	5	0	4	0	1	1
	100.0	1.1	4.5	0.0	1.1	2.8	0.0	2.2	0.0	0.6	0.6
東金市	137	1	0	0	10	1	1	2	1	5	1
	100.0	0.7	0.0	0.0	7.3	0.7	0.7	1.5	0.7	3.6	0.7
いすみ市	65	1	0	0	8	0	0	1	0	1	2
	100.0	1.5	0.0	0.0	12.3	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	3.1
木更津市	190	8	0	0	0	7	0	2	2	1	5
	100.0	4.2	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	1.1	1.1	0.5	2.6
南房総市	75	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	公園	商業施設	実家・きょうだいなど親戚の家	友人の家	集合住宅内公園、施設	習い事		自然の場所		その他
							子ども本人	きょうだい、親	緑道	その他	
全体	2008	549	512	254	141	32	35	9	4	22	93
	100.0	27.3	25.5	12.6	7.0	1.6	1.7	0.4	0.2	1.1	4.6
浦安市	709	232	187	38	48	18	20	4	4	0	17
	100.0	32.7	26.4	5.4	6.8	2.5	2.8	0.6	0.6	0.0	2.4
柏市	364	104	84	43	28	5	9	2	0	3	21
	100.0	28.6	23.1	11.8	7.7	1.4	2.5	0.5	0.0	0.8	5.8
佐倉市	289	67	71	48	21	6	0	0	0	0	10
	100.0	23.2	24.6	16.6	7.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5
旭市	179	50	38	37	10	1	2	1	0	4	13
	100.0	27.9	21.2	20.7	5.6	0.6	1.1	0.6	0.0	2.2	7.3
東金市	137	32	38	23	8	0	3	1	0	1	9
	100.0	23.4	27.7	16.8	5.8	0.0	2.2	0.7	0.0	0.7	6.6
いすみ市	65	12	14	12	5	0	0	0	0	5	4
	100.0	18.5	21.5	18.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	6.2
木更津市	190	43	59	36	13	2	1	1	0	1	9
	100.0	22.6	31.1	18.9	6.8	1.1	0.5	0.5	0.0	0.5	4.7
南房総市	75	9	21	17	8	0	0	0	0	8	10
	100.0	12.0	28.0	22.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	13.3

3) 移動手段

外出先までの移動手段(表4-3)は、全体では徒歩が最も多く(42.9%)、次いで車(39.2%)であり、その次の自転車(11.1%)とは差が見られた。バス、電車などの公共交通機関の利用は極めて少なかった。

都市別には特徴がみられており、車での移動が多い都市として、旭市(74.9%)、いすみ市(66.2%)、東金市(65.7%)、南房総市(64.0%)、木更津市(45.3%)があげられる。それに対して、徒歩または自転車での移動が多い都市として、浦安市(順に56.7%、18.6%)、柏市(順に47.8%、16.2%)などがあげられた。

表4-3 外出先までの移動手段(都市別)

	総数	徒歩	自転車	車	バス	電車	その他	無回答
全体	2008	862	222	787	27	13	10	87
	100.0	42.9	11.1	39.2	1.3	0.6	0.5	4.3
浦安市	709	402	132	123	23	11	6	12
	100.0	56.7	18.6	17.3	3.2	1.6	0.8	1.7
柏市	364	174	59	118	3	2	0	8
	100.0	47.8	16.2	32.4	0.8	0.5	0.0	2.2
佐倉市	289	123	12	145	1	0	1	7
	100.0	42.6	4.2	50.2	0.3	0.0	0.3	2.4
旭市	179	32	7	134	0	0	0	6
	100.0	17.9	3.9	74.9	0.0	0.0	0.0	3.4
東金市	137	39	7	90	0	0	0	1
	100.0	28.5	5.1	65.7	0.0	0.0	0.0	0.7
いすみ市	65	19	2	43	0	0	0	1
	100.0	29.2	3.1	66.2	0.0	0.0	0.0	1.5
木更津市	190	52	0	86	0	0	3	49
	100.0	27.4	0.0	45.3	0.0	0.0	1.6	25.8
南房総市	75	21	3	48	0	0	0	3
	100.0	28.0	4.0	64.0	0.0	0.0	0.0	4.0

4) 外出先までの所要時間

外出先までの所要時間(表4-4)を見ると、全体では10分以上15分未満(41.9%)が最も多く、次いで5分未満(19.0%)、5分以上10分未満(11.7%)であった。15分未満の合計は72.6%、約4分の3を占めていた。都市別に見ると、唯一、南房総市では15分未満が45.4%で半数に達しておらず、20分以上30分未満が22.7%あるという特徴が見られているが、地形的な事情が関連していることが推察された。

表4-4 外出先までの所要時間(都市別)

	総数	5分未満	5分以上	10分以上	15分以上	20分以上	30分以上	40分以上	50分以上	60分以上	無回答
全体	2008	382	235	842	213	149	73	29	6	21	58
	100.0	19.0	11.7	41.9	10.6	7.4	3.6	1.4	0.3	1.0	2.9
浦安市	709	126	60	358	73	37	21	10	1	4	19
	100.0	17.8	8.5	50.5	10.3	5.2	3.0	1.4	0.1	0.6	2.7
柏市	364	72	100	95	41	31	10	4	0	4	7
	100.0	19.8	27.5	26.1	11.3	8.5	2.7	1.1	0.0	1.1	1.9
佐倉市	289	51	22	131	26	27	12	3	1	4	12
	100.0	17.6	7.6	45.3	9.0	9.3	4.2	1.0	0.3	1.4	4.2
旭市	179	19	0	95	26	15	11	4	1	2	6
	100.0	10.6	0.0	53.1	14.5	8.4	6.1	2.2	0.6	1.1	3.4
東金市	137	16	34	49	16	7	7	1	2	2	3
	100.0	11.7	24.8	35.8	11.7	5.1	5.1	0.7	1.5	1.5	2.2
いすみ市	65	17	11	19	5	5	2	2	1	1	2
	100.0	26.2	16.9	29.2	7.7	7.7	3.1	3.1	1.5	1.5	3.1
木更津市	190	70	0	80	19	10	3	1	0	3	4
	100.0	36.8	0.0	42.1	10.0	5.3	1.6	0.5	0.0	1.6	2.1
南房総市	75	11	8	15	7	17	7	4	0	1	5
	100.0	14.7	10.7	20.0	9.3	22.7	9.3	5.3	0.0	1.3	6.7

移動手段別に所要時間を見ると、徒歩の場合は15分未満で84.9%、20分未満で92.3%、自転車が15分未満82.0%、20分未満で91.0%と概ね同じ傾向が示された。車の場合は、15分未満が61.1%、20分未満で77.0%であり、徒歩や自転車と比較すると所要時間をかけて外出していることがうかがわれた。

表4-5 外出先までの所要時間(移動手段別)

	総数	5分未満	5分以上	10分以上	15分以上	20分以上	30分以上	40分以上	50分以上	60分以上	無回答
全体	1921	333	234	839	213	149	73	29	6	21	24
	100.0	17.3	12.2	43.7	11.1	7.8	3.8	1.5	0.3	1.1	1.2
徒歩	862	257	106	369	64	34	17	2	0	1	12
	100.0	29.8	12.3	42.8	7.4	3.9	2.0	0.2	0.0	0.1	1.4
自転車	222	18	46	118	20	13	3	0	0	0	4
	100.0	8.1	20.7	53.2	9.0	5.9	1.4	0.0	0.0	0.0	1.8
車	787	58	82	341	125	91	39	23	5	18	5
	100.0	7.4	10.4	43.3	15.9	11.6	5.0	2.9	0.6	2.3	0.6
バス	27	0	0	7	2	10	7	1	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	25.9	7.4	37.0	25.9	3.7	0.0	0.0	0.0
電車	13	0	0	1	1	1	5	2	1	2	0
	100.0	0.0	0.0	7.7	7.7	7.7	38.5	15.4	7.7	15.4	0.0
その他	10	0	0	3	1	0	2	1	0	0	3
	100.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	30.0

5) 回答者別外出先記入の有無

回答者ごとに、外出先として分類した場所が記入されていたかどうか見たものが表4-6である。

ここでは、表4-2(場所別分類)であげられた分類項目のうち、多かったものや子育て支援に関連すると考えられる場所を取り上げ、記入された外出先に一つでもこれらの施設が含まれている場合に、「記入あり」としてカウントした(例えば、一人が公園を2箇所記入した場合、「記入あり」で1カウントとした)。また、子育て支援センター、つどいの広場、子育てサロンを子育て支援施設としてひとくくりにした。

これをみると、1歳6か月の子どもとの外出先として、全体の53.5%は公園に行っており、また、44.8%が商業施設に行っている。実家を記入したのは26.8%で全体の4分の1に相当する。また、友人の家に遊びに行く機会があるのは16.3%であった。

都市別に特徴を見ると、浦安市では公園(65.4%)、子育て支援施設(20.6%)の記入が他の都市より多いが、実家を記入した割合(11.9%)は他の都市より低かった。実家が多くあげられたのは、南房総市(46.9%)、木更津市(40.5%)などであった。南房総市では友人(25.0%)の割合も他の都市より高かった。商業施設が多くあげられたのは木更津市(56.0%)であり、いすみ市(35.5%)は少なかった。子育て支援に関連する施設の利用は先述の浦安市の他、旭市(11.6%)以外は低かったが、児童館はいすみ市(22.6%)、東金市(16.1%)、佐倉市(14.7%)などで記入が見られた。

表4-6 ふだんの日の外出先(都市別)

複数回答

上段:度数 下段:%	総数	子育て 支援施設	児童館	その他の 子育て 支援	保育園 幼稚園 開放	図書館	公園	商業施設	実家	友人宅	
都市別	全体	867	86	69	30	45	23	464	388	232	141
	100.0	100.0	9.9	8.0	3.5	5.2	2.7	53.5	44.8	26.8	16.3
	浦安市	286	59	18	11	9	10	187	134	34	48
	100.0	100.0	20.6	6.3	3.8	3.1	3.5	65.4	46.9	11.9	16.8
	柏市	157	3	13	4	14	6	89	67	41	28
	100.0	100.0	1.9	8.3	2.5	8.9	3.8	56.7	42.7	26.1	17.8
	佐倉市	129	6	19	2	13	6	61	54	44	21
	100.0	100.0	4.7	14.7	1.6	10.1	4.7	47.3	41.9	34.1	16.3
	旭市	86	10	2	4	4	0	42	34	32	10
	100.0	100.0	11.6	2.3	4.7	4.7	0.0	48.8	39.5	37.2	11.6
	東金市	62	0	10	0	2	0	26	27	22	8
	100.0	100.0	0.0	16.1	0.0	3.2	0.0	41.9	43.5	35.5	12.9
	いすみ市	31	1	7	2	1	0	11	11	10	5
	100.0	100.0	3.2	22.6	6.5	3.2	0.0	35.5	35.5	32.3	16.1
	木更津市	84	7	0	6	2	0	39	47	34	13
	100.0	100.0	8.3	0.0	7.1	2.4	0.0	46.4	56.0	40.5	15.5
	南房総市	32	0	0	1	0	1	9	14	15	8
	100.0	100.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	28.1	43.8	46.9	25.0

次に、「子育て支援拠点」を「乳幼児を持つ子育て家庭を対象に含む施設や空間であり、親子のためのプログラムが用意されていたり、年齢制限のある幼児専用の部屋や空間があり、そこに行くことで他の親子と交流することができる。さらには、気軽に相談などもできるスタッフがいる施設」として定義づけし、子育て支援施設（子育て支援センター、つどいの広場、子育てサロン）、児童館、その他の子育て支援（多目的公共施設）、保育園・幼稚園などの園庭開放のいずれかを利用しているかどうかを見たものが表4-7である。

全体では、23.8%が子育て支援拠点を記入している、つまり、いずれかの子育て支援拠点を利用している。都市別にはバラツキが見られ、最も多いのはいすみ市（35.5%）であり、浦安市（30.8%）、佐倉市（27.1%）、柏市（21.0%）などが続いた。

子育て支援拠点の記入の有無別（以下、子育て支援拠点の有無別）に外出先を見たものが表4-8であるが、子育て支援拠点なしの場合の特徴として、商業施設（56.4%）や実家（33.5%）が非常に多くあげられていた。一方、子育て支援拠点ありの場合は、商業施設（25.7%）や実家（16.0%）をあげる割合が低かった。

表4-7 子育て支援拠点の有無(都市別)

市町村名	上段:度数 下段:%	子育て支援拠点の有無			
		総数	あり	なし	無回答
市町村名	全体	867	206	594	67
		100.0	23.8	68.5	7.7
	浦安市	286	88	178	20
		100.0	30.8	62.2	7.0
	柏市	157	33	116	8
		100.0	21.0	73.9	5.1
	佐倉市	129	35	83	11
		100.0	27.1	64.3	8.5
	旭市	86	16	58	12
		100.0	18.6	67.4	14.0
東金市	62	10	46	6	
	100.0	16.1	74.2	9.7	
いすみ市	31	11	17	3	
	100.0	35.5	54.8	9.7	
木更津市	84	12	66	6	
	100.0	14.3	78.6	7.1	
南房総市	32	1	30	1	
	100.0	3.1	93.8	3.1	

表4-8 ふだんの日の外出先(子育て支援拠点の有無別)

複数回答

子育て支援拠点	上段:度数 下段:%	総数	子育て支援拠点の有無別								
			子育て支援施設	児童館	その他の子育て支援	保育園幼稚園開放	図書館	公園	商業施設	実家	友人宅
子育て支援拠点	全体	800	86	69	30	45	23	464	388	232	141
		100.0	10.8	8.6	3.8	5.6	2.9	58.0	48.5	29.0	17.6
	あり	206	86	69	30	45	4	116	53	33	39
	100.0	41.7	33.5	14.6	21.8	1.9	56.3	25.7	16.0	18.9	
なし	594	0	0	0	0	19	348	335	199	102	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	58.6	56.4	33.5	17.2	

(5) 外出先の選定基準

外出先を選ぶ際に重視することを3つまで選択してもらった結果(表5-1)は、全体では「自分たちのペースで過ごせる」が最も多く(45.8%)、次いで「同年代の子どもが多い」(31.3%)、「親も子どもと一緒に楽しめる」(28.1%)などが多く選択された項目であった。

都市別に見ると、「自分たちのペースで過ごせる」は木更津市(53.6%)やいすみ市(51.6%)で高い割合で選択されていた。また、「親も子どもと一緒に楽しめる」は浦安市(34.6%)、いすみ市(32.3%)などで高く、佐倉市(21.7%)、南房総市(21.9%)で低かった。「同年代の子どもが多い」は旭市(19.8%)の割合が低かった。その他、「予約や登録なしで利用できる」は柏市(28.7%)で割合が高く、南房総市は「子どもを遊ばせてくれる人がいて子どもと離れて過ごせる」(18.8%)の割合が高く、「親と子どもと一緒に楽しめる」(21.9%)、「親同士で話ができる」(9.4%)が他の都市と比較すると低いという特徴がみられた。また、「子どもが大声を出しても気にならない」は木更津市(28.6%)が他の都市より高い割合で選択されていた。

次に出生順位別(表5-2)に見ると、第3子以降では「同年代の子どもが多い」(24.3%)は第1子と比較して約10ポイント低く、また、「子どもが大声を出しても気にならない」(29.6%)が他と比較して多かった。

子育て支援拠点の有無別(表5-3)では、ありの場合は「同年代の子どもが多い」(53.4%)、「親同士で話ができる」(30.6%)、「遊びなどのプログラムが定期的であり自由に参加できる」(19.4%)、「予約や登録なしで利用できる」(27.2%)などの割合がなしと比較して高かった。

表5-1 外出先の選定基準(都市別)

複数回答

上段:度数		外出先の選定基準													
下段:%	総数	同年代の子どもが多い	遊びなどのプログラムが定期的であり自由に参加できる	自分たちのペースで過ごせる	予約や登録なしで利用できる	固定のメンバーが少ない	子どもを遊ばせてくれる人がいて子どもと離れて過ごせる	親も子どもと一緒に楽しめる	親同士で話ができる	子育てについての相談相手がいる	子ども用のトイレや授乳室などの設備が整っている	子どもが大声を出しても気にならない	その他	無回答	
都市別	全体	867	271	69	397	166	18	55	244	133	64	116	178	71	174
	100.0	31.3	8.0	45.8	19.1	2.1	6.4	28.3	15.3	7.4	13.4	20.5	8.2	20.1	
	浦安市	286	89	33	130	65	7	6	99	37	14	46	51	22	59
	100.0	31.1	11.5	45.5	22.7	2.4	2.1	34.6	12.9	4.9	16.1	17.8	7.7	20.6	
	柏市	157	57	9	76	45	2	9	39	28	10	22	32	8	29
	100.0	36.3	5.7	48.4	28.7	1.3	5.7	24.8	17.8	6.4	14.0	20.4	5.1	18.5	
	佐倉市	129	39	9	57	24	2	10	28	24	10	15	26	14	30
	100.0	30.2	7.0	44.2	18.6	1.6	7.8	21.7	18.6	7.8	11.6	20.2	10.9	23.3	
	旭市	86	17	5	31	9	3	7	24	9	5	6	22	7	27
	100.0	19.8	5.8	36.0	10.5	3.5	8.1	27.9	10.5	5.8	7.0	25.6	8.1	31.4	
	東金市	62	21	5	27	8	1	7	14	12	9	7	10	5	10
	100.0	33.9	8.1	43.5	12.9	1.6	11.3	22.6	19.4	14.5	11.3	16.1	8.1	16.1	
	いすみ市	31	11	4	16	2	1	4	10	5	3	3	6	2	3
	100.0	35.5	12.9	51.6	6.5	3.2	12.9	32.3	16.1	9.7	9.7	19.4	6.5	9.7	
	木更津市	84	27	2	45	11	2	6	23	15	9	8	24	12	11
	100.0	32.1	2.4	53.6	13.1	2.4	7.1	27.4	17.9	10.7	9.5	28.6	14.3	13.1	
	南房総市	32	10	2	15	2	0	6	7	3	4	9	7	1	5
	100.0	31.3	6.3	46.9	6.3	0.0	18.8	21.9	9.4	12.5	28.1	21.9	3.1	15.6	

表5-2 外出先の選定基準(出生順位別)

複数回答

上段:度数		外出先の選定基準													
下段:%	総数	同年代の子どもが多い	遊びなどのプログラムが定期的であり自由に参加できる	自分たちのペースで過ごせる	予約や登録なしで利用できる	固定のメンバーが少ない	子どもを遊ばせてくれる人がいて子どもと離れて過ごせる	親も子どもと一緒に楽しめる	親同士で話ができる	子育てについての相談相手がいる	子ども用のトイレや授乳室などの設備が整っている	子どもが大声を出しても気にならない	その他	無回答	
出生順位	全体	862	270	69	395	165	18	55	244	132	64	116	177	70	172
	100.0	31.3	8.0	45.8	19.1	2.1	6.4	28.3	15.3	7.4	13.5	20.5	8.1	20.0	
	第1子	437	148	36	207	88	9	19	117	67	29	71	91	31	81
	100.0	33.9	8.2	47.4	20.1	2.1	4.3	26.8	15.3	6.6	16.2	20.8	7.1	18.5	
	第2子	310	94	26	136	54	8	24	95	50	28	34	52	31	67
	100.0	30.3	8.4	43.9	17.4	2.6	7.7	30.6	16.1	9.0	11.0	16.8	10.0	21.6	
	第3子以降	115	28	7	52	23	1	12	32	15	7	11	34	8	24
	100.0	24.3	6.1	45.2	20.0	0.9	10.4	27.8	13.0	6.1	9.6	29.6	7.0	20.9	

表5-3 外出先の選択基準(子育て支援拠点の有無別)

複数回答

上段:度数 下段:%	外出先の選択基準														
	総数	同年代の子 どもが多い	遊びなどの プログラム が定期的に あり自由に 参加できる	自分たちの ペースで過 ごせる	予約や登録 なしで利用 できる	固定のメン バーが少な い	子どもを遊 ばせてくれ る人がいて 子どもと離 れて過ごせ る	親も子ども と一緒に楽 しめる	親同士で話 ができる	子育てにつ いての相談 相手がいる	子ども用の トイレや授 乳室などの 設備が整っ ている	子どもが大 声を出して も気になら ない	その他	無回答	
子育て支援 拠点	全体	800 100.0	267 33.4	69 8.6	392 49.0	159 19.9	16 2.0	54 6.8	241 30.1	132 16.5	63 7.9	106 13.3	173 21.6	69 8.6	125 15.6
	あり	206 100.0	110 53.4	40 19.4	92 44.7	56 27.2	3 1.5	6 2.9	62 30.1	63 30.6	16 7.8	19 9.2	34 16.5	10 4.9	28 13.6
	なし	594 100.0	157 26.4	29 4.9	300 50.5	103 17.3	13 2.2	48 8.1	179 30.1	69 11.6	47 7.9	87 14.6	139 23.4	59 9.9	97 16.3

(6) 情報取得の方法

地域にある子育て支援サービスや親子で出かける場所についての情報をどのように取得しているか(表6-1)については、全体では、「友達からの情報」(59.3%)や、「広報紙」(50.4%)が高い割合で選択され、「子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット(以下、子育て支援センターや児童館)」(28.4%)が続いた。

都市別に見ると、「友達からの情報」は浦安市(68.9%)が特に割合が高く、佐倉市(45.7%)が低かった。「広報紙」は東金市(64.5%)、浦安市(58.7%)、南房総市(56.3%)などが高く、いすみ市(22.6%)、旭市(33.7%)で低かった。いすみ市では、「家族や親戚からの情報」(32.3%)や「友達からの情報」(61.3%)が多かった。

次に、出生順位別(表6-2)に見ると、第1子の場合は、「保健センターでもらったパンフレットや雑誌」(18.1%)、「子育て支援センターや児童館」(32.7%)が多く、第2子以降では「子どもの通う保育園や幼稚園からの情報」(24.2%)が多くなる傾向が見られた。

また、同居の有無別(表6-3)では、同居家族なしの場合は「子育て支援センターや児童館」(31.2%)での情報が多く、同居家族ありの場合は「家族や親戚からの情報」(25.7%)が多かった。また、母親の就労状況別(表6-4)に見ると、無職の場合は、「地域子育て支援センターや児童館」(32.8%)や「友達からの情報」(63.3%)が有職より多く、有職の場合は「子どもの通う保育園や幼稚園からの情報」(28.1%)が無職より多かった。

子育て支援拠点の有無別(表6-5)では、子育て支援拠点ありの場合は、「子育て支援センターや児童館」(56.8%)や「友達からの情報」(74.3%)がなしの場合と比較して非常に高い傾向が見られた。

表6-1 情報取得(都市別)

複数回答

上段:度数 下段:%	情報取得											
	総数	広報紙	保健セン ターでも らったパン フレットや 情報誌	子育て支援 センターや 児童館など の掲示板や パンフレット	雑誌や情報 誌	家族や親戚 からの情報	友達からの 情報	インター ネット上の 情報	子どもの通 う保育園や 幼稚園から の情報	その他	無回答	
都市別	全体	867 100.0	437 50.4	130 15.0	246 28.4	47 5.4	136 15.7	514 59.3	115 13.3	137 15.8	20 2.3	90 10.4
	浦安市	286 100.0	168 58.7	38 13.3	100 35.0	16 5.6	22 7.7	197 68.9	55 19.2	46 16.1	2 0.7	24 8.4
	柏市	157 100.0	80 51.0	23 14.6	41 26.1	8 5.1	23 14.6	95 60.5	26 16.6	27 17.2	6 3.8	10 6.4
	佐倉市	129 100.0	60 46.5	24 18.6	45 34.9	9 7.0	18 14.0	59 45.7	14 10.9	14 10.9	4 3.1	17 13.2
	旭市	86 100.0	29 33.7	15 17.4	10 11.6	4 4.7	18 20.9	46 53.5	3 3.5	14 16.3	5 5.8	17 19.8
	東金市	62 100.0	40 64.5	5 8.1	18 29.0	2 3.2	14 22.6	30 48.4	8 12.9	16 25.8	1 1.6	7 11.3
	いすみ市	31 100.0	7 22.6	6 19.4	8 25.8	2 6.5	10 32.3	19 61.3	1 3.2	4 12.9	0 0.0	2 6.5
	木更津市	84 100.0	35 41.7	15 17.9	19 22.6	5 6.0	25 29.8	49 58.3	8 9.5	9 10.7	1 1.2	10 11.9
	南房総市	32 100.0	18 56.3	4 12.5	5 15.6	1 3.1	6 18.8	19 59.4	0 0.0	7 21.9	1 3.1	3 9.4

表6-2 情報取得(出生順位別)

複数回答

上段:度数 下段:%	情報取得											
	総数	広報紙	保健センターでもらったパンフレットや情報誌	子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット	雑誌や情報誌	家族や親戚からの情報	友達からの情報	インターネット上の情報	子どもの通う保育園や幼稚園からの情報	その他	無回答	
出生順位	全体	862 100.0	436 50.6	128 14.8	244 28.3	47 5.5	136 15.8	512 59.4	115 13.3	136 15.8	20 2.3	89 10.3
	第1子	437 100.0	208 47.6	79 18.1	143 32.7	20 4.6	72 16.5	252 57.7	63 14.4	28 6.4	10 2.3	44 10.1
	第2子	310 100.0	167 53.9	36 11.6	77 24.8	17 5.5	53 17.1	195 62.9	39 12.6	75 24.2	7 2.3	30 9.7
	第3子以降	115 100.0	61 53.0	13 11.3	24 20.9	10 8.7	11 9.6	65 56.5	13 11.3	33 28.7	3 2.6	15 13.0

表6-3 情報取得(同居の有無別)

複数回答

上段:度数 下段:%	情報取得											
	総数	広報紙	保健センターでもらったパンフレットや情報誌	子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット	雑誌や情報誌	家族や親戚からの情報	友達からの情報	インターネット上の情報	子どもの通う保育園や幼稚園からの情報	その他	無回答	
同居の有無	全体	857 100.0	432 50.4	127 14.8	246 28.7	46 5.4	135 15.8	509 59.4	114 13.3	137 16.0	20 2.3	89 10.4
	なし	674 100.0	342 50.7	99 14.7	210 31.2	36 5.3	88 13.1	409 60.7	94 13.9	101 15.0	12 1.8	76 11.3
	あり	183 100.0	90 49.2	28 15.3	36 19.7	10 5.5	47 25.7	100 54.6	20 10.9	36 19.7	8 4.4	13 7.1

表6-4 情報取得(母親の就労の有無別)

複数回答

上段:度数 下段:%	情報取得											
	総数	広報紙	保健センターでもらったパンフレットや情報誌	子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット	雑誌や情報誌	家族や親戚からの情報	友達からの情報	インターネット上の情報	子どもの通う保育園や幼稚園からの情報	その他	無回答	
母親の就労	全体	846 100.0	430 50.8	130 15.4	243 28.7	47 5.6	131 15.5	508 60.0	112 13.2	132 15.6	19 2.2	86 10.2
	無職	615 100.0	313 50.9	103 16.7	202 32.8	27 4.4	92 15.0	389 63.3	88 14.3	67 10.9	13 2.1	58 9.4
	有職	231 100.0	117 50.6	27 11.7	41 17.7	20 8.7	39 16.9	119 51.5	24 10.4	65 28.1	6 2.6	28 12.1

表6-5 情報取得(子育て支援拠点の有無別)

複数回答

上段:度数 下段:%	情報取得											
	総数	広報紙	保健センターでもらったパンフレットや情報誌	子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット	雑誌や情報誌	家族や親戚からの情報	友達からの情報	インターネット上の情報	子どもの通う保育園や幼稚園からの情報	その他	無回答	
子育て支援拠点	全体	800 100.0	419 52.4	121 15.1	238 29.8	44 5.5	127 15.9	492 61.5	109 13.6	123 15.4	19 2.4	68 8.5
	あり	206 100.0	109 52.9	41 19.9	117 56.8	5 2.4	14 6.8	153 74.3	31 15.0	21 10.2	0 0.0	10 4.9
	なし	594 100.0	310 52.2	80 13.5	121 20.4	39 6.6	113 19.0	339 57.1	78 13.1	102 17.2	19 3.2	58 9.8

(7) 育児をする上での気持ち・周りの人との関係

1) 育児をする上での気持ち

「子育てが楽しく毎日が充実している」(表7-1-1)では「ほとんどない」、「まったくない」が極めて少なく、「よくある」(46.9%)、「時々ある」(44.2%)が同程度という結果であった。

「自分は子どもをうまく育てていると思う」(表7-1-2)では「まったくない」は極めて少なかったが、「ほとんどない」が約2割(18.7%)あり、また、「よくある」も1割強で、「時々ある」が約6割(61.4%)を占めた。上記の2項目については都市別や属性別に違いは見られなかった。

「子どもがわずらわしくてイライラしてしまう」(表7-1-3)は「よくある」(5.2%)や「まったくない」(6.2%)は少なく、「時々ある」(54.0%)、「ほとんどない」(28.5%)の順であった。全体の半数以上が子育てをしながらイライラをよく、あるいは時々感じているという結果であった。

属性別に見ると、出生順位別(表7-1-4)では、第1子よりも第2子、第3子以降の方がイライラすることがある割合が高かった。また、従来から専業主婦の方が就労する母親よりもストレスが高いことが指摘されているが、本調査の結果では母親の就労の有無別(表7-1-5)では特に違いは見られなかった。

表7-1-1 子育てが楽しく毎日が充実している(都市別)

上段:度数		子育てが楽しく毎日が充実している					
下段:%	総数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答	
都市別	全体	867	407	383	21	2	54
		100.0	46.9	44.2	2.4	0.2	6.2
	浦安市	286	140	123	5	0	18
		100.0	49.0	43.0	1.7	0.0	6.3
	柏市	157	70	76	6	1	4
		100.0	44.6	48.4	3.8	0.6	2.5
	佐倉市	129	61	53	6	1	8
		100.0	47.3	41.1	4.7	0.8	6.2
	旭市	86	39	34	2	0	11
		100.0	45.3	39.5	2.3	0.0	12.8
	東金市	62	23	34	0	0	5
	100.0	37.1	54.8	0.0	0.0	8.1	
いすみ市	31	18	11	0	0	2	
	100.0	58.1	35.5	0.0	0.0	6.5	
木更津市	84	41	37	2	0	4	
	100.0	48.8	44.0	2.4	0.0	4.8	
南房総市	32	15	15	0	0	2	
	100.0	46.9	46.9	0.0	0.0	6.3	

表7-1-2 自分は子どもをうまく育てていると思う(都市別)

上段:度数		自分は子どもをうまく育てていると思う					
下段:%	総数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答	
都市別	全体	867	106	532	162	9	58
		100.0	12.2	61.4	18.7	1.0	6.7
	浦安市	286	31	177	59	0	19
		100.0	10.8	61.9	20.6	0.0	6.6
	柏市	157	23	100	27	2	5
		100.0	14.6	63.7	17.2	1.3	3.2
	佐倉市	129	11	82	24	2	10
		100.0	8.5	63.6	18.6	1.6	7.8
	旭市	86	13	45	16	1	11
		100.0	15.1	52.3	18.6	1.2	12.8
	東金市	62	7	42	9	0	4
	100.0	11.3	67.7	14.5	0.0	6.5	
いすみ市	31	3	20	5	1	2	
	100.0	9.7	64.5	16.1	3.2	6.5	
木更津市	84	11	47	19	3	4	
	100.0	13.1	56.0	22.6	3.6	4.8	
南房総市	32	7	19	3	0	3	
	100.0	21.9	59.4	9.4	0.0	9.4	

表7-1-3 子どもがわずらわしくてイライラしてしまう(都市別)

上段:度数		子どもがわずらわしくてイライラしてしまう					
下段:%	総数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答	
都市別	全体	867	45	468	247	54	53
		100.0	5.2	54.0	28.5	6.2	6.1
	浦安市	286	17	152	75	24	18
		100.0	5.9	53.1	26.2	8.4	6.3
	柏市	157	7	96	44	5	5
		100.0	4.5	61.1	28.0	3.2	3.2
	佐倉市	129	7	64	38	11	9
		100.0	5.4	49.6	29.5	8.5	7.0
	旭市	86	4	42	23	5	12
		100.0	4.7	48.8	26.7	5.8	14.0
	東金市	62	3	30	22	4	3
	100.0	4.8	48.4	35.5	6.5	4.8	
いすみ市	31	1	20	9	0	1	
	100.0	3.2	64.5	29.0	0.0	3.2	
木更津市	84	6	47	25	3	3	
	100.0	7.1	56.0	29.8	3.6	3.6	
南房総市	32	0	17	11	2	2	
	100.0	0.0	53.1	34.4	6.3	6.3	

表7-1-4 子どもがわずらわしくてイライラしてしまう(出生順位別)

上段:度数		子どもがわずらわしくてイライラしてしまう					
下段:%	総数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答	
出生順位	全体	862	45	467	244	54	52
		100.0	5.2	54.2	28.3	6.3	6.0
	第1子	437	12	219	142	37	27
		100.0	2.7	50.1	32.5	8.5	6.2
第2子	310	23	186	73	11	17	
	100.0	7.4	60.0	23.5	3.5	5.5	
第3子以降	115	10	62	29	6	8	
	100.0	8.7	53.9	25.2	5.2	7.0	

表7-1-5 子どもがわずらわしくてイライラしてしまう(母親の就労別)

上段:度数		子どもがわずらわしくてイライラしてしまう					
下段:%	総数	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない	無回答	
母親の就労	全体	846	45	456	241	53	51
		100.0	5.3	53.9	28.5	6.3	6.0
	無職	615	30	335	170	42	38
	100.0	4.9	54.5	27.6	6.8	6.2	
有職	231	15	121	71	11	13	
	100.0	6.5	52.4	30.7	4.8	5.6	

2) 周りの人との関係

「用事がある時に子どもを見てくれる人がいる」(表7-2-1)については、全体では「時々いる」(43.7%)が最も多く、「いつもいる」(30.3%)とあわせると4分の3(74.0%)に見てくれる人がおり、「いない」は約2割(19.8%)であった。都市別に見ると、「いない」は浦安市(29.7%)で最も多く、旭市(5.8%)が最も少なかった。同居の有無別(表7-2-2)に見ると、同居家族がいる場合に「いつもいる」(50.8%)の割合が高かった。また、母親の就労別(表7-2-3)では、就労している場合に「いつもいる」(39.0%)の割合が高かった。

「子どものことで話し合える人がいる」(表7-2-4)については、「いつもいる」(73.0%)が最も多く、「いない」(1.6%)は極めて少なかった。

「育児について教えてくれる人がいる」(表7-2-5)についても、「いつもいる」(59.3%)が最も多く、「いない」(3.7%)は少なかった。同居の有無別(表7-2-6)に見ると、同居家族がいる場合に「いつもいる」(73.2%)の割合が高かった。

「父親の育児協力」(表7-2-7)については、「いつも」(51.9%)が最も多く、「時々」(37.1%)が続ぎ、「まったくない」(3.9%)は非常に少なかった。属性別では、同居家族の有無別(表7-2-8)に見ると、同居家族ありの場合、「いつも」(45.5%)が減り、「時々」(43.8%)が増えていた。出生順位別(表7-2-9)に見ると、第1子の方が第3子以降に比べ「いつも」(54.6%)の割合が高い傾向が見られた。また、母親が有職の場合(表7-2-10)も「いつも」(56.3%)の割合が高い傾向が見られた。

表7-2-1 用事がある時に子どもを見てくれる人がいる(都市別)

都市別	上段:度数		用事がある時に子どもを見てくれる人がいる				
	下段:%	総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答	
全体	100.0	867	263	379	172	53	
浦安市	100.0	286	54	129	85	18	
柏市	100.0	157	48	75	29	5	
佐倉市	100.0	129	43	54	23	9	
旭市	100.0	86	40	30	5	11	
東金市	100.0	62	19	32	7	4	
いすみ市	100.0	31	13	12	5	1	
木更津市	100.0	84	31	36	14	3	
南房総市	100.0	32	15	11	4	2	
			46.9	34.4	12.5	6.3	

表7-2-2 用事がある時に子どもを見てくれる人がいる(同居の有無別)

同居の有無	上段:度数		用事がある時に子どもを見てくれる人がいる				
	下段:%	総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答	
全体	100.0	857	260	373	172	52	
なし	100.0	674	167	301	160	46	
あり	100.0	183	93	72	12	6	
			50.8	39.3	6.6	3.3	

表7-2-3 用事がある時に子どもを見てくれる人がいる(母親の就労の有無別)

母親の就労	上段:度数		用事がある時に子どもを見てくれる人がいる				
	下段:%	総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答	
全体	100.0	846	257	369	169	51	
無職	100.0	615	167	272	137	39	
有職	100.0	231	90	97	32	12	
			39.0	42.0	13.9	5.2	

表7-2-4 子どものことで話し合える人がいる(都市別)

都市別	上段:度数		子どものことで話し合える人がいる				
	下段:%	総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答	
全体	100.0	867	633	172	14	48	
浦安市	100.0	286	205	59	6	16	
柏市	100.0	157	113	40	0	4	
佐倉市	100.0	129	92	27	2	8	
旭市	100.0	86	66	7	2	11	
東金市	100.0	62	43	14	2	3	
いすみ市	100.0	31	23	6	1	1	
木更津市	100.0	84	63	17	1	3	
南房総市	100.0	32	28	2	0	2	
			73.0	19.8	1.6	5.5	

表7-2-5 育児について教えてくれる人がいる(都市別)

都市別	上段:度数		育児について教えてくれる人がいる				
	下段:%	総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答	
全体	100.0	867	514	268	32	53	
浦安市	100.0	286	156	101	12	17	
柏市	100.0	157	95	51	7	4	
佐倉市	100.0	129	78	38	4	9	
旭市	100.0	86	56	16	2	12	
東金市	100.0	62	34	20	4	4	
いすみ市	100.0	31	18	12	0	1	
木更津市	100.0	84	52	26	2	4	
南房総市	100.0	32	25	4	1	2	
			59.3	30.9	3.7	6.1	

表7-2-6 育児について教えてくれる人がいる(同居の有無別)

	上段:度数 下段:%	育児について教えてくれる人がいる				
		総数	いつもいる	時々いる	いない	無回答
同居の有無	全体	857	506	267	31	53
		100.0	59.0	31.2	3.6	6.2
	なし	674	372	228	28	46
	100.0	55.2	33.8	4.2	6.8	
あり	183	134	39	3	7	
	100.0	73.2	21.3	1.6	3.8	

表7-2-8 父親は育児に協力的である(同居の有無別、回答者母親のみ)

	上段:度数 下段:%	あなたの配偶者は育児に協力的である				
		総数	いつも	時々	まったくない	無回答
同居の有無	全体	837	439	312	32	54
		100.0	52.4	37.3	3.8	6.5
	なし	659	358	234	21	46
	100.0	54.3	35.5	3.2	7.0	
あり	178	81	78	11	8	
	100.0	45.5	43.8	6.2	4.5	

表7-2-7 父親は育児に協力的である(都市別、回答者母親のみ)

	上段:度数 下段:%	あなたの配偶者は育児に協力的である				
		総数	いつも	時々	まったくない	無回答
都市別	全体	847	440	314	33	60
		100.0	51.9	37.1	3.9	7.1
	浦安市	279	147	100	11	21
		100.0	52.7	35.8	3.9	7.5
	柏市	155	86	57	5	7
		100.0	55.5	36.8	3.2	4.5
	佐倉市	128	62	52	5	9
		100.0	48.4	40.6	3.9	7.0
	旭市	82	42	23	5	12
		100.0	51.2	28.0	6.1	14.6
	東金市	59	33	22	0	4
		100.0	55.9	37.3	0.0	6.8
	いすみ市	31	12	18	0	1
		100.0	38.7	58.1	0.0	3.2
木更津市	82	44	29	6	3	
	100.0	53.7	35.4	7.3	3.7	
南房総市	31	14	13	1	3	
	100.0	45.2	41.9	3.2	9.7	

表7-2-9 父親は育児に協力的である(出生順位別、回答者母親のみ)

	上段:度数 下段:%	あなたの配偶者は育児に協力的である				
		総数	いつも	時々	まったくない	無回答
出生順位	全体	842	438	314	31	59
		100.0	52.0	37.3	3.7	7.0
	第1子	427	233	147	16	31
		100.0	54.6	34.4	3.7	7.3
	第2子	301	150	121	12	18
		100.0	49.8	40.2	4.0	6.0
第3子以降	114	55	46	3	10	
	100.0	48.2	40.4	2.6	8.8	

表7-2-10 父親は育児に協力的である(母親の就労別、回答者母親のみ)

	上段:度数 下段:%	あなたの配偶者は育児に協力的である				
		総数	いつも	時々	まったくない	無回答
母親の就労	全体	846	439	314	33	60
		100.0	51.9	37.1	3.9	7.1
	無職	615	309	239	23	44
	100.0	50.2	38.9	3.7	7.2	
有職	231	130	75	10	16	
	100.0	56.3	32.5	4.3	6.9	

(8) 必要とする子育て支援サービス

子育て支援サービスの機能のうち、必要とするものについてたずねた結果(表8-1)では、「一時的な保育」(57.4%)が最も多く、次いで、「居場所提供」(49.0%)、「情報提供」(27.7%)、「相談」(20.5%)の順であった。「一時的な保育」については、核家族の多い浦安市(66.8%)が最も多く、群を抜いていた。多くの都市では、「一時的な保育」が「居場所提供」より高い割合で選択されていたが、柏市ではほぼ同程度(57%前後)、南房総市では「居場所提供」(53.1%)が「一時的な保育」(46.9%)より多く選択されていた。情報提供については、木更津市(34.5%)、柏市(29.9%)、東金市(29.0%)が高かった。相談については、いすみ市(29.0%)、柏市(24.8%)などの割合が高かった。

出生順位別に見ると(表8-2)、第1子は、居場所提供(53.1%)、一時的な保育(52.9%)、情報提供(34.1%)の順であり、居場所提供や情報提供の割合は第2子以降よりも高かった。居場所提供、情報提供、相談などは出生順位が下がるにつれ、少なくなる傾向が見られたが、一時的な保育については第2子(63.5%)の割合が最も高く、第1子とは10ポイントの開きが見られた。

同居家族の有無別(表8-3)に見ると、同居家族がいる場合は総じて割合が低い傾向が見られており、唯一相談のみが同じ割合を示していた。

母親の就労別(表8-4)に見ると、有職の母親の方が居場所提供(38.1%)も一時的な保育(46.8%)も無職の母親よりも15ポイント少なかった。

外出先として記入された場所別に特徴を比較すると、実家の記入があった場合は(表8-5)一時的な保育(51.3%)や居場所提供(39.2%)を選択する割合が低かった。また、子育て支援拠点ありの場合(表8-6)はいずれの項目も記入なし群より割合が高く、特に居場所提供(68.0%)はなし群よりも23ポイント高かった。

表8-1 必要とする子育て支援サービス機能(都市別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
都市別 全体	867 100.0	425 49.0	240 27.7	498 57.4	178 20.5	48 5.5	166 19.1
浦安市	286 100.0	137 47.9	80 28.0	191 66.8	56 19.6	16 5.6	49 17.1
柏市	157 100.0	90 57.3	47 29.9	89 56.7	39 24.8	8 5.1	23 14.6
佐倉市	129 100.0	72 55.8	35 27.1	73 56.6	25 19.4	11 8.5	21 16.3
旭市	86 100.0	29 33.7	16 18.6	39 45.3	12 14.0	5 5.8	31 36.0
東金市	62 100.0	33 53.2	18 29.0	36 58.1	15 24.2	1 1.6	11 17.7
いすみ市	31 100.0	13 41.9	8 25.8	14 45.2	9 29.0	1 3.2	7 22.6
木更津市	84 100.0	34 40.5	29 34.5	41 48.8	17 20.2	4 4.8	18 21.4
南房総市	32 100.0	17 53.1	7 21.9	15 46.9	5 15.6	2 6.3	6 18.8

表8-2 必要とする子育て支援サービス機能(出生順位別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
出生 順位 全体	862 100.0	423 49.1	239 27.7	495 57.4	178 20.6	46 5.3	165 19.1
第1子	437 100.0	232 53.1	149 34.1	231 52.9	108 24.7	20 4.6	81 18.5
第2子	310 100.0	144 46.5	67 21.6	197 63.5	57 18.4	22 7.1	56 18.1
第3子 以降	115 100.0	47 40.9	23 20.0	67 58.3	13 11.3	4 3.5	28 24.3

表8-3 必要とする子育て支援サービス機能(同居の有無別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
同居の 有無 全体	857 100.0	420 49.0	237 27.7	493 57.5	176 20.5	48 5.6	165 19.3
なし	674 100.0	336 49.9	195 28.9	400 59.3	139 20.6	39 5.8	122 18.1
あり	183 100.0	84 45.9	42 23.0	93 50.8	37 20.2	9 4.9	43 23.5

表8-4 必要とする子育て支援サービス機能(母親の就労の有無別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
母親の 就労 全体	846 100.0	419 49.5	233 27.5	488 57.7	173 20.4	45 5.3	161 19.0
無職	615 100.0	331 53.8	166 27.0	380 61.8	133 21.6	27 4.4	103 16.7
有職	231 100.0	88 38.1	67 29.0	108 46.8	40 17.3	18 7.8	58 25.1

表8-5 必要とする子育て支援サービス機能(実家記入の有無別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
実家 記入 全体	799 100.0	408 51.1	227 28.4	477 59.7	170 21.3	44 5.5	137 17.1
あり	232 100.0	91 39.2	61 26.3	119 51.3	47 20.3	11 4.7	60 25.9
なし	567 100.0	317 55.9	166 29.3	358 63.1	123 21.7	33 5.8	77 13.6

表8-6 必要とする子育て支援サービス機能(子育て支援拠点記入の有無別) 複数回答

上段:度数 下段:%	必要とする子育て支援サービス機能						
	総数	居場所 提供	情報提供	一時的な 保育	相談	その他	無回答
子育て 支援 拠点 全体	800 100.0	409 51.1	228 28.5	477 59.6	170 21.3	44 5.5	137 17.1
あり	206 100.0	140 68.0	71 34.5	141 68.4	52 25.2	11 5.3	18 8.7
なし	594 100.0	269 45.3	157 26.4	336 56.6	118 19.9	33 5.6	119 20.0

(9) 地域の子育て支援サービスについての認知、利用経験、今後の利用(参加)意向

それぞれの都市で提供されている子育て支援サービスを8カ所あげ、それぞれについての認知、利用経験、今後の利用意向についてたずねた。それぞれの都市でサービスの名称やサービスが異なるため、A.居場所提供、B.一時保育、C.相談、D.教室・講座、E.家事支援・育児支援ヘルパー、F.図書館、G.育児サークルに分類した。

以下示す表の右上の枠内には調査票に示したサービスの概要を提示した。複数該当都市がある場合は、その一つを提示している。なお、調査票に掲載した名称及び都市ごとの結果については、P.32以降に掲載しているので、参照されたい。

1) 居場所提供(表9-1 A-1~A-6)

園庭開放(保育園、幼稚園)(A-1)

保育園または幼稚園で行われる園庭開放についての認知は、「知っている」が最も多く約7割(72.0%)であった。利用経験は「よく」「たまに」を併せて、約3割(28.9%)が利用していた。今後の利用については、7割弱(68.1%)が利用したいと回答していた。

表9-1 A.居場所提供

上段:度数 下段:%		A-1 認知				A-1 利用経験					A-1 今後の利用				
		総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別	全体	867 100.0	624 72.0	182 21.0	61 7.0	867 100.0	81 9.3	170 19.6	512 59.1	104 12.0	867 100.0	590 68.1	19 2.2	118 13.6	140 16.1
	浦安市	286 100.0	203 71.0	62 21.7	21 7.3	286 100.0	37 12.9	78 27.3	141 49.3	30 10.5	286 100.0	216 75.5	7 2.4	31 10.8	32 11.2
	柏市	157 100.0	130 82.8	21 13.4	6 3.8	157 100.0	11 7.0	30 19.1	100 63.7	16 10.2	157 100.0	102 65.0	4 2.5	28 17.8	23 14.6
	佐倉市	129 100.0	104 80.6	16 12.4	9 7.0	129 100.0	16 12.4	26 20.2	75 58.1	12 9.3	129 100.0	89 69.0	2 1.6	18 14.0	20 15.5
	旭市	86 100.0	50 58.1	24 27.9	12 14.0	86 100.0	4 4.7	11 12.8	53 61.6	18 20.9	86 100.0	53 61.6	1 1.2	10 11.6	22 25.6
	東金市	62 100.0	43 69.4	15 24.2	4 6.5	62 100.0	7 11.3	4 6.5	44 71.0	7 11.3	62 100.0	36 58.1	1 1.6	11 17.7	14 22.6
	いすみ市	31 100.0	24 77.4	5 16.1	2 6.5	31 100.0	1 3.2	4 12.9	22 71.0	4 12.9	31 100.0	21 67.7	0 0.0	3 9.7	7 22.6
	木更津市	84 100.0	51 60.7	28 33.3	5 6.0	84 100.0	2 2.4	11 13.1	61 72.6	10 11.9	84 100.0	55 65.5	3 3.6	12 14.3	14 16.7
	南房総市	32 100.0	19 59.4	11 34.4	2 6.3	32 100.0	3 9.4	6 18.8	16 50.0	7 21.9	32 100.0	18 56.3	1 3.1	5 15.6	8 25.0

保育園の園庭で遊んだり、育児相談に応じています。

子育て支援センター（A-2）

全体では、約7割(70.9%)が認知をしているが、「よく」「たまに」を併せて33.7%に利用経験があり、6割弱(57.1%)は利用したことがない。また、今後は約6割(60.7%)が利用したいと回答しているが、「必要ない」も約2割(18.1%)みられた。都市別には特に認知にバラツキが見られ、浦安市（86.4%）や木更津市（76.2%）では認知が高いのに対して、東金市(41.9%)やいすみ市（48.4%）では認知が低かった。利用経験については、浦安市での利用が「たまに利用する」を含めると64.0%に利用経験があり、他の都市とは違いが見られた。

A - 2 子育て支援センター

親子同士が交流できる場や子育てに関する相談・情報の提供をしています。

上段:度数 下段:%	A - 2 認知				A - 2 利用経験					A - 2 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	835	592	187	56	835	75	206	477	77	835	507	52	151	125
		100.0	70.9	22.4	6.7	100.0	9.0	24.7	57.1	9.2	100.0	60.7	6.2	18.1	15.0
	浦安市	286	247	22	17	286	46	137	84	19	286	228	8	26	24
		100.0	86.4	7.7	5.9	100.0	16.1	47.9	29.4	6.6	100.0	79.7	2.8	9.1	8.4
	柏市	157	95	56	6	157	13	20	110	14	157	90	12	28	27
		100.0	60.5	35.7	3.8	100.0	8.3	12.7	70.1	8.9	100.0	57.3	7.6	17.8	17.2
	佐倉市	129	91	28	10	129	2	18	96	13	129	52	22	34	21
		100.0	70.5	21.7	7.8	100.0	1.6	14.0	74.4	10.1	100.0	40.3	17.1	26.4	16.3
	旭市	86	54	21	11	86	5	8	60	13	86	42	1	22	21
		100.0	62.8	24.4	12.8	100.0	5.8	9.3	69.8	15.1	100.0	48.8	1.2	25.6	24.4
	東金市	62	26	32	4	62	3	6	47	6	62	30	2	16	14
		100.0	41.9	51.6	6.5	100.0	4.8	9.7	75.8	9.7	100.0	48.4	3.2	25.8	22.6
	いすみ市	31	15	13	3	31	2	1	23	5	31	16	0	8	7
		100.0	48.4	41.9	9.7	100.0	6.5	3.2	74.2	16.1	100.0	51.6	0.0	25.8	22.6
	木更津市	84	64	15	5	84	4	16	57	7	84	49	7	17	11
		100.0	76.2	17.9	6.0	100.0	4.8	19.0	67.9	8.3	100.0	58.3	8.3	20.2	13.1

児童館(A-3)

全体では、「知っている」が8割弱(77.7%)であり、居場所提供の中では最も認知が高かった。利用経験については、「よく」「たまに」を併せて、約4割（39.3%）に利用経験があった。今後の利用は67.4%に利用の意向があった。

A - 3 児童館

子どもたちや保護者が自由に来て遊ぶことができます

上段:度数 下段:%	A - 3 認知				A - 3 利用経験					A - 3 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	665	517	107	41	665	73	188	343	61	665	448	37	75	105
		100.0	77.7	16.1	6.2	100.0	11.0	28.3	51.6	9.2	100.0	67.4	5.6	11.3	15.8
	浦安市	286	234	34	18	286	26	100	135	25	286	210	19	29	28
		100.0	81.8	11.9	6.3	100.0	9.1	35.0	47.2	8.7	100.0	73.4	6.6	10.1	9.8
	柏市	157	117	34	6	157	13	30	103	11	157	103	9	18	27
		100.0	74.5	21.7	3.8	100.0	8.3	19.1	65.6	7.0	100.0	65.6	5.7	11.5	17.2
	佐倉市	129	89	29	11	129	18	27	68	16	129	67	7	23	32
		100.0	69.0	22.5	8.5	100.0	14.0	20.9	52.7	12.4	100.0	51.9	5.4	17.8	24.8
	東金市	62	52	6	4	62	12	19	25	6	62	47	1	4	10
		100.0	83.9	9.7	6.5	100.0	19.4	30.6	40.3	9.7	100.0	75.8	1.6	6.5	16.1
	いすみ市	31	25	4	2	31	4	12	12	3	31	21	1	1	8
		100.0	80.6	12.9	6.5	100.0	12.9	38.7	38.7	9.7	100.0	67.7	3.2	3.2	25.8

つどいの広場(A-4)

認知は約4割(42.1%)にとどまり、利用経験は「よく」「たまに」を併せて2割(20.0%)であった。今後の利用の意向は「利用したい」が53.3%で、「必要ない」が20.8%であった。

都市別にみると、旭市では認知が高く(68.6%)、利用経験も「たまに利用」を併せて、33.7%に利用経験があり、その他の都市より多かった。木更津市では、「必要ない」という回答が約3割(31.0%)あった。

A - 4 つどいの広場

子どもと一緒に遊んだり、保護者同士の交流・情報交換、相談ができます

上段:度数 下段:%	A - 4 認知				A - 4 利用経験					A - 4 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	518 100.0	218 42.1	260 50.2	40 7.7	518 100.0	22 4.2	82 15.8	334 64.5	80 15.4	518 100.0	276 53.3	33 6.4	108 20.8	101 19.5
	浦安市	286 100.0	101 35.3	166 58.0	19 6.6	286 100.0	10 3.5	43 15.0	190 66.4	43 15.0	286 100.0	157 54.9	25 8.7	59 20.6	45 15.7
	旭市	86 100.0	59 68.6	15 17.4	12 14.0	86 100.0	5 5.8	24 27.9	42 48.8	15 17.4	86 100.0	49 57.0	2 2.3	14 16.3	21 24.4
	東金市	62 100.0	26 41.9	32 51.6	4 6.5	62 100.0	6 9.7	7 11.3	39 62.9	10 16.1	62 100.0	35 56.5	1 1.6	9 14.5	17 27.4
	木更津市	84 100.0	32 38.1	47 56.0	5 6.0	84 100.0	1 1.2	8 9.5	63 75.0	12 14.3	84 100.0	35 41.7	5 6.0	26 31.0	18 21.4

子育てサロン(A-5)

子育てサロンについては2都市であるが、それぞれの違いが大きいため、分けて記述する。

柏市では、認知65.0%であり、「よく」「たまに」を併せて3割弱(28.1%)に利用があった。今後は約6割(59.9%)に利用の意向があった。

南房総市では、認知は21.9%と低く、利用経験は「よく」「たまに」を併せても6.2%と低かったが、今後の利用については「利用したい」が46.9%であった。

A - 5 子育てサロン

児童センター等で実施している、0～3歳くらいのお子さんと保護者のつどいの場です。

上段:度数 下段:%	A - 5 認知				A - 5 利用経験					A - 5 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	189 100.0	109 57.7	70 37.0	10 5.3	189 100.0	16 8.5	30 15.9	127 67.2	16 8.5	189 100.0	109 57.7	13 6.9	29 15.3	38 20.1
	柏市	157 100.0	102 65.0	47 29.9	8 5.1	157 100.0	15 9.6	29 18.5	102 65.0	11 7.0	157 100.0	94 59.9	9 5.7	24 15.3	30 19.1
	南房総市	32 100.0	7 21.9	23 71.9	2 6.3	32 100.0	1 3.1	1 3.1	25 78.1	5 15.6	32 100.0	15 46.9	4 12.5	5 15.6	8 25.0

センター開放(A-6)

認知は約半数(43.8%)であり、「よく」「たまに」を併せて18.8%に利用経験があった。今後の利用については、利用したいは約4割(40.6%)で、必要ないが約3割(28.1%)であった。

A - 6 センター開放

三芳及び富山保健福祉センターでは、親子の交流の場として、開放日を設けています。

上段:度数 下段:%	A - 6 認知				A - 6 利用経験					A - 6 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	南房総市	32 100.0	14 43.8	16 50.0	2 6.3	32 100.0	3 9.4	3 9.4	22 68.8	4 12.5	32 100.0	13 40.6	2 6.3	9 28.1	8 25.0

2) 一時的保育 (表 9-2 B-1~B-3)

一時保育 (B-1)

保育所等で行われる一時保育については、66.6%が認知していた。利用経験については、「よく」「たまに」を併せても、1割に満たなかった(8.8%)。今後の利用については、約6割(58.1%)に利用の意向があった。

都市別には、いすみ市(41.9%)、南房総市(46.9%)で認知が低かった。また、柏市では今後の利用の意向として、「必要ない」が34.4%と最も高かった。

表9-2 一時的保育

B-1 一時保育

母親の病気やケガ、介護、育児疲れのリフレッシュなどのときに一時的保育を受けられます。

上段:度数 下段:%	B-1 認知				B-1 利用経験					B-1 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都 全体	867	577	223	67	867	14	62	688	103	867	504	32	191	140
市 別	100.0	66.6	25.7	7.7	100.0	1.6	7.2	79.4	11.9	100.0	58.1	3.7	22.0	16.1
浦安市	286	209	56	21	286	4	18	236	28	286	188	13	48	37
	100.0	73.1	19.6	7.3	100.0	1.4	6.3	82.5	9.8	100.0	65.7	4.5	16.8	12.9
柏市	157	103	47	7	157	1	11	133	12	157	75	5	54	23
	100.0	65.6	29.9	4.5	100.0	0.6	7.0	84.7	7.6	100.0	47.8	3.2	34.4	14.6
佐倉市	129	78	40	11	129	1	10	96	22	129	78	2	25	24
	100.0	60.5	31.0	8.5	100.0	0.8	7.8	74.4	17.1	100.0	60.5	1.6	19.4	18.6
旭市	86	56	18	12	86	1	8	63	14	86	50	0	19	17
	100.0	65.1	20.9	14.0	100.0	1.2	9.3	73.3	16.3	100.0	58.1	0.0	22.1	19.8
東金市	62	44	12	6	62	3	6	46	7	62	30	2	17	13
	100.0	71.0	19.4	9.7	100.0	4.8	9.7	74.2	11.3	100.0	48.4	3.2	27.4	21.0
いすみ市	31	13	16	2	31	0	0	26	5	31	18	0	6	7
	100.0	41.9	51.6	6.5	100.0	0.0	0.0	83.9	16.1	100.0	58.1	0.0	19.4	22.6
木更津市	84	59	20	5	84	3	8	64	9	84	51	7	14	12
	100.0	70.2	23.8	6.0	100.0	3.6	9.5	76.2	10.7	100.0	60.7	8.3	16.7	14.3
南房総市	32	15	14	3	32	1	1	24	6	32	14	3	8	7
	100.0	46.9	43.8	9.4	100.0	3.1	3.1	75.0	18.8	100.0	43.8	9.4	25.0	21.9

ファミリー・サポート・センター(B-2)

全体では、約5割(51.9%)が認知しているが、「よく」「たまに」併せても利用は3.6%と極めて少なかった。今後の利用については、約43.7%が利用の意向を示したが、「必要ない」が3割(30.8%)もみられた。

都市別に見ると、佐倉市(20.2%)や東金市(37.1%)で認知が低く、今後の利用意向も30%台と低かった。

B-2 ファミリー・サポート・センター

育児の援助を受けたい人、育児の援助を行いたい人による助け合い制度。

上段:度数 下段:%	B-2 認知				B-2 利用経験					B-2 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都 全体	634	329	262	43	634	7	16	527	84	634	277	36	195	126
市 別	100.0	51.9	41.3	6.8	100.0	1.1	2.5	83.1	13.2	100.0	43.7	5.7	30.8	19.9
浦安市	286	189	76	21	286	5	14	237	30	286	149	19	75	43
	100.0	66.1	26.6	7.3	100.0	1.7	4.9	82.9	10.5	100.0	52.1	6.6	26.2	15.0
柏市	157	91	60	6	157	1	2	139	15	157	64	8	58	27
	100.0	58.0	38.2	3.8	100.0	0.6	1.3	88.5	9.6	100.0	40.8	5.1	36.9	17.2
佐倉市	129	26	92	11	129	0	0	101	28	129	44	6	40	39
	100.0	20.2	71.3	8.5	100.0	0.0	0.0	78.3	21.7	100.0	34.1	4.7	31.0	30.2
東金市	62	23	34	5	62	1	0	50	11	62	20	3	22	17
	100.0	37.1	54.8	8.1	100.0	1.6	0.0	80.6	17.7	100.0	32.3	4.8	35.5	27.4

ショートステイ(B-3)

認知は27.5%であったが、利用経験は「たまに利用」の4件のみ(0.8%)と極めて少なかった。今後の利用については、「利用したい」は38.1%、「必要ない」の37.0%とほぼ同じ割合であった。

都市別に見ると、木更津市で認知が低く(19.0%)、今後の利用に関して、「必要ない」(45.2%)とする回答が柏市(46.5%)と同様に多かった。

B-3 ショートステイ

病気などで一時的に養育が困難になった時に預けることができます。

上段:度数 下段:%	B-3 認知				B-3 利用経験					B-3 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 全体	527	145	350	32	527	0	4	452	71	527	201	25	195	106
	100.0	27.5	66.4	6.1	100.0	0.0	0.8	85.8	13.5	100.0	38.1	4.7	37.0	20.1
浦安市	286	83	183	20	286	0	1	246	39	286	135	14	84	53
	100.0	29.0	64.0	7.0	100.0	0.0	0.3	86.0	13.6	100.0	47.2	4.9	29.4	18.5
柏市	157	46	104	7	157	0	2	139	16	157	46	7	73	31
	100.0	29.3	66.2	4.5	100.0	0.0	1.3	88.5	10.2	100.0	29.3	4.5	46.5	19.7
木更津市	84	16	63	5	84	0	1	67	16	84	20	4	38	22
	100.0	19.0	75.0	6.0	100.0	0.0	1.2	79.8	19.0	100.0	23.8	4.8	45.2	26.2

3) 相談(表9-3 C-1~C-7))

保健センター(C-1)

全体では、約7割(68.1%)が認知しており、「よく」「たまに」併せると27.5%に利用経験があった。今後の利用については、54.3%に利用の意向があった。

都市別にはバラツキが見られ、木更津市(82.1%)や南房総市(81.3%)では認知も高く利用経験も「たまに利用」と併せて4割を超しており、今後の利用は木更津市では65.5%と最も高かった。

表9-3 相談

C-1 保健センター

保健師・栄養士・歯科衛生士による健康相談や育児相談、子どもの身体測定等を実施しています。

上段:度数 下段:%	C-1 認知				C-1 利用経験					C-1 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 全体	276	188	67	21	276	15	61	161	39	276	150	5	57	64
	100.0	68.1	24.3	7.6	100.0	5.4	22.1	58.3	14.1	100.0	54.3	1.8	20.7	23.2
佐倉市	129	73	45	11	129	7	20	78	24	129	64	2	35	28
	100.0	56.6	34.9	8.5	100.0	5.4	15.5	60.5	18.6	100.0	49.6	1.6	27.1	21.7
いすみ市	31	20	9	2	31	0	1	26	4	31	14	0	10	7
	100.0	64.5	29.0	6.5	100.0	0.0	3.2	83.9	12.9	100.0	45.2	0.0	32.3	22.6
木更津市	84	69	9	6	84	5	29	41	9	84	55	2	7	20
	100.0	82.1	10.7	7.1	100.0	6.0	34.5	48.8	10.7	100.0	65.5	2.4	8.3	23.8
南房総市	32	26	4	2	32	3	11	16	2	32	17	1	5	9
	100.0	81.3	12.5	6.3	100.0	9.4	34.4	50.0	6.3	100.0	53.1	3.1	15.6	28.1

にこにこルーム(C-2)

認知は56.5%であるが、利用経験は「よく」「たまに」併せて約4分の1(25.9%)であり、今後の利用は約6割(58.1%)に利用の意向があった。

C-2 にこにこルーム

保育所の園庭で遊んだり育児相談や各種講座を開催しています。

上段:度数 下段:%	C-2 認知				C-2 利用経験					C-2 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 東金市	62	35	22	5	62	4	12	37	9	62	36	1	12	13
	100.0	56.5	35.5	8.1	100.0	6.5	19.4	59.7	14.5	100.0	58.1	1.6	19.4	21.0

親子遊び教室（C-3）

約半数(52.3%)が認知しているが、利用経験があるのは約1割(10.5%)であった。今後は53.5%に利用の意向があった。

C-3 親子遊び教室

子どもと一緒に遊んだり、育児の情報交換、育児相談を行っています。

上段:度数 下段:%	C-3 認知				C-3 利用経験					C-3 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	参加したことがある	参加している	参加したことがない	無回答	総数	参加したい	参加したくない	必要ない	無回答
旭市	86	45	28	13	86	8	1	62	15	86	46	1	17	22
	100.0	52.3	32.6	15.1	100.0	9.3	1.2	72.1	17.4	100.0	53.5	1.2	19.8	25.6

地域子育て支援センター（C-4）

全体の46.5%が認知しており、利用経験は「よく」「たまに」併せても7.0%と少なかった。今後は47.3%に利用の意向があった。

C-4 地域子育て支援センター

保育園・子育て支援センターの電話・来園による育児相談を行っています。

上段:度数 下段:%	C-4 認知				C-4 利用経験					C-4 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
佐倉市	129	60	58	11	129	4	5	96	24	129	61	2	36	30
	100.0	46.5	45.0	8.5	100.0	3.1	3.9	74.4	18.6	100.0	47.3	1.6	27.9	23.3

すくすくルーム(C-5)

全体の64.5%が認知しており、「よく」「たまに」併せて25.8%に利用経験があった。今後の利用意向は61.3%と高かった。

C-5 すくすくルーム

主に1歳～保育園に入るまでのお子さんと保護者を対象に、児童館で様々な行事を開催しています。また、保健師による育児相談も受けられます。

上段:度数 下段:%	C-5 認知				C-5 利用経験					C-5 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
いすみ市	31	20	9	2	31	3	5	18	5	31	19	1	4	7
	100.0	64.5	29.0	6.5	100.0	9.7	16.1	58.1	16.1	100.0	61.3	3.2	12.9	22.6

母との子つどい(C-6)

全体の67.5%が認知しており、「よく」「たまに」併せて約半数(47.1%)に利用経験があった。今後の利用意向は56.1%であった。

C-6 母と子つどい

お友達づくり、身体測定と育児相談・食事や歯のことで相談できます。

上段:度数 下段:%	C-6 認知				C-6 利用経験					C-6 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用した	たまに利用した	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
柏市	157	106	44	7	157	36	38	70	13	157	88	9	30	30
	100.0	67.5	28.0	4.5	100.0	22.9	24.2	44.6	8.3	100.0	56.1	5.7	19.1	19.1

きらりんクラブ(C-7)

認知は18.8%と低く、利用経験は1件(3.1%)のみであった。今後は34.4%に利用意向があった。

C-7 きらりんクラブ

主に言葉や発達に心配をもつ子と保護者を対象に集団遊びや保育士、保健師による相談を行っています。

上段:度数 下段:%	C-7 認知				C-7 利用経験					C-7 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 南房総市	32 100.0	6 18.8	24 75.0	2 6.3	32 100.0	1 3.1	0 0.0	26 81.3	5 15.6	32 100.0	11 34.4	5 15.6	8 25.0	8 25.0

4) 教室・講座(表9-4 D-1~D-6))

親業訓練講座(D-1)

認知は3分の1、受講経験は3件(4.8%)であった。今後の受講意向は約3分の1(33.9%)であったが、「必要ない」(37.1%)の方が多かった。

D-1 親業訓練講座

子どもとの毎日の生活における実際のかかわりあいを学ぶ講座です。

上段:度数 下段:%	D-1 認知				D-1 利用経験			D-1 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	受講したことがある	受講したことはない	無回答	総数	受講したい	受講したくない	必要ない	無回答
都市別 東金市	62 100.0	21 33.9	36 58.1	5 8.1	62 100.0	3 4.8	51 82.3	8 12.9	62 100.0	21 33.9	6 9.7	23 37.1	12 19.4

子育て学級(D-2)

全体の60.5%に認知があり、約4分の1(23.3%)に参加経験があった。今後の利用意向は45.3%であった。

D-2 子育て学級

楽しく子育てしていけるよう育児のことを学びます。

上段:度数 下段:%	D-2 認知				D-2 利用経験			D-2 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	参加したことがある	参加したことはない	無回答	総数	参加したい	参加したくない	必要ない	無回答
都市別 旭市	86 100.0	52 60.5	21 24.4	13 15.1	86 100.0	20 23.3	52 60.5	14 16.3	86 100.0	39 45.3	0 0.0	25 29.1	22 25.6

1歳児教室(D-3)

認知は46.4%で、利用経験は「よく」「たまに」併せて、15.5%であった。今後の利用意向は52.4%であった。

D-3 1歳児教室

親子で、1歳児の特徴と関わり方、生活リズム、親子遊び等について学びます。

上段:度数 下段:%	D-3 認知				D-3 利用経験					D-3 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用した	たまに利用した	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 木更津市	84 100.0	39 46.4	40 47.6	5 6.0	84 100.0	5 6.0	8 9.5	61 72.6	10 11.9	84 100.0	44 52.4	2 2.4	18 21.4	20 23.8

お誕生教室 (D-4)

認知は 58.1%で、利用経験は 6.5%であった。今後の利用意向は 45.2%であった。

D - 4 お誕生教室

1歳のお誕生日を迎える親子を対象に、児童館で身体測定やバースデーカード作り、栄養士や歯科衛生士によるお話を聞けます。

上段:度数 下段:%	D - 4 認知				D - 4 利用経験				D - 4 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	利用した	利用しなかった	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 いすみ市	31 100.0	18 58.1	11 35.5	2 6.5	31 100.0	2 6.5	23 74.2	6 19.4	31 100.0	14 45.2	1 3.2	5 16.1	11 35.5

もぐもぐ教室 (D-5)

全体の 53.1%の認知があり、「よく」「たまに」併せて、21.9%の利用があった。今後は 28.1%の利用意向があるが、「必要ない」も 37.5%あった。

D - 5 もぐもぐ教室

栄養士が、準備期～完了期までの離乳食の作り方を講話します。また、離乳食の調理実習もあります。

上段:度数 下段:%	D - 5 認知				D - 5 利用経験					D - 5 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用した	たまに利用した	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 南房総市	32 100.0	17 53.1	13 40.6	2 6.3	32 100.0	1 3.1	6 18.8	21 65.6	4 12.5	32 100.0	9 28.1	1 3.1	12 37.5	10 31.3

未来っこクラブ (D-6)

認知は 2 割弱 (18.8%) で、利用経験は 2 件 (6.3%) のみであった。今後は 31.3%の利用意向があるが、「必要ない」(28.1%)もほぼ同程度あった。

D - 6 未来っこクラブ

幼稚園就園前のお子さんや保護者を対象に、健康教育や遊び等の指導を行うほか、参加者同士の情報交換ができます。

上段:度数 下段:%	D - 6 認知				D - 6 利用経験					D - 6 今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
都市別 南房総市	32 100.0	6 18.8	24 75.0	2 6.3	32 100.0	2 6.3	0 0.0	24 75.0	6 18.8	32 100.0	10 31.3	4 12.5	9 28.1	9 28.1

5) 家事支援・育児支援ヘルパー (表 9-5 E-1)

家事支援・育児支援ヘルパーについては2都市であるが、それぞれの違いが大きいため、分けて記述する。

浦安市では認知は73.8%と高いが、利用経験は「よく」「たまに」を併せても7.0%であった。今後は約半数(50.7%)に利用の意向があるが、必要ないが3割弱(28.3%)あった。

いすみ市では認知は25.8%と低く、利用経験は皆無であった。半数(51.6%)が必要ないと回答しており、約3割(29.0%)に利用の意向があった。

表9-5 家事支援・育児支援ヘルパー

E - 1 ヘルパー派遣 育児や家庭等の支援を必要とする子育て家庭に対しヘルパーを派遣します。

上段:度数 下段:%	E - 1 認知				E - 1 利用経験					E - 1 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	317 100.0	219 69.1	76 24.0	22 6.9	317 100.0	4 1.3	16 5.0	268 84.5	29 9.1	317 100.0	154 48.6	22 6.9	97 30.6	44 13.9
	浦安市	286 100.0	211 73.8	55 19.2	20 7.0	286 100.0	4 1.4	16 5.6	240 83.9	26 9.1	286 100.0	145 50.7	21 7.3	81 28.3	39 13.6
	いすみ市	31 100.0	8 25.8	21 67.7	2 6.5	31 100.0	0 0.0	0 0.0	28 90.3	3 9.7	31 100.0	9 29.0	1 3.2	16 51.6	5 16.1

6) 図書館 (表 9-6 F-1)

認知は約8割(79.3%)と高く、「よく」「たまに」併せて、約4割(40.8%)に利用経験があった。今後の利用意向も76.9%と高かった。

表9-6 図書館

F - 1 図書館 図書などの閲覧・貸出しをするほか、乳幼児向けの講座・おはなしかいもあります。

上段:度数 下段:%	F - 1 認知				F - 1 利用経験					F - 1 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答	
都市別	全体	299 100.0	237 79.3	35 11.7	27 9.0	299 100.0	27 9.0	95 31.8	141 47.2	36 12.0	299 100.0	230 76.9	2 0.7	21 7.0	46 15.4
	佐倉市	129 100.0	103 79.8	16 12.4	10 7.8	129 100.0	24 18.6	36 27.9	50 38.8	19 14.7	129 100.0	105 81.4	1 0.8	2 1.6	21 16.3
	旭市	86 100.0	66 76.7	8 9.3	12 14.0	86 100.0	1 1.2	33 38.4	40 46.5	12 14.0	86 100.0	64 74.4	0 0.0	8 9.3	14 16.3
	木更津市	84 100.0	68 81.0	11 13.1	5 6.0	84 100.0	2 2.4	26 31.0	51 60.7	5 6.0	84 100.0	61 72.6	1 1.2	11 13.1	11 13.1

7) 育児サークル (表 9-7 G-1)

認知は65.1%であり、参加経験は「参加したことがある」「参加している」併せて、26.7%であった。今後は51.2%に利用意向があった。

表9-7 育児サークル

G - 1 育児サークル お子さんの年齢に合わせてたくさんのサークルが活動しています。

上段:度数 下段:%	G - 1 認知				G - 1 利用経験					G - 1 今後の利用					
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	参加したことがある	参加している	参加したことがない	無回答	総数	参加したい	参加したくない	必要ない	無回答	
都市別	旭市	86 100.0	56 65.1	18 20.9	12 14.0	86 100.0	16 18.6	7 8.1	51 59.3	12 14.0	86 100.0	44 51.2	5 5.8	16 18.6	21 24.4

8) 利用したくない理由

都市別の子育て支援サービスに対して「利用したくない」と回答した場合にその理由についてたずねた。ここでは、都市別に子育て支援サービスを整理し直し、表の下にあげられた「利用したくない理由」を示す。

浦安市

表9-8-1 浦安市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 地域子育て支援センター	286 100.0	247 86.4	22 7.7	17 5.9	286 100.0	46 16.1	137 47.9	84 29.4	19 6.6	286 100.0	228 79.7	8 2.8	26 9.1	24 8.4
2 つどいの広場(堀江・明海)	286 100.0	101 35.3	166 58.0	19 6.6	286 100.0	10 3.5	43 15.0	190 66.4	43 15.0	286 100.0	157 54.9	25 8.7	59 20.6	45 15.7
3 子育てすこやか広場	286 100.0	203 71.0	62 21.7	21 7.3	286 100.0	37 12.9	78 27.3	141 49.3	30 10.5	286 100.0	216 75.5	7 2.4	31 10.8	32 11.2
4 児童センター	286 100.0	234 81.8	34 11.9	18 6.3	286 100.0	26 9.1	100 35.0	135 47.2	25 8.7	286 100.0	210 73.4	19 6.6	29 10.1	28 9.8
5 エンゼルヘルプサービス	286 100.0	211 73.8	55 19.2	20 7.0	286 100.0	4 1.4	16 5.6	240 83.9	26 9.1	286 100.0	145 50.7	21 7.3	81 28.3	39 13.6
6 うらやすファミリー・サポート・センター	286 100.0	189 66.1	76 26.6	21 7.3	286 100.0	5 1.7	14 4.9	237 82.9	30 10.5	286 100.0	149 52.1	19 6.6	75 26.2	43 15.0
7 一時保育	286 100.0	209 73.1	56 19.6	21 7.3	286 100.0	4 1.4	18 6.3	236 82.5	28 9.8	286 100.0	188 65.7	13 4.5	48 16.8	37 12.9
8 こどもショートステイ	286 100.0	83 29.0	183 64.0	20 7.0	286 100.0	0 0.0	1 0.3	246 86.0	39 13.6	286 100.0	135 47.2	14 4.9	84 29.4	53 18.5

表9-8-2 「利用したくない」理由

1. 地域子育て支援センター	遠い
2. つどいの広場	上の子どもを連れて行けない
3. 子育てすこやか広場	知っている人同士で固まっている、ママの集いの傾向が強い
4. 児童センター	遠くて行きにくい、風邪が移りやすいと聞いた 大きな子どもが入ってきて危なかった 場所の提供をしているだけで、親同士の交流ができない エレベーターや入口など双子のベビーカーが入るか不安
5. エンゼルヘルプサービス	知らない人に家に来てもらうのに抵抗がある、 知らない人に子どもを預けられない、なるべく身内に頼みたい 知らない人に家を預けることが不安、高そう
6. うらやすファミリー・サポート・センター	知らない人に子どもを預けられない プロではない人には預けたくない 子どもが病気の時は預かってもらえない 自分の子どものことで精一杯で援助できない 相手との意識の違いによるトラブルをよく聞くから
7. 一時保育	電話が繋がらない システム(予約の取り方など)に改善の必要がある いつも満員で利用できない、電話をしても断られる 子どもが他人に慣れていないので、親などに頼りたい
8. こどもショートステイ	知らない人に保育してもらうことに抵抗がある 子どもとずっと離れるのは嫌

柏市

表9-9-1 柏市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 地域子育て支援センター こあらルーム らっ こルーム ほっかほか	157 100.0	95 60.5	56 35.7	6 3.8	157 100.0	13 8.3	20 12.7	110 70.1	14 8.9	157 100.0	90 57.3	12 7.6	28 17.8	27 17.2
2 子育て広場 子 育てサロン	157 100.0	102 65.0	47 29.9	8 5.1	157 100.0	15 9.6	29 18.5	102 65.0	11 7.0	157 100.0	94 59.9	9 5.7	24 15.3	30 19.1
3 保育園の園庭開 放	157 100.0	130 82.8	21 13.4	6 3.8	157 100.0	11 7.0	30 19.1	100 63.7	16 10.2	157 100.0	102 65.0	4 2.5	28 17.8	23 14.6
4 児童センター	157 100.0	117 74.5	34 21.7	6 3.8	157 100.0	13 8.3	30 19.1	103 65.6	11 7.0	157 100.0	103 65.6	9 5.7	18 11.5	27 17.2
5 かしわファミリー・サ ポート・センター	157 100.0	91 58.0	60 38.2	6 3.8	157 100.0	1 0.6	2 1.3	139 88.5	15 9.6	157 100.0	64 40.8	8 5.1	58 36.9	27 17.2
6 子ども短期入所 (ショートステイ)	157 100.0	46 29.3	104 66.2	7 4.5	157 100.0	0 0.0	2 1.3	139 88.5	16 10.2	157 100.0	46 29.3	7 4.5	73 46.5	31 19.7
7 一時保育	157 100.0	103 65.6	47 29.9	7 4.5	157 100.0	1 0.6	11 7.0	133 84.7	12 7.6	157 100.0	75 47.8	5 3.2	54 34.4	23 14.6
8 母と子のつどい	157 100.0	106 67.5	44 28.0	7 4.5	157 100.0	36 22.9	38 24.2	70 44.6	13 8.3	157 100.0	88 56.1	9 5.7	30 19.1	30 19.1

表9-9-2 「利用したくない」理由

1. 地域子育て支援センター	遠くに行きにくい、 行事予定の情報がとりづらい 人数がたくさんで部屋がせまかった 思ったより友達の輪が広がらない
2. 子育て広場 子育てサロン	場所が遠い、 活発な子どもに遊具が物足りない 第1子の母が多いので話が合わない
3. 保育園の園庭開放	幼稚園のお迎えに行けなくなる、 遠い
4. 児童センター	遠い、 送り迎えがあれば嬉しい 上の子どもが小さい時に行ったが、疎外感を感じてから嫌になった
5. かしわファミリー・ サポート・センター	どんな人に預けるか不安、 知らない人に預けるのは不安 金額が高い、 仕組みや申込方法がわかりにくい 子どもの動きが激しいので、他の方に預けると迷惑になってしまいそう
6. 子ども短期入所 (ショートステイ)	手元から離したくない どんな人がやっているのか、環境もわからないので、病気で気が弱っているのに心配が増える
7. 一時保育	すぐに利用できない、 利用するために医師の判断が必要 週3回くらいのパートだと利用できない
8. 母と子のつどい	身体測定を嫌がる 平日の昼間のみで利用できない センターに来ていた保健師の対応がイマイチだった

佐倉市

表9-10-1 佐倉市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 保育園の園庭開放	129 100.0	104 80.6	16 12.4	9 7.0	129 100.0	16 12.4	26 20.2	75 58.1	12 9.3	129 100.0	89 69.0	2 1.6	18 14.0	20 15.5
2 佐倉市子育て支援センター(レイクピアウスイ3階)	129 100.0	91 70.5	28 21.7	10 7.8	129 100.0	2 1.6	18 14.0	96 74.4	13 10.1	129 100.0	52 40.3	22 17.1	34 26.4	21 16.3
3 児童センター・老幼の館	129 100.0	89 69.0	29 22.5	11 8.5	129 100.0	18 14.0	27 20.9	68 52.7	16 12.4	129 100.0	67 51.9	7 5.4	23 17.8	32 24.8
4 さくらファミリー・サポート・センター	129 100.0	26 20.2	92 71.3	11 8.5	129 100.0	0 0.0	0 0.0	101 78.3	28 21.7	129 100.0	44 34.1	6 4.7	40 31.0	39 30.2
5 地域子育て支援センター	129 100.0	60 46.5	58 45.0	11 8.5	129 100.0	4 3.1	5 3.9	96 74.4	24 18.6	129 100.0	61 47.3	2 1.6	36 27.9	30 23.3
6 一時保育	129 100.0	78 60.5	40 31.0	11 8.5	129 100.0	1 0.8	10 7.8	96 74.4	22 17.1	129 100.0	78 60.5	2 1.6	25 19.4	24 18.6
7 保健センター・児童センター主催の母子交流会	129 100.0	73 56.6	45 34.9	11 8.5	129 100.0	7 5.4	20 15.5	78 60.5	24 18.6	129 100.0	64 49.6	2 1.6	35 27.1	28 21.7
8 図書館	129 100.0	103 79.8	16 12.4	10 7.8	129 100.0	24 18.6	36 27.9	50 38.8	19 14.7	129 100.0	105 81.4	1 0.8	2 1.6	21 16.3

表 9-10-2 「利用したくない」理由

1. 保育園の園庭開放	利用したいが場所が遠い
2. 佐倉市子育て支援センター	遠くて行きにくい スペースが狭くて圧迫感がある、 人数のわりに窮屈 室内で換気が悪い 場所的に落ち着かない
3. 児童センター・老幼の館	自由な感じがない、 すでにグループ化されていて入りにくい 家から遠い
4. さくらファミリー・サポート・センター	手続きが面倒
5. 地域子育て支援センター	場所が遠い
6. 一時保育	無認可の所はやっぱり心配
7. 保健センター・児童センター主催の母子交流会	
8. 図書館	本が汚く感じる
共通	時間と場所を決められると行けないことも多く、行きづらくなる どこにあるのかよくわからない 病気をもらうので、行かないよう小児科で言われた

旭市

表9-11-1 旭市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 子育て支援センター	86 100.0	54 62.8	21 24.4	11 12.8	86 100.0	5 5.8	8 9.3	60 69.8	13 15.1	86 100.0	42 48.8	1 1.2	22 25.6	21 24.4
2 つどいの広場 八二カム	86 100.0	59 68.6	15 17.4	12 14.0	86 100.0	5 5.8	24 27.9	42 48.8	15 17.4	86 100.0	49 57.0	2 2.3	14 16.3	21 24.4
3 園庭開放	86 100.0	50 58.1	24 27.9	12 14.0	86 100.0	4 4.7	11 12.8	53 61.6	18 20.9	86 100.0	53 61.6	1 1.2	10 11.6	22 25.6
4 親子遊び教室	86 100.0	45 52.3	28 32.6	13 15.1	86 100.0	8 9.3	1 1.2	62 72.1	15 17.4	86 100.0	46 53.5	1 1.2	17 19.8	22 25.6
5 子育て学級	86 100.0	52 60.5	21 24.4	13 15.1	86 100.0	20 23.3		52 60.5	14 16.3	86 100.0	39 45.3	0 0.0	25 29.1	22 25.6
6 育児サークル	86 100.0	56 65.1	18 20.9	12 14.0	86 100.0	16 18.6	7 8.1	51 59.3	12 14.0	86 100.0	44 51.2	5 5.8	16 18.6	21 24.4
7 一時保育	86 100.0	56 65.1	18 20.9	12 14.0	86 100.0	1 1.2	8 9.3	63 73.3	14 16.3	86 100.0	50 58.1	0 0.0	19 22.1	17 19.8
8 図書館(旭市図書館) (県立東部図書館 乳幼児室あり)	86 100.0	66 76.7	8 9.3	12 14.0	86 100.0	1 1.2	33 38.4	40 46.5	12 14.0	86 100.0	64 74.4	0 0.0	8 9.3	14 16.3

注:「5.子育て学級」の利用経験の選択肢は「参加したことがある」「参加したことがない」の2項目

表 9-11-2 「利用したくない」理由

1. 子育て支援センター	時間がない
2. つどいの広場 八二カム	ほぼ毎日来ているような保護者の会話に混じりにくく、疎外感を味わう
3. 園庭開放	保育園に入園していないので遊ばせにくい
4. 親子遊び教室	外国人なので言葉がわからない
5. 子育て学級	
6. 育児サークル	知らない人たちの中で気を遣うのが嫌だから 働いているので参加しにくい
7. 一時保育	
8. 図書館	

東金市

表9-12-1 東金市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 子育て支援センター ぼかぼか	62 100.0	26 41.9	32 51.6	4 6.5	62 100.0	3 4.8	6 9.7	47 75.8	6 9.7	62 100.0	30 48.4	2 3.2	16 25.8	14 22.6
2 つどいの広場ののびのびハウス	62 100.0	26 41.9	32 51.6	4 6.5	62 100.0	6 9.7	7 11.3	39 62.9	10 16.1	62 100.0	35 56.5	1 1.6	9 14.5	17 27.4
3 私立幼稚園 ふれあい広場	62 100.0	43 69.4	15 24.2	4 6.5	62 100.0	7 11.3	4 6.5	44 71.0	7 11.3	62 100.0	36 58.1	1 1.6	11 17.7	14 22.6
4 園開放 にこにこルーム	62 100.0	35 56.5	22 35.5	5 8.1	62 100.0	4 6.5	12 19.4	37 59.7	9 14.5	62 100.0	36 58.1	1 1.6	12 19.4	13 21.0
5 東金市児童館	62 100.0	52 83.9	6 9.7	4 6.5	62 100.0	12 19.4	19 30.6	25 40.3	6 9.7	62 100.0	47 75.8	1 1.6	4 6.5	10 16.1
6 東金市ファミリー・サポート・センター	62 100.0	23 37.1	34 54.8	5 8.1	62 100.0	1 1.6	0 0.0	50 80.6	11 17.7	62 100.0	20 32.3	3 4.8	22 35.5	17 27.4
7 一時的保育	62 100.0	44 71.0	12 19.4	6 9.7	62 100.0	3 4.8	6 9.7	46 74.2	7 11.3	62 100.0	30 48.4	2 3.2	17 27.4	13 21.0
8 親業訓練講座	62 100.0	21 33.9	36 58.1	5 8.1	62 100.0	3 4.8		51 82.3	8 12.9	62 100.0	21 33.9	6 9.7	23 37.1	12 19.4

注:「8.親業訓練講座」の利用経験の選択肢は「受講したことがある」「受講したことがない」の2項目

表 9-12-2 「利用したくない」理由

1. 子育て支援センター ぼかぼか	予約の対応が悪い 仕事をしているので利用できない
2. つどいの広場ののびのびハウス	
3. 私立幼稚園 ふれあい広場	
4. 園開放 にこにこルーム	
5. 東金市児童館	
6. 東金市ファミリー・サポート・センター	知らない人に子どもを預けるのは怖い
7. 一時的保育	安心して預けられない
8. 親業訓練講座	はじめての出産をし、1ヶ月たって自宅に市からの保健師が来たが、とても不安にさせられる事ばかり言われ、とても傷ついたしイヤだった。「普通の赤ちゃんだったらこうすると泣きやむのに」とか「他の子より体重の増えかたが悪い」とか、結局最後は大丈夫でしょうって。あんな人が市の仕事でいろいろ周っていると思うと利用したくない。 否定的なことを言われるのが怖い 難しそう、堅いイメージで行きづらい
共通	顔見知り同士で固まっていて、知らない人が入りにくい

いすみ市

表9-13-1 いすみ市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用 する	たまに利 用する	利用した ことはな い	無回答	総数	利用した い	利用した くない	必要な い	無回答
1 子育て支援センター	31 100.0	15 48.4	13 41.9	3 9.7	31 100.0	2 6.5	1 3.2	23 74.2	5 16.1	31 100.0	16 51.6	0 0.0	8 25.8	7 22.6
2 すくすくルーム	31 100.0	20 64.5	9 29.0	2 6.5	31 100.0	3 9.7	5 16.1	18 58.1	5 16.1	31 100.0	19 61.3	1 3.2	4 12.9	7 22.6
3 保育園の園開放	31 100.0	24 77.4	5 16.1	2 6.5	31 100.0	1 3.2	4 12.9	22 71.0	4 12.9	31 100.0	21 67.7	0 0.0	3 9.7	7 22.6
4 児童館	31 100.0	25 80.6	4 12.9	2 6.5	31 100.0	4 12.9	12 38.7	12 38.7	3 9.7	31 100.0	21 67.7	1 3.2	1 3.2	8 25.8
5 一時保育	31 100.0	13 41.9	16 51.6	2 6.5	31 100.0	0 0.0	0 0.0	26 83.9	5 16.1	31 100.0	18 58.1	0 0.0	6 19.4	7 22.6
6 子育てヘルパー派遣事業	31 100.0	8 25.8	21 67.7	2 6.5	31 100.0	0 0.0	0 0.0	28 90.3	3 9.7	31 100.0	9 29.0	1 3.2	16 51.6	5 16.1
7 かるがも相談	31 100.0	20 64.5	9 29.0	2 6.5	31 100.0	0 0.0	1 3.2	26 83.9	4 12.9	31 100.0	14 45.2	0 0.0	10 32.3	7 22.6
8 お誕生教室	31 100.0	18 58.1	11 35.5	2 6.5	31 100.0	2 6.5	2 6.5	23 74.2	6 19.4	31 100.0	14 45.2	1 3.2	5 16.1	11 35.5

注:「8.お誕生教室」の利用経験の選択肢は「利用した」「利用しなかった」の2項目

表 9-13-2 「利用したくない」理由

1. 子育て支援センター	
2. すくすくルーム	風邪を引いている子どもを連れてくる親がいるので、病気をもらいそうで行きたくない。予防接種がある程度完了するまでは、他の子と接触は避けたい。
3. 保育園の園開放	
4. 児童館	知り合いがいないので入りにくい
5. 一時保育	
6. 子育てヘルパー派遣事業	どんな人が来るか不安
7. かるがも相談	
8. お誕生教室	誕生月の翌月からのスタートで利用できなかった

木更津市

表9-14-1 木更津市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 地域子育て支援センター ゆりかもめ	84 100.0	64 76.2	15 17.9	5 6.0	84 100.0	4 4.8	16 19.0	57 67.9	7 8.3	84 100.0	49 58.3	7 8.3	17 20.2	11 13.1
2 つどいの広場「東清分館」	84 100.0	32 38.1	47 56.0	5 6.0	84 100.0	1 1.2	8 9.5	63 75.0	12 14.3	84 100.0	35 41.7	5 6.0	26 31.0	18 21.4
3 保育園の園庭開放	84 100.0	51 60.7	28 33.3	5 6.0	84 100.0	2 2.4	11 13.1	61 72.6	10 11.9	84 100.0	55 65.5	3 3.6	12 14.3	14 16.7
4 一時保育	84 100.0	59 70.2	20 23.8	5 6.0	84 100.0	3 3.6	8 9.5	64 76.2	9 10.7	84 100.0	51 60.7	7 8.3	14 16.7	12 14.3
5 子育て短期支援事業(ショートステイ)(トワイライトステイ)	84 100.0	16 19.0	63 75.0	5 6.0	84 100.0	0 0.0	1 1.2	67 79.8	16 19.0	84 100.0	20 23.8	4 4.8	38 45.2	22 26.2
6 母子健康相談 地区健康相談	84 100.0	69 82.1	9 10.7	6 7.1	84 100.0	5 6.0	29 34.5	41 48.8	9 10.7	84 100.0	55 65.5	2 2.4	7 8.3	20 23.8
7 1歳児教室	84 100.0	39 46.4	40 47.6	5 6.0	84 100.0	5 6.0	8 9.5	61 72.6	10 11.9	84 100.0	44 52.4	2 2.4	18 21.4	20 23.8
8 市立図書館	84 100.0	68 81.0	11 13.1	5 6.0	84 100.0	2 2.4	26 31.0	51 60.7	5 6.0	84 100.0	61 72.6	1 1.2	11 13.1	11 13.1

表 9-14-2 「利用したくない」理由

1. 地域子育て支援センター ゆりかもめ	遠くて時間がかかる 大きい子どもが自分の子どもを叩いたりしても、母親が止めようとせず、嫌な思いをした
2. つどいの広場 「東清分館」	場所などよくわからない 遠くて連れて行けない
3. 保育園の園庭開放	
4. 一時保育	1時間700円では、パートの時給の半分以上もとられる 電話対応が感じ悪く、親切心がないと聞いた 病気がうつるのではないかと心配 大丈夫かと自分が心配になる
5. 子育て短期支援事業	小さい子どもを他人に預けたくない
6. 母子健康相談 地区健康相談	保健師の態度が嫌な時がある
7. 1歳児教室	
8. 市立図書館	
共通	母親同士のグループができていて入りづらい 車を運転しないので、徒歩で行けるところがよい

南房総市

表9-15-1 南房総市

上段:度数 下段:%	認知				利用経験					今後の利用				
	総数	知っている	知らない	無回答	総数	よく利用する	たまに利用する	利用したことはない	無回答	総数	利用したい	利用したくない	必要ない	無回答
1 センター開放(三芳保健福祉センター)(富山保健福祉センター)	32 100.0	14 43.8	16 50.0	2 6.3	32 100.0	3 9.4	3 9.4	22 68.8	4 12.5	32 100.0	13 40.6	2 6.3	9 28.1	8 25.0
2 保育園の園庭開放	32 100.0	19 59.4	11 34.4	2 6.3	32 100.0	3 9.4	6 18.8	16 50.0	7 21.9	32 100.0	18 56.3	1 3.1	5 15.6	8 25.0
3 子育てサロン(とみうら元気倶楽部)	32 100.0	7 21.9	23 71.9	2 6.3	32 100.0	1 3.1	1 3.1	25 78.1	5 15.6	32 100.0	15 46.9	4 12.5	5 15.6	8 25.0
4 一時保育	32 100.0	15 46.9	14 43.8	3 9.4	32 100.0	1 3.1	1 3.1	24 75.0	6 18.8	32 100.0	14 43.8	3 9.4	8 25.0	7 21.9
5 育児相談	32 100.0	26 81.3	4 12.5	2 6.3	32 100.0	3 9.4	11 34.4	16 50.0	2 6.3	32 100.0	17 53.1	1 3.1	5 15.6	9 28.1
6 きらりんクラブ(とみうら元気倶楽部)(千倉保健センター)	32 100.0	6 18.8	24 75.0	2 6.3	32 100.0	1 3.1	0 0.0	26 81.3	5 15.6	32 100.0	11 34.4	5 15.6	8 25.0	8 25.0
7 もぐもぐ教室(千倉保健センター)(三芳保健福祉センター)	32 100.0	17 53.1	13 40.6	2 6.3	32 100.0	1 3.1	6 18.8	21 65.6	4 12.5	32 100.0	9 28.1	1 3.1	12 37.5	10 31.3
8 未来っ子クラブ(富山保健福祉センター)	32 100.0	6 18.8	24 75.0	2 6.3	32 100.0	2 6.3	0 0.0	24 75.0	6 18.8	32 100.0	10 31.3	4 12.5	9 28.1	9 28.1

表 9-15-2 「利用したくない」理由

1. センター開放	
2. 保育園の園庭開放	
3. 子育てサロン	
4. 一時保育	保育園にはあまり入れたくない
5. 育児相談	
6. きらりんクラブ	
7. もぐもぐ教室	
8. 未来っ子クラブ	場所が遠い

(10) 外出への積極性

子どもを連れて外出することへの積極性についてたずねた。「とても積極的」(23.8%)より、「やや積極的」(32.3%)が多く、両方を併せると過半数の56.1%が積極的という回答であった。また、「あまり積極的ではない」は12.9%、「全く積極的ではない」は1.4%であり、併せて14.3%であった。

子育て支援拠点の記入の有無別に見ると、ありの場合は、「とても積極的」(36.4%)の割合がなしの場合と比較して、15ポイント高かった。

外出に積極的ではない理由(表10-3)は、「子どもを連れて外出するのは大変」(51.6%)が最も多く、「行ったことがないところは行きにくい」(34.7%)、「家の中が落ちつく」(29.8%)、「家の近くに行くところがない」(29.0%)が続いた。

表10-1 外出への積極性(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	外出への積極性						無回答
		総数	とても積極的	やや積極的	どちらともいえない	あまり積極的ではない	全く積極的ではない	
全体	867 100.0	206 23.8	280 32.3	199 23.0	112 12.9	12 1.4	58 6.7	
浦安市	286 100.0	84 29.4	103 36.0	59 20.6	21 7.3	1 0.3	18 6.3	
柏市	157 100.0	33 21.0	52 33.1	43 27.4	25 15.9	0 0.0	4 2.5	
佐倉市	129 100.0	34 26.4	31 24.0	32 24.8	17 13.2	6 4.7	9 7.0	
旭市	86 100.0	21 24.4	23 26.7	13 15.1	15 17.4	1 1.2	13 15.1	
東金市	62 100.0	9 14.5	19 30.6	18 29.0	11 17.7	1 1.6	4 6.5	
いすみ市	31 100.0	11 35.5	6 19.4	8 25.8	3 9.7	1 3.2	2 6.5	
木更津市	84 100.0	10 11.9	30 35.7	20 23.8	17 20.2	2 2.4	5 6.0	
南房総市	32 100.0	4 12.5	16 50.0	6 18.8	3 9.4	0 0.0	3 9.4	

表10-2 外出への積極性(子育て支援拠点の有無別)

子育て支援拠点	上段:度数 下段:%	外出への積極性						無回答
		総数	とても積極的	やや積極的	どちらともいえない	あまり積極的ではない	全く積極的ではない	
全体	800 100.0	200 25.0	267 33.4	176 22.0	101 12.6	9 1.1	47 5.9	
あり	206 100.0	75 36.4	78 37.9	35 17.0	12 5.8	0 0.0	6 2.9	
なし	594 100.0	125 21.0	189 31.8	141 23.7	89 15.0	9 1.5	41 6.9	

表10-3 積極的ではない理由(都市別)

複数回答

都市別	上段:度数 下段:%	積極的ではない理由											無回答
		総数	家の近くに行くところがない	子どもがまだ小さい	どんなところがあるかわからない	一緒に行く友達がいない	行ったことがない所は行きにくい	利用の仕方がわからない	周囲の人たちになじめない	家の中が落ちつく	子どもを連れて外出するのは大変	子どもが泣くと困る	
全体	124 100.0	36 29.0	30 24.2	26 21.0	20 16.1	43 34.7	20 16.1	24 19.4	37 29.8	64 51.6	14 11.3	34 27.4	2 1.6
浦安市	22 100.0	7 31.8	4 18.2	0 0.0	1 4.5	7 31.8	1 4.5	3 13.6	10 45.5	15 68.2	3 13.6	6 27.3	0 0.0
柏市	25 100.0	6 24.0	5 20.0	8 32.0	4 16.0	5 20.0	4 16.0	2 8.0	5 20.0	12 48.0	3 12.0	5 20.0	1 4.0
佐倉市	23 100.0	3 13.0	7 30.4	7 30.4	9 39.1	7 30.4	5 21.7	8 34.8	3 13.0	9 39.1	4 17.4	9 39.1	1 4.3
旭市	16 100.0	2 12.5	5 31.3	2 12.5	2 12.5	5 31.3	2 12.5	2 12.5	2 12.5	4 25.0	9 56.3	3 18.8	4 25.0
東金市	12 100.0	5 41.7	3 25.0	0 0.0	1 8.3	5 41.7	1 8.3	3 25.0	5 41.7	6 50.0	0 0.0	5 41.7	0 0.0
いすみ市	4 100.0	3 75.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
木更津市	19 100.0	8 42.1	3 15.8	6 31.6	2 10.5	11 57.9	4 21.1	5 26.3	9 47.4	10 52.6	1 5.3	4 21.1	0 0.0
南房総市	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0

(11) 家庭訪問型サービスの利用の意向

家庭訪問型サービスを利用したいかどうかたずねた結果(表11-1)、「その時の事情によっては利用するかもしれない」(57.0%)が最も多かった。次に、「自宅以外の場所で利用したい」(18.5%)、「自宅で利用できるならば利用したい」(15.1%)が続いた。「利用したくない」は4.7%であった。

属性別に見ると、出生順位別では(表11-2)第1子は第2子、第3子以降と比較して、「自宅で利用できるなら利用したい」(18.3%)、「その時の事情によっては利用するかもしれない」(59.7%)の割合が高く、第2子、第3子以降は「自宅以外の場所で利用したい」割合が高かった。

家庭訪問型で利用したいサービス(表11-3)は、一時的な保育(65.3%)が最も多く、次に「産後の家事支援・育児支援」(40.8%)、「相談」(30.0%)と続いた。

表11-1 家庭訪問型サービス利用の意向(都市別) 複数回答

上段:度数 下段:%	家庭訪問型サービスの利用						
	総数	自宅で利用できるなら利用したい	その時の事情によっては利用するかもしれない	自宅以外の場所で利用したい	利用したくない	その他	無回答
都市別							
全体	867 100.0	131 15.1	494 57.0	160 18.5	41 4.7	21 2.4	63 7.3
浦安市	286 100.0	41 14.3	169 59.1	55 19.2	11 3.8	9 3.1	14 4.9
柏市	157 100.0	31 19.7	81 51.6	32 20.4	9 5.7	5 3.2	9 5.7
佐倉市	129 100.0	18 14.0	80 62.0	19 14.7	7 5.4	3 2.3	13 10.1
旭市	86 100.0	12 14.0	46 53.5	17 19.8	3 3.5	1 1.2	9 10.5
東金市	62 100.0	7 11.3	35 56.5	12 19.4	5 8.1	0 0.0	5 8.1
いすみ市	31 100.0	7 22.6	15 48.4	4 12.9	0 0.0	1 3.2	4 12.9
木更津市	84 100.0	12 14.3	49 58.3	13 15.5	6 7.1	1 1.2	6 7.1
南房総市	32 100.0	3 9.4	19 59.4	8 25.0	0 0.0	1 3.1	3 9.4

表11-2 家庭訪問型サービス利用の意向(出生順位別) 複数回答

上段:度数 下段:%	家庭訪問型サービスの利用						
	総数	自宅で利用できるなら利用したい	その時の事情によっては利用するかもしれない	自宅以外の場所で利用したい	利用したくない	その他	無回答
出生順位							
全体	862 100.0	130 15.1	492 57.1	160 18.6	41 4.8	20 2.3	61 7.1
第1子	437 100.0	80 18.3	261 59.7	63 14.4	13 3.0	11 2.5	23 5.3
第2子	310 100.0	41 13.2	175 56.5	70 22.6	22 7.1	6 1.9	20 6.5
第3子以降	115 100.0	9 7.8	56 48.7	27 23.5	6 5.2	3 2.6	18 15.7

表11-3 家庭訪問型で利用したいサービス(都市別) 複数回答

上段:度数 下段:%	家庭訪問型で利用したいサービス					
	総数	相談	産後の家事支援・育児支援	一時的な保育	その他	無回答
都市別						
全体	603 100.0	181 30.0	246 40.8	394 65.3	12 2.0	69 11.4
浦安市	204 100.0	43 21.1	87 42.6	140 68.6	6 2.9	22 10.8
柏市	108 100.0	45 41.7	60 55.6	77 71.3	1 0.9	7 6.5
佐倉市	91 100.0	18 19.8	35 38.5	65 71.4	4 4.4	12 13.2
旭市	56 100.0	21 37.5	22 39.3	33 58.9	1 1.8	5 8.9
東金市	41 100.0	12 29.3	14 34.1	21 51.2	0 0.0	8 19.5
いすみ市	22 100.0	12 54.5	5 22.7	9 40.9	0 0.0	5 22.7
木更津市	60 100.0	24 40.0	19 31.7	42 70.0	0 0.0	4 6.7
南房総市	21 100.0	6 28.6	4 19.0	7 33.3	0 0.0	6 28.6

(12) 子育てで困った経験のエピソード

「これまで育児をしていて、誰かの助けが必要だったのにそれがなくて「本当に困った!」と思ったエピソードを一つ書いてください」という設問で自由記述を求めた結果、346件(39.9%)の回答が得られた。

その内容を分類すると表12のようになった。なお、一つのエピソードの中に2つ以上にまたがる要素がある場合には、いずれか一つに限定してカウントした。

最も多かった意見は、母親自身の病気や体調不良時に関するもので、合計で149件であり、4割強を占めるものであった。ひとつは、子どもの養育を替わってもらえたり、サポートを得ることができなかった時の体験で115件のエピソード(A)があげられた。特に、実家が遠く親族を頼ることができない場合や、父親が仕事を休むことができない、帰りが遅いなどの場合に、子ども自身の食事、排泄の世話、遊びなどを母親がせざるを得ないため、十分に休養することができず、回復も遅れたなどの体験が語られている。中には、家族全員が感染症にかかって困った体験もあげられていた。また、つわりなど妊娠期の体調不良時に、上の子どもの育児に苦労したエピソードが5件含まれていた。

母親自身の病気や体調不良でもう一つの困難性は、母親自身の通院や入院に関すること(B)で34件あった。体調不良時に子どもを連れて外出することが困難な上に、健康な子どもを病院に連れて行くことや、時間のかかる病院で子どもがおとなしくできないことの気苦労、さらには、その大変さを考えた時に通院を断念したというような経験も語られていた。

次に多かったのは就労家庭における病児・病後児保育(C)に関するもので27件あった。

その次に、子どもを保護者の通院で一緒に連れて行けないことにも共通するが、他の子どもの行事や病気による通院時などに、もう1人の子どもを連れて行くことができない場合(D)に、子どもを見てくれる人がいないために苦労したエピソードなどが25件あげられた。

そのような時に、一時保育を利用することが一つの方法となるが、その一時保育が利用できずに困った体験(E)が21件あげられた。

次に、産後に精神的に辛い時期があったことや、サポートが得られなかったことなど(F)が19件あげられた。

その他、子どもの病気、事故、入院(G)などへの対応、育児全般(H)に関わること、移動の困難や設備(I)、サポートしてくれる人の必要性(J)、育児疲れ、育児ストレス(K)に関するエピソード、育児に協力的ではない父親への不満(L)、居場所・親子で行ける場所の必要性(M)、その他(N)があげられた。

また、常に助けてくれる人がいて、問題がない(O)との記述も29件あげられた。

以下にあげられたエピソードの代表的なものを示す。

表 12 困った経験のエピソード

	エピソードの内容	件数	
A	母親自身の病気や体調不良	自分の体調が優れない時にも、育児をする必要があること、そのことにより回復が遅れること 家中で病気にかかったこと うち、妊娠期の困難（5件）	115 件
B		通院や入院に関すること	34 件
C	病児・病後児保育が必要	27 件	
D	子どもを連れて行けない場所へ行く時の苦勞	25 件	
E	一時保育が利用できない	21 件	
F	産後のサポートが必要だった	19 件	
G	子どもの病気、事故、入院	16 件	
H	育児全般（子どもの泣きやぐずりへの対応など）	14 件	
I	移動の困難・設備	12 件	
J	サポートしてくれる人の必要性	9 件	
K	育児疲れ、育児ストレス	6 件	
L	育児に協力的ではない父親への不満	5 件	
M	居場所・親子で行ける場所の必要性	3 件	
N	その他	11 件	
O	常に助けてくれる人がいて、問題がない	29 件	

表 12-A 母親自身の病気や体調不良 (体調不良時の育児)

自分が風邪で高熱が出ていた時にも、2人の子どもの面倒を見なければいけなかった時。
自分の体調が悪い時、子どもの世話があって、休むことが出来なかった事。
40度の熱があるのに、2人の子どもに振り回されながら家事をしなければならなかったこと。
自分も子どものほうも風邪で、主人は仕事を休めず、子どもは熱があるけど、走り回って外で遊びたいと泣きわめいた時は本当に困りました。
夜間や早朝などに自分の具合が悪く、主人は仕事で留守、近くに頼る人もいなくて子どもの面倒を見るのが辛かった時があります。
風邪をひいてしまって、熱を出して動けないのに、子どもに食事をさせなければならなかった時。
自分が高熱を出して寝込んだ時。1日なら夫が母に頼んだが、2～3日続くとさすがに頼れず、フラフラしながら家事をした。
自分が体調を崩していて何もできないのに、子ども2人も体調が悪く、しかし主人が会社を休めなかった時。
自分の体調がすぐれないのに、長男の幼稚園の送迎や、長女の世話がかった時。
急に体調が悪くなり、起きあがれなくなったことがあり、夕方夫に帰ってきてもらった。まだ母乳を飲んでいたので、離乳食なしで母乳だけで朝と昼は済ませ、夜は夫に食事と風呂を頼み、済ませた夫はまた会社に行った。母親が起きあがれないと、預けに行くことが出来ず、どうしようかと思った。
自分が病気になった時に、育児を手伝ってくれる人が近くになくて、熱で風邪気味の中2～3日育児したのが大変でした。両方の実家も遠く、母乳なので、どこかに預けることも出来ずに困りました。ヘルパーさんをお願いしようと思ったのですが、部屋が散らかっていて恥ずかしかったので、お願いできませんでした。
昼間、私に突然お腹に激痛がきて、動けなくて、なんとか上の子に携帯を取ってもらって、夫にTELして、帰ってきてもらうまで、1～2時間ひとりで大変でした。
昨年冬に、私がインフルエンザにかかってしまい、病院の先生に赤ちゃんとは離れて生活するように言われたのですが、急でとても困りました。
体調が悪い時に、子どもを見てほしかったが、前もってわかることではないので、保育所に預けられないので困った。
自分と子どもが一緒に病気の時。ピーク時に義父が家に来てくれたが、出来ることはほとんど無く、病院も子どもと一緒に2軒行かなければならず、義父の手前ヘルパーさんも頼めず、治りかけの体で看病と家事が大変だった。
尾てい骨を骨折して、抱きかかえるのも困難だった時。
子どもが1歳になる前、自分が40度以上の熱を出してしまい、起きあがれず、主人も仕事を休むことが出来ず、本当に困った！！
風邪をひいたりしても、誰も子どもの世話をしてくれる人がいない時。うつしたくないので、そばに近づけたくないけれど、寄ってくるし、寝込んでいられない。休養できないので、いつもなかなか体調が戻らない。
自分も発熱時、子どもが治りかけても、なかなか二人同時に治らず、何日も長引いてしまった。
家族全員が風邪で高熱を出し、子どもの看病が思うようにしてあげれず、本当に困った。病院へ行くにも大変で困った。
子どもが1歳5ヶ月の頃、自分が手術をして、退院後すぐに面倒を1人で見なければならず、動き回る子どもに手を焼いた。
夫は仕事の日で自分が体調が悪く、子どもがよちよち歩きで目が離せない0歳の頃。吐き気、頭痛、熱で横になっていたかったが、それが出来ず辛かった。
自分が具合が悪く、子ども2人の面倒を見れず寝込んでいる中、遊んでとせがまれたり、トイレの世話、食事の世話が大変だったこと。
転勤した地で、実家も遠くなり、自分が入院する病気になった時に、子どもがまだ小さかったので、通院しながら治療したことが大変でした。
つわりがひどく、お兄ちゃん(上の子)の幼稚園等の送り迎えが困難で、他に頼る人がいなくて大変でした。
2人目を妊娠中に安静するように言われて家事が出来なくなって、両親も仕事をしていたので、長男のお世話がちゃんとできなかったのが、本当に困ったことがあった。

表 12-B 母親自身の病気や体調不良 (通院や入院に関して)

私が具合が悪い時、病院に行きたくても小さい子どもがいると、病院まで行く気になれず、我慢してしまう。
私が具合が悪くなり、寝込んだが、誰も子どもを見る人がいなくて、病院にも行けなかった事。
私(母)が体調が悪く、急だったので、誰にも預けられず、子ども2人をつれて、病院に行った。かなり混んでいた ので、上の子が飽きてしまい、ちよろちよろしたり、ぐずったりで、他の患者さんに迷惑をかけてしまった。私も具合が 悪かったので余裕がなく、本当に困ってしまった。
私が熱を出してしまい(妊娠している時)産婦人科に行き、薬を処方してもらおうと思ったが、上の子も熱を出して いたので、病院に行けなかったこと。
風邪をひいて病院に行きたいのに、預ける人もいなくて、一緒に連れて行った時、自分も体調が悪く大変だった。
1歳未満の子どもを気軽にすぐ預かってくれる場所がなく、急きょ歯医者に行く事になったが、どうしようもなく、子 どもを連れて医者に行った。でも、もちろん大泣きされて、応急処置も出来ない状態だった。
子宮ガン検診のはがきが届き、すぐにでも検査を受けたかったが、子連れで病院に行けないので、診察してもら っている数分でいいので、一瞬みてもらえたら、と思う。
子どもが3ヶ月の時いきなり乳腺炎で40度の高熱が出てしまい、病院に行きたかったが、子どもと共に行く自信が なく、困った。しょうがなく、やや遠方に住んでいる母親に来てもらった。
自分が病院に行く時に、5ヶ月の子どもを見てくれる人がいなくて、病院と一緒に連れて行った。トイレにベビー ベッドがなく、待合室に子どもを1人で残し、自分のトイレをした。
子どもも自分も風邪をひいてしまい、子どもの病院には行けたが、自分は行けずに、なかなか治らなかった。子ど もを預ける人がいないので辛かった。
突然、急性胃腸炎をおこしたとき、たまたま誰もつかまらなくて、仕方なく子ども(生後4ヶ月)を連れてタクシーで 病院へ行ったが、点滴をしなければならず、看護師さんもみな忙しくて、子どもを抱っこ出来なかった事がある。(ボ ランティアの人に助けてもらいました。)
上の子どもと夫がインフルエンザにかかって、病院に行く際、下の子どもをみてもらえる人がちょうどいなく、健康 な子も病院に連れて行かなくてはいけなくなった時。
急に具合が悪くなり(発熱、ふるえ、痛み)子ども(3ヶ月頃)を抱くことも出来なくなり、病院に行きたくても運転が 出来る状態ではなく、主人は仕事なので、どんなに急いでも1時間はかかるといわれ、本当に困りました。
病院にかかりたくても、行きそびれる。美容院へ行くのも、預けられる人や日程も選べない。
上の子も小さく、妊娠中に病気になり、病院から治療を断られて本当に困ったことがあります。夫が単身赴任中、 実家も不在、友人は皆小さい子がいるので、なかなか上の子の面倒を見てとはいえなかった。
2人目妊娠中の今、健診に行くのに、予約していても時間がかかり、子どもがぐずってしまい疲れて帰宅すること。
自分が病気になって、入院をせまられた時、預けるところが無くて困った。
病気の時、入院することになったが、父親も祖母も仕事のため、一時保育も考えましたが、場所の問題もあり、実 家のある横浜に帰って横浜の病院で入院しました。

表 12-C 病児・病後児保育が必要

突発性発疹の時、妻が看病していたが、年次有給休暇を使い切ってしまった。
子どもが急に熱を出した時、仕事をしているので、子どもを預かってくれる人(所)がなくて困りました。
急な病気の時、預ける場所がなく、仕事を休まざるを得ない。
急な用事、仕事の時の預け先。病児保育の場がもう少しあればよい。
共働きなので、熱などで何日も看病してはいけませんが、仕事をあまり休めない時。
感染症にかかり、病後時保育をしてくれる所が近くにない、託児所がなく、病院に併設して作って欲しい。
子どもが熱を出して3日以上になり、仕事も休めず、病児保育を利用しようとしたら8~17時で時間外が効かなく、 預けられずに結局仕事を休むしかなかった。仕事は8:30~17時なので、非現実的なシステムだと思いました。
子どもが病気(熱など)になったのと、仕事でどうしても休めない時が重なった時に困りました。
育休後一時的に職場復帰した際に、子どもが熱を出してしまい、保育園に行けずに困りました。子どものことを考 え、退職することにしました。病児保育などの必要性が問われていますが、職業人としての責任ばかりではなく、母 親としての責任を果たすことにも目を向けて欲しいので、育児に対する職場の理解を深めて欲しいと思いました。

表 12-D 子どもを連れて行けない場所へ行く時の苦労

<p>上の子の卒業式や入学式など、子連れでは出席しづらい事があったが、誰にも頼めず、式に出席するのをやめようかと思った。年が離れている姉妹を持つ方でないと、分からないことだと思う。</p>
<p>上の子の行事がある時、連れて行って迷惑になるのでは、と気持ちが重い時がある。</p>
<p>下の子が新生児で、上の子が病気になった時。病院に下の子を同伴させるわけにもいかずに困った。</p>
<p>兄弟が入院し、下の子が病室に入れなかった事があった。小児科(病室)に子どもが入れないのです。結局、当時5歳だった子を病院内の待合室などに1人で待たせるしかありませんでした。次の日からは、保育園に預かってもらいましたが、急だったので本当に困りました。</p>
<p>大学病院に下の子をつれて行く時に、上の子がまだ3歳で、眠くなりぐずぐずで、何時間も待つ時は、誰かが1人居てくれたら、先生の話もきちんと聞けたし、思った事を聞けたのに、と1人で焦りました。</p>
<p>上の子どもが病気で、病院へ連れて行くのに、下の子どもも連れていかなければならず、別の病気を下の子どもがもらってしまった。少しの時間、簡単に預けられると助かります。</p>
<p>きょうだいのPTA活動、行事の時は、本当に大変です。生後1ヶ月でも会議やらに出席させられました。</p>
<p>3人兄弟で、娘がまだ小さい時に、兄が怪我をして病院に行く時、怪我をした兄と首がすわったばかりの妹を連れて行くのが大変でした。緊急の時には、なかなか預け場所も時間もなく困ります。</p>
<p>急な仕事が入ってしまった時に、子どもをみてもらえる人がいなくて、子どもを連れて仕事に行ったら大変だった。</p>
<p>上の子の学校行事があり、小さい子は連れてくるなど手紙に書いてあった時、預け先もなく、連れて行くわけにもいかず、「本当に困った!」。元気な時だったら、一時保育が出来るのだが、その時の息子は健康ではなかったので(足にギブス状態)預けられなかった。</p>

表 12-E 一時保育が利用できない

<p>急な歯痛で子どもをみてくれる人がいなく、公立保育園はいっぱい断られた。</p>
<p>6ヶ月の時入院することになって、2歳の長男もいて、病室には子どもは入れない決まりがあり、一時保育に預けることにしたが、2日間しかとれなくて(一週間入院)病院に行っても着替えを置いて帰るだけの日があった。</p>
<p>保育園の一時保育を急病の時全保育園に問い合わせしたが、前月の月初めに一杯になりました、と。緊急時の予約が1ヶ月前に一杯?おかしな話ですね。</p>
<p>下の子の出産の時、手伝いに来てくれていた義母が倒れ、私が入院中に上の子を見てくれる人がいなくなると分かった時、急遽一時保育をしてくれる所を探したが、どこも一杯で、受け入れてもらえなかった時は本当に困った。</p>
<p>自分の調子が良くなく、急に子どもを預けたい時、預け場所が見つからず困った。保育園の一時保育もほぼ満員でいつも使えない。</p>
<p>子育て支援センターの一時保育は利用しやすい料金で、とてもありがたいが、人気で予約が取れないことがしばしば...。人間ドックなどの予約をして、行かなくてはいけないところを、やむを得ずキャンセルばかりしています。もっとワクを拡げて欲しいと思います。</p>
<p>就職の面接を受けたい日に、一時保育が予約いっぱい利用できず困った。一時保育は病気など急な時には利用できないので、不便だと思った。</p>
<p>家計が厳しく、保育園に預けられなかった為、安い賃金で子どもを預かってくれる場所が欲しかった(1ヶ月でも)。</p>
<p>子どもが年子なので、予防接種や健康診断が結構多くて、その度に1人をどこかに預けたくてもなかなか一時保育をしてもらえるところがなくて困った。</p>
<p>冠婚葬祭は土日だったり、遅い時間なので、預かってくれる機関が無くて困る。</p>
<p>急に葬儀があっても家族で出かけてしまえば、小さな子どもが行くところが無く困った。葬儀会場にも連れて行けないので...。無認可などの保育所もあるが、人見知りが多いし、値段も高く、預けられなかった。</p>
<p>急に用事が出来た時、2、3時間だけ子どもを預けるところが見つからなかった。</p>
<p>土曜日に一時保育してくれる公共のところがない!</p>

表 12-F 産後のサポートが必要だった

<p>第二子の産後、半年間くらい、上の子が情緒不安定で、友達に対して攻撃的になった時期があった。「上の子にもっと愛情を」とわかってはいるつもりでも、実際にはそれが充分に出来ないことに自己嫌悪を感じ、イライラして、悪循環だった。周りの友達が2人目育児をうまくこなしていることが多かったので、余計に落ち込んだ。あの時期に同じような経験をした年配の方、先輩ママにアドバイスをいただく機会があれば、もっとラクになれたかなと思う。</p>
<p>2人目を出産後、私が体調を崩し、5歳の上の子をまともに遊ばせることが出来ず、とても辛かった。</p>
<p>産後貧血がかなりひどく、ほとんど動けないのに、日中は誰にも手伝いを頼めなかった事。ヘルパーも迷いつつTEL出来なかった。（「利用者の声」とかを見ていれば、あと一步、TELをかけられた気がする）。</p>
<p>子どもが産まれて間もない時に、乳腺炎になり、外には連れ出せる年齢でなく、病院にも行けずに本当に困りました。結局、助産婦の方に出張で来てもらいました。</p>
<p>産後数ヶ月は、育児で眠ることも食べることもままならず、毎日いっぱいいっぱいで、フラフラ(体力的に)。2時間でいいから寝たいとずっと思っていた。毎日子どもと2人だけでもって、手がかかる子だったのに、誰にも理解してもらえず、精神的にもおかしくなり、このままでは虐待してしまうのでは？と思っていた。半日といわず、数時間でもいいので、リフレッシュ出来る時間が欲しかった。かなり危なかったと今は思う。子どもにすまない気持ち。</p>
<p>産後1ヶ月～2ヶ月の間、精神的に不安定で、腰痛、乳房の痛みで大変だった時、母とは不仲で、夫も朝早くから夜遅くまで仕事で、誰にも手伝ってもらえず、アドバイスしてくれる人もいなかった事。産後、2週間後、子どもの成長を見てもらおうと、婦人科で助産師さんに話を聞いてもらった時は、泣いてしまいました。</p>
<p>産後1ヶ月は母子とも外出出来ず、精神的にも肉体的にも憔悴しきっていました。1ヶ月健診の前に(2週間くらいで)、小児科医、もしくは保健師のアドバイスを頂けたらもう少しゆったり育児できたのかな、と思います。</p>
<p>実母が遠いので、出産後の助けが必要だったが、出来なかった。夫の母は来たが、気を遣ってしまう為。</p>
<p>2人目妊娠中、つわりと夜泣きが重なった時。出産時、陣痛が来ても、子どもを連れて入院生活を送らなければならなかった。</p>

表 12-G 子どもの病気、事故、入院

<p>主人が海外出張に行った次の日、2番目の子が水疱瘡にかかり、その後感染性胃腸炎にかかった。3番目も次々と同じ病気にかかった。近所の友人と、実家の母に来てもらったが、来てもらうまでが大変だった。</p>
<p>夜、お風呂上がりに子どもが転んで、頭の後ろを1センチ位パッキリ切れて、血が一杯出たので、心の中では、すご〜くあせったのですが、子どもにそれを見せたらダメだと思いつつ、子どもには、大丈夫！大丈夫！って言い、病院に行かなくてはいけないのか？その後判断に困り、実家に tel してしまいました。その時には、血はだいぶ出なくなっていたので、病院へは行かなくて済みました。</p>
<p>まだ自分の車もない時に、子どもが高い所から落ちた時、どうして良いか分からなかった。</p>
<p>病気時、特に入院時にずっと付き添いが必要で、会社に行く必要があるときに、行けなかったこと。</p>
<p>主人の留守中、子どもが入院した時。入院中の子ども体が辛く、甘えたり、付き添いが必要。でも、他の2人の子も、初めての主人の留守で不安な上に、きょうだいの入院、私も主人も居ない状態での実家泊まり。3人共、様々な不安があったのだらうと思い、健康が一番だと思つづきました。</p>
<p>娘の入院中、付き添いで泊まっている私には、食事、風呂など無しで、病院の売店まで往復だけで10分以上かかるという状態の時、全く娘のそばを離れられず、危うく私が絶食するしかない様な状態があった時。</p>

表 12-H 育児全般

<p>泣きやまない、言葉が通じないから原因が分からない。</p>
<p>子どもが寝ぼけて大声で泣き叫んだ時。(30分以上)何をやっても泣きやまず、病気かと思った。</p>
<p>料理をしている時に、足に絡まる様にして、泣きながら暴れられた時。</p>
<p>0歳児の頃、子どもが泣きやまない時が数回あり、原因が全く分からず、1人で途方に暮れました。</p>
<p>買い物に行っておとなしくカートに乗ってくれなくて、騒ぎ始めた時。</p>
<p>2人の子どもが年子で、2人同時に泣かれた時。</p>

夜泣きの時、自分じゃないと泣くので、本当に困りました。
病院に1人で連れて行くのに、チャイルドシートに乗せたら、ずっとギャン泣きされた時。
急ぎの銀行、役所等の手続きで、子どもがぐずってどうにもならず、結局用事が済ませなかった。
第2子育児中、湯船でフロートを使用すると、激しく嫌がった。腰がしっかりすわるまで、毎日自分の膝の上に抱いていて、自分はほとんど洗えず、長女もいたので、お風呂タイムは毎日が戦争だった。

表 12- I 移動の困難・設備

年子の2人が同時に寝てしまった時のバス等の乗り降り。もっとノンステップバスが増えると良いと思います
3人娘がいるので、2人以上の子が寝てしまうと、移動がとても大変で、困ってしまうことがあります。
地震で駅のエレベーターが停まった時。たくさんの荷物とベビーカーを持ち、さらに娘を抱くのは危険なので、小さな娘にがんばって階段を降りてもらった。降りきるまで30分、たくさんの人が過ぎてゆくけれど、声をかけてくれる人はなく。
電車の中で、妊娠7ヶ月でベビーカーをかついで、ぐずる子どもを(1歳4ヶ月)を抱いて立っているのに、誰も席なんか譲ってくれなかった。
ベビーカーで出かけた時、エレベーターのない駅や施設で子どもを抱っこしながら、荷物とベビーカーを抱えて、階段を上ったり下りたりしなくてはいけなかった時。
子どもがまだ歩けない時に、自分が出先でトイレを使用したいのに、トイレが狭く、ベビーカーを中へ入れなかったこと。子どもが寝ている時、首が据わっていなかった時など。困ったことが多くありました。
トイレに行きたくて、でも子ども用イスが無い時など。だっこやおんぶをして用を足した時は大変だった。

表 12- J サポートしてくれる人の必要性

兄(7歳)にみてもらっていたのだが、限界があり、妹を嫌いにさせかけて、しまった。
生活する中で買い物になかなか行けなかったり、自分が体調がすぐれない時など、子育てを手伝ってくれる人が近くに必要であった。
家に子どもと2人きりで、お風呂にはいる時。誰かがいれば、子どもを見てもらっている最中に、お風呂に入る事が出来るけど、誰もいなければ、入る時、子どもを見ながら入るので大変。
両親がいないので、やはり、子どもが産まれてからのサポートで、自分の親(特に母親)の助けがある人たちとは、気持ちが(気持ちの余裕)が全く違うなと思いました。

表 12- K 育児疲れ、育児ストレス

同居という立場上、精神的な事で話す相手がいなくてヒステリック気味になって子どもに当たった事があり、今になって反省している。ストレスもある。
イライラして仕方ない時10分でもいいから1人になりたいと思ってもなれない時。
主人の転勤、祖母、そして母の入院が重なり、本当に24時間子どもたちと3人だけの世界で辛かった。主人も朝早くから夜遅くまで仕事で、家に居ないので、母子家庭の様だった。誰にも頼れず、全て1人でかかえこみ、大変だった。
夜寝られない日が1年以上続いて、本当に大変でした。
夜泣きがひどかった頃(生後7~10ヶ月頃)、精神的に辛かったが、1人で出かけたりすることも出来ず、なかなかストレスを発散出来ず、子どもにあたってしまった事が何度かありました。
自分も疲れてイライラしている時に、子どもが泣きやんでくれず、同居の祖母に頼みたかったが、祖母も機嫌が悪くて部屋に閉じこもっていて頼みづらかった時に、困ったなと思いました。

表 12-L 育児に協力的ではない父親への不満

<p>家族の人が風邪をひいて、自分もかなり体調が悪かった時、主人がゲームに夢中で、自分ひとりで子どもの面倒を見た時。「こんな時だけでも子どもの面倒を見て欲しいのに！」と主人へのいらだちもあり、本当に困った！と思いました。</p>
<p>夫に育児の協力を求めたところ、「手伝ってもらえるのは当然だと思うな、手伝ってやるのはサービスだ。」と言われたことがある。</p>
<p>夜中に2人共起きてぐずった時に、パパが起きてくれなかったことが一番困りました。</p>

表 12-M 居場所・親子で行ける場所の必要性

<p>土日や雨が降った日に近場で、屋内で遊ばせる施設がなかったため、第二子が半年ぐらいの時までは、非常に困った。現在は、徒歩圏内でも少し良くなったが、土日は今でも公園以外の遊び場がない。年齢の違う兄妹が安心して遊べる場所は少ない。</p>
<p>息子が歩けるようになる前、午前中に遊ばせられる所がなくて、遊戯室が午前中から開いていてくれたら、利用できて良いのにと思いました。</p>

表 12-N その他

<p>小さな子どもがいても、働ける状況が整っていないと思います。保育園に入れず、今困っています。託児所は高く、働きたいのに赤字になってしまいます。</p>
<p>子どもの幼稚園選びで、2年保育か3年保育かで相当悩んだが、情報を聞ける友人がおらず、あちこち調べたがなかなか決められずにいた。</p>
<p>引っ越しの際の銀行も含めた諸手続きで忙しくて、時間もかかるし、子どももぐずるしで、何日かに分けて行い、困りました。</p>
<p>新天地で誰も知らず、実家も離れていて、移動手段は徒歩のみ、初めての子どもは小さくてなんだか分からず、体調をくずした。</p>
<p>毎日が大変で、昨日までのことは大半を忘れてしまっています。ゆえに覚えていません。強いて言うなら、トイレに行かれない、ご飯が食べられないなど。</p>
<p>産休を取っていたけど、保育園に入れなくて仕事をやめた。</p>

表 12-O 常に助けてくれる人がいて、問題がない

<p>誰かの助けが必要な時には、必ずその誰かがいてくれるので、本当に困った事はありません。特に配偶者は常に協力してくれるので、日々感謝しています。</p>
<p>特にありませんでした。(主人の実家が近いので、どうしてもという時は助けてもらいます)</p>
<p>何事も、どうにかなっているのだから、本当に困った！ということはないです。</p>
<p>幸い今現在は実家が近いので、困った時は(自分が病気になった時)両親に助けてもらい、大変有り難く思っています。しかし、転職になったらきっと困ることが出てくるだろうと思います。</p>
<p>特にない。いざというときは必ず、誰かに頼る！</p>
<p>私は運良く姑との同居がうまくいっていて、子育てもすぐ手伝ってくれるので、困ったことはありません。</p>
<p>子ども中心の時期はいつまでも無い、との考えなので、今は無いです。</p>
<p>特になし。有り難いことに周囲の協力を得ることが出来て、恵まれています(同居なので)。核家族の友人達は、ママが病気になると本当に困るようです。</p>

2. インタビュー調査結果

(1) インタビュー調査実施都市の特徴（アンケート結果）及び調査実施実績

表 13 インタビュー調査実施都市の特徴及び調査対象者数

		アンケート調査結果に見る特徴	協力者数	調査実施予定数	調査実施数
葛南 ・ 東葛 地域	浦安市	<p>核家族（夫婦と子ども）が9割と極めて多く、居住歴は3年未満が約4割で、集合住宅で暮らす家族が8割を越すなど、埋め立て地などの開発地への転入者が多い特徴がある。</p> <p>また、無職の母親が約8割で、母親の就労率は約2割と低いが、フルタイム勤務の割合は約6,7割で他市と比較して高い。</p> <p>用事がある時に子どもをみてもらえる人が「いない」割合が約3割でどの都市よりも高い。そのため、最も必要とする子育て支援サービスとして「一時的保育」を選択する割合が7割弱と高かった。</p> <p>子育て支援サービスの認知は他市と比較して高い傾向にあり、今後利用したい意向も同様に高い。</p> <p>また、外出への積極性は65.4%で最も高かった。</p>	42	20	17
	柏市	<p>核家族が83%、居住年数3年未満が4割を越すなど、転入者が多い特徴があるが、居住形態としては集合住宅と一戸建てが半々である。77%が無職の母親である。</p> <p>用事がある時に子どもをみてもらえる人が「いない」割合は約2割であり、最も必要とする子育て支援サービスとして「居場所提供」と「一時的保育」がほぼ同じ割合(57%)で選択されていた。</p> <p>子育て支援サービスの認知や利用意向については、「必要ない」とする回答が見受けられるものもあり、一時的保育やファミリー・サポート・センターなどについて、「必要ない」とする回答が3割を越すなどの特徴がみられた。</p> <p>日常的な外出先として、実家を記入したものが約2割あり、転入者と比較的身近に親戚がいる家庭が混在していると考えられる。</p>	24	16	14
山武 ・ 夷隅 地域	東金市	<p>4対象都市の中で最も同居家族が多く（26%）、一戸建てに居住する割合が高く（82%）、居住年数5年以上が44%などの特徴がある。また、日常的な外出先として、実家の記入が35%あることから、比較的身近に親戚などの援助者がいることがうかがわれた。また、子どもの出生順位が第2子である割合は他市より高く、45%であった。</p> <p>母親は約3割が就労し、その4割がパート勤務。</p> <p>子育て支援サービスの認知は高いものもあるが低いものもあるなどバラツキが見られた。</p> <p>また、一時保育やファミリー・サポート・センターについて「必要ない」とする回答が3割前後であった。</p>	7	4	3
君津 ・ 安房 地域	木更津市	<p>他の対象都市と比較して子ども数が3人以上が約2割であり、健診受診児が第3子である割合が18%と高かった。同居家族のいる割合は21%、一戸建てに居住する割合が62%と高かった。居住年数は3年未満が4割、5年以上が3割であり、転入者と比較的身近に親戚がいる家庭が混在していると考えられる（日常的な外出先としての実家の記入は40%）。</p> <p>母親の年齢は、20歳代が他の対象都市に比較して多い(38%)ことも特徴である。母親の就労率は28%で、その約半数がパート勤務であった。</p> <p>子育て支援サービスの今後の利用意向については、居場所提供の機能を持つものは「必要ない」との回答がみられるが、子どもの出生順位との関連がうかがわれる。</p>	14	7	7
合 計			87	47	41

*実施予定数と実施数の差は当日キャンセルによる。

(2) インタビュー対象者の属性

インタビュー対象者を実施した41名の属性は、表14-1から表14-5に示す通りである。

表14-1 出生順位(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	出生順位			
		総数	第1子	第2子	第3子以降
都市別	全体	41	27	10	4
		100.0	65.9	24.4	9.8
	浦安市	17	11	6	0
		100.0	64.7	35.3	0.0
	柏市	14	9	3	2
		100.0	64.3	21.4	14.3
東金市	3	3	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	
木更津市	7	4	1	2	
	100.0	57.1	14.3	28.6	

表14-2 同居家族の有無(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	同居家族の有無		
		総数	なし	あり
都市別	全体	41	35	6
		100.0	85.4	14.6
	浦安市	17	17	0
		100.0	100.0	0.0
	柏市	14	11	3
		100.0	78.6	21.4
東金市	3	2	1	
	100.0	66.7	33.3	
木更津市	7	5	2	
	100.0	71.4	28.6	

表14-3 母親の年齢(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	母親の年齢				
		総数	10代	20代	30代	40代
都市別	全体	41	1	10	29	1
		100.0	2.4	24.4	70.7	2.4
	浦安市	17	0	3	13	1
		100.0	0.0	17.6	76.5	5.9
	柏市	14	0	5	9	0
		100.0	0.0	35.7	64.3	0.0
東金市	3	1	0	2	0	
	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	
木更津市	7	0	2	5	0	
	100.0	0.0	28.6	71.4	0.0	

表14-4 居住形態(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	居住形態		
		総数	一戸建て	集合住宅
都市別	全体	41	13	28
		100.0	31.7	68.3
	浦安市	17	2	15
		100.0	11.8	88.2
	柏市	14	3	11
		100.0	21.4	78.6
東金市	3	2	1	
	100.0	66.7	33.3	
木更津市	7	6	1	
	100.0	85.7	14.3	

表14-5 居住年数(都市別)

都市別	上段:度数 下段:%	居住年数				
		総数	1年未満	3年未満	3年~	5年~
都市別	全体	41	5	15	11	10
		100.0	12.2	36.6	26.8	24.4
	浦安市	17	4	8	2	3
		100.0	23.5	47.1	11.8	17.6
	柏市	14	0	4	4	6
		100.0	0.0	28.6	28.6	42.9
東金市	3	0	2	0	1	
	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3	
木更津市	7	1	1	5	0	
	100.0	14.3	14.3	71.4	0.0	

(3) 情報提供

1) 情報提供に関する問題点

情報提供に関するインタビュー調査の結果抽出された問題点として、以下の3点があげられた。

情報提供のタイミングのずれ

情報の発信（行政側）と情報の受け手（保護者）側が必要とする時がずれているために、結果的に提供した情報が生きていない。

多くの自治体では、保護者から妊娠の届け出があった際に母子健康手帳とともに妊娠・出産、育児、地域資源に関する情報提供が行われている。この時の情報には妊娠期から思春期までを総合的に網羅する子育て支援施策、保健福祉・医療情報、教育など様々な情報がパッケージされることが多い。しかし、妊娠期における保護者の最大の関心事は、その時期に必要な妊娠中及び出産、出産直後のことまでであり、それ以外の情報については目を通したかもしれないが、あまり記憶に残らないことが多い。インタビュー調査の中で、「妊娠の届けの時にもらった情報を活用しているか」という問いに対して、あまり記憶にないという回答も聞かれた。

また、出産後に子どもと外出できる時期は妊娠の届けから1年を経過して以降のことが多く、例えば地域子育て支援センターの利用など、現在のように新たな拠点が整備中の時期にあっては、新しくできた地域資源に関する情報が更新されていないという問題もある。そのため、妊娠期に一括して渡す情報を更新する必要性についても検討が必要である。

情報提供のもれ

インタビュー対象者の中には、出産時の居住地と現在の居住地が異なる人もおり、で述べた妊娠期に受け取る情報は現在の居住地のものではなく、転入時に当該自治体の情報を受け取っていないという人もいた。転入時にすべての住民に配布される情報は受け取っていても、特に小さい子どもがいる家庭に必要な地域資源に関する情報、小児医療体制や保健指導に関する情報などを受け取っていない人もいた。以前の居住地でもらっていた情報と同じものを求めて、自ら窓口に問い合わせに出向いた人もいたが、「転入世帯に子どもがいることを見逃さずに、情報提供する」仕組みの構築が必要という意見があげられた。

また、自治体が地域情報についての情報誌などを作成する時期が妊娠・出産期からずれている場合に、例えば、市役所や地域子育て支援センターなどの親子の集まりやすい場所において配布している例が見られたが、その方法ではそのような場所に行っていない保護者は入手できないため、新たに情報誌が作成されたことを広く周知することや、多くの親子が参加する健康診査などの時に漏らさず配布できるよう、一人一人に入手の状況を確認することも求められる。

不親切な情報提供

さまざまな親子の多様なニーズに対応するためには、限られたスペースの中に数多くの情報を提供する必要がある。また、サービスがあることを明確に伝えるために、簡潔に情報提供する手法がとられることもあるが、多くの情報がサービスの存在と最小限の情報提供にとどまり、「詳しくはお問い合わせください」という内容になっていることが多い。利用するためには「必ず」何らかの問い合わせをしなければならぬ情報提供のあり方が抵抗感となる人もおり、サービス利用につながりにくい実態が見られた。

子育てをスタートさせた時期の保護者に必要な情報提供のあり方として、どのような情報提供の仕方や内容が好ましいかについての検討が求められている。

2) 情報提供についての要望

1) で抽出された問題点に対して、具体的にどのような要望があったか、その背景や理由を整理した上で、考えられる方法が提案された。また、あげられた意見をまとめて、新たな提案をしたものも含まれる。

A. いつ

情報提供の時期について、具体的には「子どもが生まれてから」、「子どもと外に出られるようになってから」、「子どもが歩き出したころ」などのタイミングを捉えた情報を必要としていた。

それぞれの時期やタイミングを捉えて、その時期に利用できる施設やプログラムなどが紹介されることへの要望があげられた。子どもが生まれてから歩き出すまでの約1年の期間に必要と想定される情報であっても、それを一度に出すのではなく、その時々に必要な情報がほしいということである。

特に初めての子どもを育てる場合など、さまざまな情報を必要としており、子どもが小さい時ほど情報が必要であるが、「特に1歳までが情報が受け取りにくい」という指摘も複数あり、この時期の情報提供の方法を検討する必要性は高い。

考えられる方法としては、新生児訪問、3～4ヶ月健診、1歳6ヶ月健診などの機会を捉えて、その時期に必要な情報の提供をしていくことがあげられた。実際に、このような機会に情報提供がなされている例も聞かれており、インタビュー対象者からはその情報提供が役立ったことが語られており、効果が確認された。また、出産後に外に出かけるようになる頃、子どもを抱いたり、ベビーカーを利用しながら出かける時期、また、子どもを歩かせながら出かけることができるようになる時期に、それぞれの時期に出かけていける場所についての地域情報を提供することに効果が期待される。

B. どのように

次に、どのように情報を受けることを希望しているかについては、個人宛に情報を提供してほしいという意見があげられた。具体的には郵送やポスティングなどの方法があげられたが、個人宛に送られる情報であれば、必ず目を通すということがその理由としてあげられている。また、情報を受け取りにどこかで出向かなくても手に入る仕組みがほしいという意見もあげられた。その頻度も、2ヶ月ごと、半年ごとなどがあげられた。その理由として、実施頻度の少ないものなどは一度情報を逃すと利用できないことや、自宅にいながらにして得られる情報として、広報誌などがあるが、対象が広いため、十分な情報が得られないことが指摘された。

考えられる方法としては、A「いつ」とも連動するが、子どもの成長により必要な情報の内容が異なるため、子どもの月齢に応じた情報提供があげられた。また、具体的な方法として、登録制で携帯電話へのメールマガジンを配信する方法がインタビュー対象者から提案された。すなわち、居住地域、月齢別に利用者が登録し、絞り込まれた情報を定期的に流すような仕組みである。後述するように、現在子育て中の保護者にとって携帯電話が情報収集の一つのツールとなっていることから、気軽に情報収集できる方法となり、かつ、絞り込みがされた情報を収集することが可能となる。

C. 情報の提供場所

情報の提供場所の要望については、子育て支援をすでに利用している人は、行った先で情報が得られるが、どこにも行っていない人にも情報が得られる仕組みが必要となる。アンケート調査結果でも、そのことが明確に差となって示されていた。例えば、地域の公共施設なども含め、誰でもが行きやすい場

所に地域情報を集め、そこに行けば情報が得られることを広く周知することが求められている。

つまり、子育て家庭だけを情報提供のターゲットとするのではなく、家族や知人から口コミで情報が伝わることも想定し、子育て家庭だけでなくどの住民の目にも必ず止まる場所や方法についての検討が必要となる。

また、それぞれに異なる問い合わせ窓口があるのではなく、「ここで聞けばわかる」窓口がほしいという要望もあげられた。個々の実施場所に問い合わせをする前の段階で、確認したいこと、聞いてみたいことについて、電話などでの問い合わせに対応できる窓口の設置が求められている。

考えられる方法としては、情報提供場所としては、公共施設ばかりではなくスーパー、小児科、子ども関連のショップなどでの情報提供があげられた。これらは子育て支援拠点には行っていない人でも、行くことが考えられる場所であり、また、子育て家庭でなくても行ったり、見たりする可能性のある場所である。実際に、スーパーの掲示板が活用されている例も聞かれており、それ以外に入口付近、買い物したものを袋詰めする場所などで情報提供されていれば、目を向けることが可能となる。また、各自治体が発行する広報は最も広い範囲の住民を対象としたものであり、子育て家庭を対象とした情報も提供されているが、近年では新聞を購読しない家庭も増えており、広報を入手しにくい状況もある。そのため、例えば自治会の回覧板などがある場合には、それを活用して子育て支援情報を流すことも提案された。

また、総合的な情報提供窓口の設置をし、そこで情報を一元管理し、さまざまな問い合わせに対応する窓口を設置することが求められている。しかしながら、行政がこれを行う場合には、公的な施策に関する情報に偏りが生じ、民間や住民ベースで実施される事業に関する情報をどう一元化することができるかが課題となるだろう。子育て支援コーディネーターを配置するなど、さまざまなサービス間の調整を図る役割が求められる。

D．知りたい情報

「行ってみたい」という気持ちや、「行きやすさ」を促進する情報内容への要望が高かった。どんな場所なのか、どんなことをするところなのか、誰が行っても良いのか、事前の手続きが必要なのかなどがわかりにくいことが指摘された。また、「 をやっています」という情報があっても、いつ、どこであるのかなどについての、問い合わせが必要となるため、もう一段踏み込んだ情報提供がほしいという意見もあげられた。

その場所に行ったら、どこで受付をし、その後どうするのかなど、全体的な流れが見えることが利用しやすさにつながる。また、一時保育などでは、申込の仕組み（登録が必要であること、登録の仕方や受付時期）がわからないと、必要になって連絡をしたときには、空きがなくて利用ができないということも往々にしてある。利用の可能性の有無は個々人により異なると考えられるが、必要最小限の情報提供まで行っておくことが利用の促進につながる可能性が示された。

また、利用者の立場に立った意見が聞けることが参考になるため、「利用者の声」を載せてほしいという意見もあげられた。

さらには、事業やイベントなどに対象年齢が設定されている場合に、特に低年齢児では年齢よりも月齢で発達に差が見られるため、年齢区分を示すだけでなく、活動内容の提示をすることにより、子どもの発達の度合いで適当なのかどうかを判断したいという意見もあげられた。

これらの要望に対して考えられる方法としては、まずは写真などにより、建物、入口、内部設備、活動の様子などのイメージが具体的にわかる情報を提供することがあげられる。その際に、保育士などスタッフの顔が見えることも、「やさしそうで安心できた」など安心感につながるようである。

また、利用者からよく聞かれる質問については、Q & A形式で掲載することにより、他の子育て家庭が参考にできるとの意見があげられた。

利用者によって必要とする情報提供の内容が異なるという点については、インターネット上で情報を階層化し、知りたい人には細かく見られるようにし、必要であれば、登録書や申込書まで見られるようにしておくことが考えられる。しかし、誰もが家庭でインターネットを使える環境にはないことから、そのような端末を地域の公共施設等に置き、誰でもが利用できるようにしておき、そのことを周知することが考えられる。

3) 子育て家庭の特徴 - 情報取得にについて -

情報収集に携帯電話を活用

インタビュー調査を通じて、情報収集に携帯電話やインターネット上の会員組織（mixi、with ママ、育児関連会社のサイトなど）を活用していることが明らかになった。例えば、雑誌やテレビなどのマスコミ情報では地域情報までは入手できなかったことに対して、これらの会員組織では、地域を限定した下部組織があり、そこで情報交換が行われたり、オフミーティングと称して、実際に集まることなども行われている。また地域情報の収集だけでなく、後述するように育児に関する相談事なども行われている実態がある。

携帯電話は多くの人にとって便利な道具であるが、特に子育て家庭に活用される理由として、コンピューターに向かうと子どもに背を向けることになるが、携帯であれば、子どもを抱いたままでも使えるし、添い寝をしながら、チェックをするなど、子どもと向き合った形でも利用が可能なことにも評価が高かった。

子育て家庭の情報の求め方

子育て家庭の情報の求め方の特徴として、情報誌が分厚いと、それだけで読む気をなくすということが指摘された。また、文字量が多いことも同様である。しかし、先述したように、情報が十分でない場合には、次のステップを踏み出すことにつながっていかない側面も見られた。

そのため、たくさんある情報の中から、その時々自分や自分の子どもにふさわしいものが絞り込まれ一覧になっており、その中から選びたいという意見も聞かれた。つまり、たくさんある情報の中から一つ一つをチェックするのではなくて、コンピューターで検索してヒットした一覧の中から興味があるものを見ていくといような方法を希望していると言える。

4) 課題・今後の対応

情報提供のタイミングのずれは、提供している情報が活かされないということである。そのため、氾濫する情報の中で、その時々自分や自分の子どもにあった情報、つまり、情報の受け手の感受性が高まっている時に必要な情報を提供するきめ細やかさが求められている。その時に提供される情報は多種多様である必要はなく、その時期の子育て家庭に必要な情報が確実に届くように提供していくことが必要である。

なお、情報が伝わるのが子育て支援の利用につながるが、部分的な情報だけでは動けない人がいることも念頭におき、その場所で行われる内容や具体的な利用の仕方に踏み込んだ情報提供も同時に行っていくことが必要である。

(4) 居場所提供

1) 居場所提供に関する問題点

居場所提供に関するインタビュー調査の結果抽出された問題点は、以下の3点があげられた。

いかに最初の一步を踏み出すか

インタビュー調査では現在子育て支援を利用している人に対して、最初のきっかけを尋ねている。その結果、「こんながあるから、来ませんか」、「遊んでいきませんか」といった個別の声かけが利用につながっており、最初の一步を踏み出す後押しをしていることが明らかとなった。

このような個人への直接的な声かけが「きっかけづくり」の鍵であるが、具体的には「新生児訪問や健診時の保健師」、「保育所の保育士」、「近所の人」などがあげられた。

初めて行く時の抵抗感をなくす

初めての場所を訪れた時に、「中に入るまで、何回も建物の周りを歩いた」ということが語られており、「中がどうなっているかわからないと行きにくい」ということも指摘されている。これは先述の情報提供を効果的に行うことで解消されるものと考えられる。

子ども同士のトラブルに対応できない

親子の集う場所に行けない理由は、初めての抵抗感ばかりではなく、そこで出会う他の親子とどのように接するかということも含まれている。特に、「子ども同士のトラブルにどう対応してよかわからないので、行きたくない」や、「よその子どもが自分の子どもにケガをさせても、その逆であってもイヤ」という意見のように、人間関係やコミュニケーションの取り方なども親子が集まる拠点の利用を躊躇させる要因となっていると考えられる。そのため、スタッフなどがおり、スタッフの介入で子ども同士のトラブルを解決することや、スタッフの関わり方を通じて、関わり方を学ぶ機会も必要である。

2) 居場所提供についての要望

A. 外出の困難性

1歳6か月の子どもを持つ保護者にとって、子どもをつれての外出は困難であるという実態がある。アンケート調査の結果でも徒歩での外出の85%が15分未満の範囲内であったように、子どもをつれての外出にはある種の制限が伴う。つまり、歩いて行ける距離には限界があり、遠くまでは行けない、特に遠い場合に公共交通機関を使って外出することの困難性（ベビーカーをたたんでバスに乗ることや、エレベーターのない駅で電車のホームまでベビーカーをあげることなど）雨の日の外出は難しいことなどがあげられている。また、自家用車で外出が多い場合には駐車場の問題があり、駐車場が完備されていることが外出先の選定に大きくかかわっていることも指摘された。また、子どもが1人の時よりも、子どもが2人になったことで外出が困難となったという意見もあげられた。

また、子どもが小さい時には特に、行く先や途中におむつ替えシートや授乳室、休憩室などの設備が必要であり、子どもの欲求をその都度満たすことのできる場所の必要性も指摘された。

それらに対して考えられることは、一般の公共交通機関に頼るのではなく、さまざまな拠点を結びおさんぽバス（浦安市で実施）の運行など、目的地までつなぐ手段の開発があげられる。また、子育て家庭のニーズにのみ特化するのではなく、すべてのひとに優しい街作り（ユニバーサルデザイン）をすることにより、移動や外出の障壁を除く必要がある。

また、おむつ替えシートなどの設備の整った拠点については、多くは大型スーパーや子ども用品を扱

うショップ、デパートなどが活用されることが多いが、地域に点在する保育所などの活用も含めて、利用できる拠点についての情報提供が求められる。

B．居場所の要望

居場所に関する情報としては、「近くに行けるところを増やしてほしい」、「いつでも気が向いたときに行ける場所がほしい」などのように、近さや随時（いつでも）をキーワードとする拠点が最も多く求められていた。子育て支援拠点が少ない地域では、行っても混みすぎていたり、募集定員があり、しかもすぐに埋まってしまうため、なかなか利用できないという意見も聞かれた。また、近所にそのような拠がない場合に、遠くの子育て支援拠点に出かけていくことはあっても、そこで出会う人は遠くの人であり、「近所の人と情報を交換したり、一緒に遊ぶために、近所の人と知り合いになりたい」という要望もあった。さらには、開催日が月1回の頻度というような事業もあったが、月1回しか開催されていない場合に、天候やその日の子どもの体調により、1回逃すと2月開いてしまうことも指摘された。

一方、子どもが過ごす場所として、子どもを遊ばせることのできる安全な環境が求められていたが、歩き始めたくらいの子供が遊ぶことのできる室内の遊び場がほしいという要望もあげられた。すなわち、歩き始めの子供が歩く、這う、座る、寝るなどの行動がしやすい室内空間が必要であることが指摘されている。

また、保護者の要望としては、親子で自由に過ごせるところと、スタッフがいてプログラムがあるところの両方があるとよいという意見が聞かれた。また、親子で一緒に遊べるところと、保護者は少し離れて子どもの様子を見ていられるところの両方への希望があげられた。特に、子育て支援拠点に求めるものとして、家庭ではできないことができる場所、保護者にはできないことをしてもらえるプログラムなどへの要望があった。

さらには、魅力ある施設や遊具への要望も多く、遊具が古すぎる場合に「衛生的に心配」とする意見があげられた。

これらの要望に対して考えられる方法としては、さまざまな地域資源の活用により、地域ごとに偏りのない機会を提供することがあげられる。特に、子育て支援センターのような常設の拠点がない地域においては、定期的な実施される親子の集いなどの事業の開催日を増やす工夫が必要となる。

また、子どもが安全に遊ぶ環境としては、タバコの吸い殻やガラスの落ちた公園よりも、安全な保育所の園庭開放を積極的に実施することが考えられる。また、何でも口に付けたりする年齢を考慮し、遊具は定期的な入れ替えが必要である。

C．初めての利用

初めての利用のときは1人で行くのか、誰かと一緒に行くのかを尋ねると、「友人と一緒に行く」と答えた人が多かった。親子だけで出かけていった人の中には、「勇気を出して行った」と表現する人もいた。しかし、行った先で常連のグループができあがっていると、居心地が悪いという意見も共通に聞かれたことである。

友人と行くことのメリットは、行った先でわからないことがあっても相談しあえることであると考えられるが、親子だけで行く場合には、行ったときにどうすればいいかがわかっていると、行きやすくなるという意見があげられた。また、行った先でスタッフが話しかけてくれたり、他の保護者に紹介をして、話しやすい雰囲気をつくってくれたことにより、その場になじめたとする意見もあった。

一方で、自分は場所を利用するだけで、あえて輪の中に入らなくてもいいという考えを持つ人もいた。

これらの実態に対して考えられる方法としては、情報提供でも指摘があったように、利用の流れや活動のイメージが事前にわかる情報提供が必要となる。また、「行きたい」と思える魅力的な居場所作り

が肝要である。

さらには、「また来たい」という気持ちを起こさせる鍵は、そこでのスタッフの声かけや働きかけであり、過剰に干渉しないことも含めて、スタッフのあり方も検討課題であると言える。

3) 子育て家庭の実態 - 居場所提供について -

どこで友達ができたか

マタニティクラスなどで友人ができ、出産後も連絡を取り合うようになった例や、健診時や計測を含む相談日などで知り合ったという例、子どもの年齢を設定した「親子のつどい」などで知り合ったというような例があげられており、多くはその後も連絡を取り合い、一緒に出かける間柄になる例も見られている。

一方、公園などでの出会いは立ち話やその時一緒に過ごす程度が多く、それ以降の関係性の発展はあまりみられなかった。

子育て仲間の存在の効果

子育て仲間ができることが外出を楽しくし、ストレスの発散や育児に関する悩みの相談などにつながっている。その中で、「大人同士で会話がしたい」という意見もあげられており、子どもと向き合う時間の長いことが感じられた。

友達ができない

上述のように、マタニティクラスなどで友人ができる可能性が高いときに、妊娠期を過ぎた場所や出産した場所と、現在の居住地が異なる転入者についてはそのような出会いのきっかけがない場合がある。また、情報提供の遅れや情報入手が遅くなった場合には、参加したときにすでにグループができあがっていて、入りにくくなるという実態がある。

その際に、「友達を作らなければ」という義務感や思いこみが強い場合には、友達のいない状況がプレッシャーとなる場合もあり得る。

4) 課題・今後の対応

個人への直接的な声かけが、利用へのきっかけになっていることから、さまざまな機会を捉えて、直接声かけをする環境を用意することや、地域に出ることの多い専門職や関係者がそのことに留意し実践することが求められる。

また、月1回の開催でも、保護者たちに歓迎される事業やイベントとなっていることから、さまざまな社会資源を活用して、近隣の親子が集うことのできる広場などの設置の必要性が示唆された。

子育て中の親子だけでなく、親子と高齢者、親子と中高生などの組合せにも地域交流が広がる可能性があり、地域の社会資源の活用の方法の検討が求められる。

(5) 相談

1) 相談に関する実態と問題点

相談に関するインタビュー調査の結果抽出された実態と問題点としては、以下の2点があげられた。

専門家への相談と気軽な相談

専門家への相談と気軽な相談を使い分けしてる実態が明らかとなった。すなわち、子どもの病気や発

達については産院、小児科医など専門家への相談が多い。一方で、子育てについての相談は気軽な相談で聞きたいという意見が多かった。実際問題として、子育てについての相談として相談機関に出向くほど深刻な相談がないという実態にもよる。相談というよりは、むしろ「自分の話を聞いてほしい」という願望もあり、話をすることによりストレスを解消している実態もうかがえた。

電話相談、携帯電話・インターネット相談

家にいながらにして、時間を問わずに相談に応じてもらえる電話相談や、携帯電話も含めてインターネット上の相談が活用されている実態が明らかになった。

相談に対して、迅速な回答が返されることを求めており、その点でまず電話相談は確実にその場で回答が得られるという利点がある。しかし、特にウェブ上の相談サイトでは多種多様な情報がさまざまな思惑の基に提供されることから、利用者の情報選択能力も必要となる。そのためには、信頼できる電話相談や情報サイトの紹介も必要となる。

2) 時期別の解決方法

妊娠・出産期

妊娠・出産期の解決方法としては、まず、産院への相談があげられ、子どもが生まれてからは小児科への相談が多くなっていた。また、産院への相談を出産後も継続している人もいた。特に、助産婦がいる場合に母乳に関する相談が可能であることから、継続的な関わりが見られる例があった。

この時期の相談相手としては、医療関係者、医師、助産師、看護師、保健師などがあげられた。

特に、複数の保護者から、助産師の名称が上がったことは特徴的であったが、一般に助産師の役割は出産時ばかりでなく、母乳指導などの役割もあることがあまり知られていないこともうかがえた。

新生児期

新生児期は母親が外出しにくい時期でもあり、この時期の新生児訪問が役立ったという意見が多かった。身長、体重の計測により、成長を確認でき、「安心できた」「気にかけてもらえることが嬉しかった」「質問をすることができた」などの意見があげられた。

しかし、そもそも新生児訪問は何をするのか、事前にはわからなかったという意見もあり、具体的に何をするのかがわかっているならば、申込はさらに増える可能性もある。また、新生児訪問は相談事への対応と共に地域情報を提供する役割も担っていた。

この時期の相談相手としては、医療関係者、医師、助産師、保健師、家族・親族などがあげられた。

乳児期

新生児訪問のような訪問をあと数回希望する声があった。外出が容易になる4か月くらいまでや、半年、1年間を希望する声もあげられた。会場に出向く健診との間に訪問があると良いという意見もあった。

保健センターや公民館などで行われる計測の機会に、相談がついているものが実施されており、よく利用されている。相談だけだと行きにくい、「計測のついでに」という気軽さがある。こういった機会の相談の希望者が多く、長いときで1時間ほど順番を待つことがあるとも指摘されている。

このような機会があることにより、次に相談できる日がわかるため、その時までには相談することを貯めておくという意見もあげられた。

また、つどいの広場や支援センターなどで、保育士、スタッフへの気軽な相談や、保護者同士の情報交換が広がる時期でもある。

この時期の相談相手としては、医療関係者、医師、助産師、看護師、歯科衛生士、保健師がまずあげられる。保健師については、保健センターに相談に出向くのは敷居が高いという意見や、保健師の対応を指導的と受け取る保護者もいることが確認された。さまざまなつどいや相談の場に栄養士や歯科衛生士が来ることもあり、そのようなときに相談が集中している状況から、栄養士や歯科衛生士への相談の需要がこの時期の保護者に多いことがうかがわれた。

また、保育士や子育て支援のスタッフやボランティアなどについては、気軽に聞きやすい、その人自身の子育て経験が参考になるというような評価が得られていた。その他、子育て仲間やインターネットなどのウェブ上で知り合う人も相談相手となるが、「子育ての先輩よりも同じ時期に子育てをしている人がどうしているかを聞きたい」という意見が複数から聞かれた。

その他には、家族や親戚が相談相手となっていた。

訪問型相談について

いつでも相談したいことがあるわけではないので、相談がたまったところで葉書を出せば来てくれると利用しやすいという意見や、「次はいつ来るか」を決めて来てくれると良いという意見があった。来てくれる人は、子どもの成長の過程を知っている人が好ましいため、なるべく同じ人に来てほしいという意見もあった。

一方で、自分で出かけられるので訪問型相談は不要という意見も聞かれた。

3) 子育て家庭の実態 - 相談について -

携帯電話の活用による相談

子育て相談を専門とするサイトばかりでなく、保護者の情報交換などを目的とするサイトでも、BBSなどで個人からの相談に、他の子育て家庭からさまざまな意見や情報が提供されるものもある。保護者は自らが相談しなくても、それを読むことにより、育児に関する情報を得ることができる場合もある。

また、携帯電話の普及により、離れた地域に住む友人や親戚に携帯電話やメールを使っての相談が可能となっている実態もある。

4) 課題・今後の対応

出産後の母親が外に自由に出入れない時期に、家庭訪問を受け、相談に応じてもらえる新生児訪問への評価が高く、生後4～6か月くらいまでの間に隔月の訪問を希望する声もあった。

新生児訪問については、実際に来てもらえるまで一体何をしてもらえるのかわからなかったという意見が多く聞かれており、保健師がどういう目的で何をしてくれるのか、そのことによるメリットなどを情報提供することの必要性が示唆された。

インタビュー調査の中で助産師への評価が複数あげられており、助産師のより広い活用を検討することも必要と考えられる。

また、家庭訪問による相談事への対応が求められていることから、生後4か月までのすべての乳児を家庭訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」についても、積極的な実施が必要と思われる。

(6) 一時的保育

1) 一時的保育に関する実態と問題点

共通の思い・経験

子育て家庭には、「誰かに必要な時間だけ子どもを見ていてほしい」と思う時がある。例えば、自身の体調不良時（通院したい）、子どものきょうだいの体調不良時、子どものきょうだいの学校行事など子どもをつれていけない場所に行く必要があるときなど、その他、リフレッシュしたいときや、美容院に行きたいなどの希望は誰にでもある共通の思いや経験であると言える。これらはアンケート調査結果でも、本当に困ったエピソードとして多くあげられていた事柄である。

一時的保育サービスを積極的に利用しようとしていない

アンケート調査の結果では必要とする子育て支援サービスの中で、「一時的な保育」が57.4%と最も高い割合で選択されており、最も希望の高いものであったが、地域の子育て支援サービスの利用経験については非常に少なかった。今後の利用については利用したい一時保育が最も多く約6割、ファミリー・サポート・センターでは約4割という結果であった。

これらの結果と共通して、 のように必要になる時はあるが、「必要であれば利用するが、積極的に利用しようとしていない」、あるいは、利用するだけの理由がない場合には自分の「がまん」ですませていることが明らかとなった。

これまで育児で一番大変だったこと

出産後数ヶ月の母乳授乳期の睡眠不足や外出ができない時期が「つらかった」ことや、睡眠不足の体調不良時に「子どもに泣かれて追い込まれた」といったことが語られた。

また、子育てがづらくなった時に、「働こうと思った」ことが語られ、「保育所を調べにいった」という経験を持つ保護者も複数いた。このような危機的状況を援助する方策が必要となる。

2) 一時保育についての要望

A. 誰かに頼みたい

必要なときに子どもを見ていてほしい「誰か」としてあげられたのは、まずは子どもの父親や家族、親戚である。それが無理なときは、次にあげられたのは、誰か「知っている人」であり、プロの保育者があげられるのはその後であった。

アンケート調査結果でも見られたように育児に協力的な父親が多く、インタビュー調査の中でも育児に協力的な父親の存在が垣間見られることも多かった。父親は週末以外にも仕事の都合がつけば子どもの面倒を見られる存在でもある。また、祖父母と同居や近居の場合には、子どもの面倒を頼むことができる場合も多かった。

しかし、そのような家族や親戚に頼ることができない場合には、「知っている人」に頼みたいという要望があげられた。「知っている人」とはどのような人を指すかという点、「自分も子どもも知っている人であれば安心」であり、「子育て経験のある人」に頼みたいという意見があげられた。さらに、自分も子どもも知っている人の具体例をあげてもらおうと、園庭開放でよく知っている先生、近所でよく会う地域サポーター、友達や近所の子育て仲間などがあげられた。

保育所の一時保育などを含む保育サービスを利用するとしたら、個人で頼むよりは集団で見てもらおう方が安心できるという意見が比較的多かった。

これらの要望に対して考えられる方法としては、父親や家族、親戚などの援助を受けられない人のために、その人たちにとっての「知っている人」を増やすことが必要である。そのためには、一時的保育を担う人の顔が見える機会をつくることが一つの方法である。また、一時的保育の間に子どもがどのように過ごしているかを紹介することにより、一時的保育をより身近に感じることができると考えられる。

だれもが一時的な保育の利用の必要性を感じている反面、抵抗感や躊躇する気持ちを持っているとす

るならば、「利用者の声」が聞けるようにすることももう一つの方法であると考えられる。

B．必要な時間だけ利用したい

利用時間については、送迎の時間が無駄になるという意見や、用のある場所での預かりがあればよいという意見があげられた。具体的に時間単位での利用ができるという意見もあげられたが、1時間も必要としない所用も実際にはあり、それが用のある場所を実現されれば、子どもと保護者が離れている時間は最小限に留めることができるというものである。

子どもを預けるための送迎の時間が無駄という意見については、送迎をしてくれるとよいという意見があげられた。また、用がある場所での預かりについては、例えば、第2子の健診の間上の子どもを預かってほしいということや、上の子どもの学校の面談の間だけ誰かに見てほしいというような要望があげられていた。いずれも子どもと離れる時間を短時間にしたいという要望の表れである。

これらの要望に対して考えられる方法としては、例えば、送迎保育、短時間での保育、場所を指定しての保育はファミリー・サポート・センターなどで可能となるものであるが、そのような情報のなさがうかがわれた。A．で個人で頼むよりは集団で見てもらう方が安心という意見があげられていたが、さまざまに提供される保育のバリエーションがあることや、その活用方法も含めて、それぞれの保育のメリット・デメリットについても情報提供をすることが求められる。

C．いつでも申し込める

誰かに子どもを見てほしい時というのは、事前にわかる予定もあるかもしれないが、その多くは、突然必要となるものも多い。実態と問題点であげたように、多くは自分自身の体調不良や家族の体調不良など、予測不能な場合が多い。そのため、緊急時に対応してもらえということや、当日の申込でも可能であることが求められている。

保育所で実施される一時保育については、アンケート調査結果によると、認知も約67%と高いが、利用申込が前月となっていることが多く、利用したくても常に予約が入っており、利用できないという実態が指摘されている。また、利用手続き上の、登録、予約、慣らし保育、事前の面会（ファミリー・サポート・センター）などは面倒という意見も多く聞かれた。

これらは必要となった時に申込をして、即座に利用できる仕組みがほしいという要望であるが、必要が生じたときに、初めてコンタクトを取るのではなく、場所や人に子どもがあらかじめ慣れていることが、子どもにとって必要であるということについての情報提供が必要である。

D．利用への意識

A，B，Cでまとめたように、要望を尋ねると、いろいろな要望があげられるが、実際には「できるだけ、利用をせずに育てたい」という意識もあることがわかった。また、母親自身には利用したい気持ちがあっても、父親や家族が反対しているという声も聞かれた。例えば、「子どもがかわいそう」、「子どもを預けてまで・・・」というような声に対して、それでも預けるだけの理由がないと思える場合に利用に踏み切れない実態がうかがわれた。

また、家庭訪問型の一時的保育には消極的な面も見られた。産後などの体調不良時に訪問型支援で一時的保育を利用したいという意向はあったが、「自分もそこにいる」ことが条件であり、自分自身が不在の時の利用については消極的な面が見られた。

一方、一度でも一時的保育を利用した経験のある保護者に、子どもを迎えに行ったときの様子や保育者から聞いた保育中の子どもの様子について尋ねてみると、自分自身の心配とは裏腹に子どもは最初は泣いたが、すぐに遊び始めて楽しく過ごしていたということや、遊び足りずに帰りたくない様子を見せる子どももあり、一度経験することにより、さまざまな心配や抵抗が杞憂のものであることを実感して

いた。

また、保育付きの講座が実施され、保護者は子育てについて学んでいる間、子どもはすぐそばの部屋で一時保育を受けるといった方法が初めての利用の際には経験しやすいことが指摘された。このような講座が実際に開かれた地域があり、子どもと離れていてもすぐそばであり、何かあってもすぐに駆け付けることができる距離と安心感が、講座受講を促進したようである。また、実際に子どもを迎えに行ったときにも子どもが楽しそうに過ごしていた様子を聞いて安心したことが語られた。

3) 子育て家庭の実態 - 一時的保育について -

若い世代に強い「自分で育てる」意識

インタビュー調査で一時的保育について尋ねているときに、「3歳までは自分で育てる」、「誰かに頼むのではなく、自分で育てる」という発言が複数から聞かれた。また、年代的には若い世代に多かった。保護者が責任を持って子育てをする考え方は理解できるが、子どもは母親が育てるもの、あるいは母親が全責任を持つというような意識は一つ間違えば、育児の抱え込みにつながることで懸念された。

父親の育児参画 - 1歳を過ぎた頃から期待可能

核家族などで特に育児に協力的な父親が多い。父親に子どもを見てもらい、その間外出が可能であるという家庭も多かった。父親が育児にかかわるようになった時期を尋ねると、子どもが歩くなど、ある一定の発達を遂げてからが多かった。その実態から、子どもが1歳を過ぎた頃から、父親が一時的に1人で子どもの面倒を見るのが可能となるが、それ以前の年齢が低いときほど母親が子どもの世話を一時的に頼める相手がないということになる。

4) 課題・今後の対応

近隣に家族や親戚のいない核家族が増加していることから、一時的保育の利用による育児の負担軽減や、第三者の関与による育児上の問題点の発見・助言が期待されている。しかし、実態としては利用に踏み出せない、または利用せずに育てようとする保護者もいる。

子どもは保護者だけが育てるのではなく、「いろいろな人との関わりの中で育つ」ことを意識啓発し、一時的保育の利用が保護者の育児負担軽減だけでなく、子どもにとっても意義のあるものであることを伝える必要がある。

一時的保育の利用に至るまでには手続きなどに要するエネルギーも必要なことから、子育てに行き詰まってから利用するのではなく、予防啓発的な利用の奨励が必要である。そのためにも、3～4か月健診などの機会を捉えて、今一時保育を必要と感じていない保護者も対象に含み、手続きや一時的保育の利用による子どもへのメリットなどについて情報提供し、希望する場合に登録までできる仕組みがあることが望ましい。例えば、ファミリー・サポート・センターなどの説明会を同時開催することや、保育所等の一時保育についての説明や登録用紙の配布などと共に、保育を受けている間の子どもの様子や保育を担う人々の紹介なども含めて行うことが考えられる。

一方で、子どもを一時的に預けることに対して否定的な考え方をもち、保護者の自分本位な行動として受け止める専門職も少なからずいることから、子育て家庭の現状や、一時保育の利用により育児上の問題が発見されたり、保護者が親として育つ側面もあることなどを専門職にも意識啓発していくことが求められる。

(7) 家庭訪問型支援

1) 家庭訪問型支援についての実態

利用の意向

家庭訪問型支援については、(3)情報提供～(6)一時的保育の項目の中でも触れているとおり、特に新生児訪問への評価が高かった。また、産前産後支援や、体調不良時の家事支援・育児支援への利用意向があることが確認された。しかし、「料金が高そう」であることを気にかける意見が聞かれた他、一時的保育については、居宅外で利用したい意向が強かった。

2) 家庭訪問型支援についての要望

A. 産前産後支援ヘルパー

産前産後に家庭を訪問し、家事支援や育児支援を行うサービスが整備されている地域では、利用経験のある人もいた。また、出産直後ばかりでなく、つわりの時期に支援が必要だったという意見も聞かれた。

また、このようなサービスがあることを知らず、新生児訪問に時に知り、「もっと早く知っていたら、早くから利用できた」という意見も聞かれた。

このようなサービスに対して、「必要であれば利用したい」というように利用したい気持ちはあるが、他人が家に入る抵抗感よりも、「そのために家を片づけなければならない」ことが障害になっていることがわかった。特に、自分の体調不良時などは、自分でやることができている分、家が掃除出来ないことを気にかけている。

子育てのスタートを順調にすべり出すために必要な支援として、何回までは無料など、誰でもが利用しやすい仕組みとすることが考えられる。

また、核家族で第2子以降の出産は必ず誰かの支援が必要となる。祖父母世代も働いている場合もあり、里帰り出産をしない人も増えている。そのため、近隣で子育て家庭同士が助け合う仕組みがあれば、出産後はヘルプする側に回るといった提案があった。

B. 出前ひろばの提案

家庭やマンションの集会室を使って、そこに数人の子育て家庭が集まり、スタッフが来て、子どもの身体発育などの計測をしてくれたり、子どもを遊ばせたり、相談やアドバイスに応じてくれる仕組みがあると良いという要望があった。その理由として、遠くまで出かけていくのではなく、身近な場所で行われると参加しやすいということがあげられた。

会場の手配や参加者の募集、どのような支援を求めているかのテーマ設定などを利用者自身が行い、そこにスタッフを派遣するシステムを構築することにより、利用者の主体性を促すことにつながるとともに、利用者の申込によりマンションの集会室等の資源が利用できることは、拠点確保にもつながると考えられる。

(8) 自治体への要望

最後に、インタビュー調査者からあげられた自治体への要望を示す。自治体の子育て支援施策ばかりでなく、広い範囲での意見もあげられている。また、意見の多さはインタビュー対象者数とも関連する。

1) 浦安市

- ・ 出生届を市役所に出しに行ったときにハンドブックをもらえるが、なくしてしまうことがある。年

齢に応じたサービスの情報を知りたい。

- ・産後の保健師の訪問やエンゼルヘルパー制度の情報は、母子健康手帳と一緒に妊娠中にもらえるとよい。
- ・子育てサロンがない地域では気軽に情報を得ることができない。
- ・保育所の一時保育の予約が取れないので、枠を増やしてほしい。
- ・学校行事にあわせて一時保育をしてほしい。
- ・夜間の預かりがほしい。子どもを預けて夫婦で出かけられる時間が半年に1回でもいいのでほしい。
- ・公民館でも子どもを遊ばせることが出来るようにしてほしい。
- ・子どものための拠点が地域（舞浜地区）にない。駅のそばに高齢者が集う施設があり、建て直すようだが、子どもも利用できるようにしてほしい。
- ・子どもの遊びのサークルは、早生まれの場合学年単位で区切られると、他の子どもと差がついて十分に楽しめないで、もう少し月齢の近い子ども同士で遊べるように、3か月や6か月刻みでグループを作ってほしい。
- ・後ろからベビーカーのままどうぞとってくれる運転手もいるが、人による。ベビーカーをたたんで、子どもを抱っこして、つり革を持って立つのは危険。古いバスは乗れないバスもある。
- ・少子化対策といっている割には、まだまだバリアフリーになっていない駅（市外）がある。せめて、スロープ、エレベーターなどベビーカーでも出やすい環境をつくってほしいと思う。
- ・親子でできる習い事やサークルがもっとあると良い。
- ・保育付き講座を増やしてほしい。
- ・一時預かりを利用してまで講座を受けようとは思わないので、保育付き講座がよい。
- ・子どものがいるところにはさまざまな支援をしてほしい。当市は支援が行き届いているが、そうではない都市もあり、それでは子育てできない。

2) 柏市

- ・外出時には授乳室がないことが困る。男性トイレに子ども用のものがないので困る。母乳の間は授乳室があるかどうか事前に調べてから行くようにしていた。
- ・公園でトイレを利用するのは子どもが多いのではないと思うが、汚いし使いにくい。
- ・駅前など段差が多く、子どもを連れて行きにくいところがあるので、環境を改善してほしい。
- ・出生届は市役所でしか受けつけないと言われ、平日に新生児を連れて行った。自分も子どもを産んだばかりの身体で行くのは大変だった。
- ・子どもをのびのびと遊ばせることの出来る場所が少ない。何か所かだけ整備されたところがあるのではなく、平均的にきれいにしてほしい。
- ・室内で遊べる場所がほしい。
- ・大型の児童館で指導員がいるような場所や、松戸市にあるような学芸員のいる子ども向けの博物館あればよい。
- ・児童センターを新たにつくるのは大変かもしれないが、近隣センターはあるので1室を開放してほしい。
- ・「母と子のつどい」などは月1回の開催で対象年齢が低い。
- ・行きたい時にいつでも行ける施設がない。
- ・保育園によっては子育て支援ルームがあり、園内で遊ぶことが出来るところがある。そういう情報

が入ってこなかった。

- ・ラッコルームは幼稚園に上がるまでに1人1回しか利用できない。回数が少なすぎる。
- ・インターネット相談については、手軽さとスピードの面で弱い。
- ・医療費が1回200円かかることが不満。
- ・3人目の児童手当を上げてほしい。

3) 東金市

- ・近くに行ける場所がない。
- ・児童センターのハッピーアドバイスは定員がすぐに埋まってしまい利用できない。

4) 木更津市

- ・カンガルームなどの施設が毎日やっていけばよい。やっている曜日にあわせて出かけるのではなく、時間があいている時にふらっと寄りたい。
- ・いつも遊びに行く公園のブランコがはずされたまま、新しいものが設置されない。近くに新しい公園ができて、そこにブランコがあるが、そこまで歩いていける距離ではないので、もとあった場所には新たにつけてほしい。
- ・転入届けを出したときに、子どもがいることを市役所で把握したら、子育てに必要な情報を教えてほしかった。

調査結果から導き出される課題と対応策

課題 1

利用しにくい養育支援サービスの改善

育児をする上で、多くの親が「子どもにイライラした」経験を持つとともに、体調不良をはじめとする緊急時にサポートの必要性を感じるなど、親にとって育児は楽しい一方、肉体的にも精神的にも負担となっていることが明らかとなった。

特に、実家などからサポートが得られない家庭、相談する相手がいない家庭では、孤立による育児の抱え込みなど、育児負担から児童虐待に発展してしまう恐れもあり、負担を軽減するために、養育支援サービスの活用が重要となってくる。

しかし、ほとんどのサービスで、利用が認知度の半分以下であり、サービスがあることは知っていても、実際の利用に結びついていない現状が明らかとなった。

養育支援サービスを利用しない(できない)家庭に対し、利用につながる養育支援サービスとするため、以下の課題が挙げられる。

(1) 利用しやすいサービス内容の整備

子育て支援拠点が近くにない場合、サービスの利用に消極的な傾向が強かった。

子どもを連れて外出する場合、子どもの面倒をみながら移動しなければならず、ベビーカーなど荷物も多くなるため、外出すること自体が親にとって大きな負担となる。子育て支援拠点が遠方の場合、外出に手間や時間がかかってしまうことから、代わりに身近な公園やショッピングセンターを利用していることが推察される。

更に、子育て支援拠点が無い地域では、提供されるサービスの内容が見えてこない、という意見や、サービス自体を必要とする意識が低い傾向が見られた。

養育支援サービスを積極的に利用してもらうためには、親しみやすく行きやすい「子育て支援機関」を作り上げる必要があり、サービスの提供場所を整備していくことが必要となる。

また、求めるサービスはその家庭の状況により様々なため、サービスの利用時間や対象などを細かく定めてしまうと、都合が悪く参加できない場合や、自分のペースで利用できない場合があることから、利用から遠ざける要因となってしまうことが考えられる。

そのため、利用者のニーズを反映した幅広いサービスを整備し、自分達のニーズに合わせてサービスを選んだり、時間や内容を設定できるような工夫をすることが重要である。

(2) 利用者の中に生じる心理的負担の軽減

養育支援サービスを初めて利用する際、サービスの詳細やスタッフ、他の利用者の状況がよくわからないことが抵抗感を生み、利用を遠ざける要因となっていることが明らかになった。

自分から利用に踏み出すことは、相当の勇気が必要となるため、利用を迷った末にあきらめる親も多かったのではないかと思われる。

一方で、スタッフの声かけが後押しとなり、利用につながった例もあることから、利用のきっかけとして、様々な機会に「こんなものがあるから来ませんか。」「遊んでいきませんか。」など、スタッフによる積極的な声かけが必要と思われる。

また、施設内のグループになじめないといった問題や、利用者同士のトラブルなど、人間関係のわずらわしさによる心理的ストレスから利用に積極的になれない親もあり、これらの心理的負担を解消することが求められる。

具体的には、スタッフの介入による調整やトラブルの仲介などが有効であるが、一方で、スタッフによる過度の干渉は、逆に利用者の心理的負担になってしまう場合もあることから、適度な介入が必要となる。

課題 2

子どもの預けにくさ、預けることへの抵抗感

一時的保育については、最も求められたサービスであるが、一時的保育サービス全てが1割以下の利用経験に留まっており、利用したい気持ちとは裏腹に、実際の利用につながっていない実態が明らかになった。

特に、親が病気になった時など、緊急時の利用が求められている一方、知らない人に預けるのは不安という意見も多く、積極的な利用を促すために、以下の課題が挙げられる。

(1) 緊急利用時の受け入れ体制の確立

育児をする上で最も困った体験として、「親自身が体調不良の時にも育児をしなければならない」ことが挙げられており、その際、急遽一時保育の利用を希望しても、すでに空きがなく、体調不良のまま育児をせざるを得ない状況になっていることが明らかとなった。

冠婚葬祭やきょうだいの病気などによる急な利用についても、同様に一時保育の定員がいっぱいで予約がとれず、対応しきれていない状態となっている。

特に、親自身が病気や体調不良の場合、育児にかかる負担が通常よりも大きくなってしまうため、子どもを預け、療養に専念できる環境を整備することが必要となる。

子どもの預け先として、身近なところで親や友人、行政や民間のサービスとして一時的保育が挙げられるが、核家族が増加し、近所付き合いも希薄となってきている昨今においては、昔よりも家族や友人に子どもを気軽に預けられなくなってきている。

しかし、県内保育園の一時保育実施率()は4分の1程度に止まっており、常に満床状態である。このため、緊急的な利用に対しても枠を確保しておくなど、受け入れ体制を整備する必要がある。

平成19年度一時保育実施状況(認可保育所): 県内124保育所中、28保育園で実施(22.6%)

(2) 一時的保育の利用につながるサービス周知の工夫

子どもの預け先の希望として、家族や親戚の他に「知っている人」が挙げられ、「親も子どもも知っている人であれば安心する」という意見がみられたことから、子どもを預ける時には、預け先への信頼感が重要になっていることが伺われた。

子どもを預けている間は、子どもが親の目の届かないところで生活するため、親は子どもを預けることに特に慎重になると考えられる。

一時的保育の利用に踏み出せない理由としては、「知らない人に預けることが不安」「環境がわからない」という意見が多くみられ、施設の状況やスタッフの顔がみえないことが利用への抵抗感となっている実態が明らかになった。

一時的保育を気軽に利用してもらうためには、施設内部やスタッフの状況、サービスの詳細を知ってもらい、利用への抵抗感をなくしていくことが求められる。

そのためには、従来行ってきた施設の外観やサービス内容のみの紹介だけではなく、スタッフや施設内の環境なども含めて紹介するなど、公開された施設を目指すことが必要となる。

課題 3

効果的な情報提供方法の工夫

養育支援サービスに関する情報提供については、現在のサービスは多種多様であり、情報も氾濫しているため、自分や自分の子どもに適した情報を見つけにくい状態である。

また、「子どもは自分で育てるもの」といった意識を持ち、サービス利用に否定的な親もあり、育児の抱え込みにつながっていくことが危惧される。

そこで、必要とするサービスを自分で選択し、育児を抱え込まずにサービスが利用できるよう、効果的な情報提供を行うために、以下の課題が挙げられる。

(1) 適切な時期・対象を捉えたきめ細やかな情報提供

養育支援サービスは、子どもの年齢などで様々であり、従来行ってきた妊娠期に情報を一括提供するような手法では、情報量が多くなり、自分にあったサービスを見つけにくい上、サービスを必要とする時期にはすでに情報が更新されている場合があるという問題が発生する。

また、提供された時期に必要な情報については関心を示すが、それ以外の情報はあまり記憶に残っていない、といった意見があり、サービスを必要とする時期に、ニーズにあった情報提供を行うことが求められる。

そのためには、子どもの成長に応じた、その家庭で求められる情報を随時提供していくきめ細やかさが必要となる。

(2) 孤立傾向が強い家庭への情報提供手法の確立

情報取得の方法については、友だちや広報紙から情報を得ている場合が最も多く、続いて子育て支援センターなどの掲示板やパンフレットから情報を得ていることがわかった。

同居や就労をしておらず、転入により周りに友だちがいないような孤立傾向が強い家庭については、子育て支援センターなどから情報を収集する割合が高くなるが、地域に子育て支援拠点がない場合、情報取得の場が大きく限られてしまうと考えられる。

また、孤立傾向が強い家庭は、育児の負担が他の家庭よりも大きく、抱え込みにつながる恐れが強い。うえ、養育支援サービスの情報を得る機会も少なくなってしまう。

そのため、サービスの利用に結びつきにくく、より孤立化が進行してしまう恐れがある。

孤立傾向の強い家庭にも、十分な情報が届くよう、情報取得の場でもある子育て支援拠点を整備するとともに、全家庭に情報提供ができる手法を確立する必要がある。

(3) サービスの利用につながる情報提供手法の工夫

広報紙等で、施設内の状況や料金・利用手続きなど部分的な情報しかない場合、利用しない人がいるが、あまり情報量を多くしても、読みづらいものになるため、逆に読まなくなる人がいることもわかった。

詳細について問い合わせが必要となる情報提供では、問い合わせをすることに抵抗を感じる人もいるため、気軽に利用できない要因になると推測される。

そのため、その家庭に必要な情報をピックアップし、詳細に情報提供する手法が求められる。

また、「利用したい」という気持ちを喚起する情報内容が要望されており、必要な情報だけを提供する画一的な手法ではなく、興味を持たせるレイアウトにしたり、「利用者の声」を載せるなど、掲載の工夫が必要となる。

(4) 育児を抱え込む親への意識啓発

サービス利用について、「必要であれば利用するが、そうでなければ我慢する」「相手に迷惑がかかるので遠慮する」と考える人もおり、サービスに否定的ではないが、利用につながらない家庭があることが見出された。

また、「誰かに頼らず自分で育てる」という意識を持つ人もおり、これらの家庭は、サービス内容を知らせるだけでは利用につながらないため、育児を抱え込んでしまう恐れがある。

そのため、「子どもはいろいろな人との関わりの中で育つ」ことを意識啓発し、子どもが様々な環境に触れる重要性や孤育ての危険性について理解してもらうことが必要である。

併せて、「サービスは気軽に利用できる」ことの啓発を行い、積極的なサービス利用を促していくことが求められる。

課題1への対応策

利用しやすい養育支援サービスの整備

養育支援サービスを利用することで育児の負担が軽減され、親と子どもが健全に育っていけるような社会づくりが求められる。

そのため、誰もが必要な時に養育支援サービスが利用できる物理的な環境、サービスを受けたい気持ちにさせる心理的な環境の両面を整備し、利用を促すことが必要である。

(1) 利用しやすいサービス内容の整備

- (ア) 養育支援サービスの利便性向上のため、子育て支援拠点の設置を促進し、身近にサービスが享受できる場を整備するとともに、利用準備等の負担が極力なくなるよう、登録・手続きの簡略化等の工夫を図る。
- (イ) サービスの利用が積極的になされるために、サービス内容を充実させるとともに、利用者のニーズを反映する体制づくりを推進する。
- (ウ) 養育支援を必要とする家庭を漏れなく把握し、自らサービス利用に動けない家庭に適切なサービスを提供するため、こんにちは赤ちゃん事業・育児支援家庭訪問事業等の訪問型支援の実施を徹底し、相談につなげていく。
- (エ) 支援が必要な事例が発見された場合、要保護児童対策地域協議会等を活用して、関係機関が情報・認識の共有化を図り、チームで援助を行うなど、確実な支援につながるような体制を整備することが重要である。

(2) 利用者の心理的負担の軽減

- (ア) 利用希望者が最初の一步を踏み出せるよう、スタッフによる声かけや相談先の紹介などを積極的に行い、利用の後押しを推進する。
- (イ) スタッフによる利用者間の調整・トラブルへの適切な介入によって、利用に伴う心理的負担が解消されるよう、研修等によるスタッフの技術習得を図る。
スタッフの介入により、利用者間の関係が良好になることで、利用者同士が相談し、助け合えるような効果も期待される。

課題2への対応策

安心して気軽に子どもを預けられる体制づくり

最も需要の高いサービスの一時的保育について、緊急時を始めとする利用希望に十分対応できるような体制整備を行うとともに、サービスの効果的な周知により、利用を促進していくことが必要である。

(1) 緊急利用時の受け入れ体制の確立

- (ア) 一時的保育を必要とする家庭に対し、十分なサービスが提供されるよう、特に、一時保育制度において定員及び実施施設の拡充を推進する。
- (イ) 親自身が病気の時などは、特に育児負担が大きい上、事前に一時保育の予約ができないため、緊急時の定員枠を確保しておくなど、常に対応できる体制を整備する。

(2) 一時的保育の利用につながるサービス周知の工夫

- (ア) 希望者が安心してサービスを利用できるよう、体験サービスの場を設けたり、スタッフや施設内部の状況を広報に載せる等、開かれたサービス紹介をするための手法を工夫する。

課題3への対応策

養育支援サービスの周知と利用への働きかけ

支援を必要とする家庭がサービス利用に結びつくためには、情報提供が大きな役割を果たすとともに、サービスの情報や育児に関する正しい知識が必要である。

必要なサービスはその家庭によって様々であり、情報が氾濫している現代において、円滑にサービス利用に結びつくためには、適切かつ効果的な情報提供の手法が求められる。

(1) 適切な時期・対象を捉えたきめ細やかな情報提供

- (ア) その家庭が必要とする情報を適切に提供するため、全てのサービスを網羅した情報を一括に提供するのではなく、子どもの年齢・状態等に応じた情報を、1歳6ヶ月健診・3歳児健診などを通じて個別に提供するような工夫を行う。
- (イ) 必要としている家庭に必要なサービスが確実に提供されるよう、子育て支援総合コーディネーター事業を活用して子育て支援機関等にサービスの専門相談員を配置するなど、サービスのコーディネーター機能を充実させる。

(2) 孤立傾向が強い家庭への情報提供の手法の確立

- (ア) 孤立傾向が強い家庭にも十分情報が行きわたるよう、情報収集の場である子育て支援拠点の整備を促進するとともに、普段外出する場所に広報紙を置いて目を引きつけるなどの工夫を行う。
- (イ) 積極的な外出をせず、外部との接触が希薄な家庭にも情報が届き、サービス利用につながるよう、こんにちは赤ちゃん事業等の介入的な情報提供の手法を推進する。

(3) サービス利用につながる情報提供の手法の工夫

- (ア) 必要な情報のみをピックアップし、自分にあったサービスを容易に見つけ出せるよう、インターネット等を活用した情報提供の方法を推進する。
- (イ) サービスを利用したい気持ちを喚起する広報紙等とするため、従来の画一的な情報提供ではなく、民間企業と連携した目を引くレイアウトの作成や、利用者の声など興味を引く内容を掲載するといった工夫を行う。
- (ウ) 訪問事業などの際、訪問者が、その家庭に必要なサービスの情報提供を適切に行うとともに、利用への意欲が沸くよう、研修等による相談技術の向上を図る。
- (エ) 問い合わせをする時の抵抗感を軽減するため、メールなどを活用した問い合わせの実施、「ここで聞けばわかる」総合案内窓口の設置等を推進する。

(4) 育児を抱え込む親への意識啓発

- (ア) 育児の抱え込みを児童虐待へ発展させないため、サービスの利用に消極的、もしくは否定的な親に対して「子どもはいろいろな人との関わりの中で育つこと」、「育児の抱え込みは児童虐待につながる恐れがあること」を意識啓発し、サービス利用についての意識改善を図る。

(5) 保護者同士の支え合いに向けた支援

- (ア) 各種子育て支援事業等を通じて知り合った保護者同士が情報交換を行ったり、相談に応じたりといった取組は、支援を必要としている保護者にとってはとっつきやすく、きめ細やかな支援が期待できることから、保護者が気軽に集まり、これらの活動が自主的にできるよう支援する視点も重要である。

地域の子育て支援サービスの活用に関するアンケート

県民の皆様へ

千葉県では、県民の皆様にとって利用しやすい子育て支援サービスを展開していくため、アンケート調査を実施します。この調査では、お子さんが健やかに成長できる安心・安全な環境づくりを進めていくため、現在子育て中の方が、お住まいの地域にあるさまざまな社会資源や子育て支援サービスをどのように活用しているかをお聞きするものです。

回収した調査票は統計的に処理し、得たデータは当該調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

「社会資源」：私たちの生活のニーズや問題解決を目的に利用できる施設（場所）、制度、情報、機関、人材などを総称しています。

《お問い合わせ先》

千葉県健康福祉部児童家庭課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

電話：043-223-2357（直通）

（月曜日～金曜日 午前9時～午後5時）

Q1. 今回のお知らせの1歳6か月健康診査の対象のお子さんのことをお尋ねします。

- (1) お子さんの出生順位 ()人きょうだいの ()番目
- (2) お子さんの性別（どちらかに○） 男 女
- (3) お子さんの同居家族（子どもから見た関係で該当するものすべてに をしてください）
父 母 兄 姉 弟 妹 祖父母 その他 ()
子どもを含めて ()人家族 父は単身赴任ですか？ はい・いいえ
- (4) お子さんは定期的に保育所を利用していますか
いいえ はい（利用頻度 週に ()日、1日 ()時間)

Q2. 回答者の方についてお尋ねします。該当するものに を付けてください。

- (1) お子さんから見た関係 母親 父親 その他 ()
- (2) 年齢 10代 20代 30代 40代 50代 その他 (代)
- (3) 就労 無職 有職（フルタイム勤務、パート勤務、自営業、育休中、その他）
- (4) 住居形態 一戸建て 集合住宅（マンション、アパート、団地、その他）
- (5) 居住年数 現在の地域に住んで ()年

<これ以降は健康診査対象のお子さんと回答者の方についてお答えください>

Q3. ふだんの日にお子さんによく行く場所はどのようなところですか。屋内でも屋外でも、よく出かける場所の名前を、3つあげてください。公共のスペースや商業スペース、実家、友人宅などの個人的な場所でもかまいません。週末などの特別な外出は含まないでください。

（例： 公園、 ショッピングセンターのキッズルーム、子育て仲間の家など）

	よく行く場所	移動手段	家から何分	週何回行きますか
例	ショッピングセンターのキッズルーム	徒歩	10分	週2～3回
1				
2				
3				

Q4 . Q3でお答えになった場所を選ぶときに重視することはどのようなことですか。
3つまで選び、 を付けてください。

1. 同年代の子どもが多い
2. 遊びなどのプログラムが定期的であり、自由に参加できる
3. 自分たちのペースで過ごせる
4. 予約や登録なしで利用できる
5. 固定のメンバーが少ない
6. 子どもを遊ばせてくれる人がいて、子どもと離れて過ごせる
7. 親も子どもと一緒に楽しめる
8. 親同士で話ができる
9. 子育てについての相談相手がいる
10. 子ども用のトイレや授乳室などの設備が整っている
11. 子どもが大声を出しても気にならない
12. その他 ()

Q5 . 地域にある子育て支援サービスや親子で出かける場所についての情報はどのように得ていますか。最もよく利用するものを3つまで選び、 を付けてください。

1. 広報紙
2. 保健センターでもらったパンフレットや情報誌
3. 子育て支援センターや児童館などの掲示板やパンフレット
4. 雑誌や情報誌 (具体的な名称)
5. 家族や親戚からの情報
6. 友達からの情報
7. インターネット上の情報
8. 子どもの通う保育園や幼稚園からの情報
9. その他 ()

Q6 . 次の文章は育児をするうえでの気持ちや、周りの人との関係を表しています。それぞれの文章はあなたにどの程度あてはまりますか。あなたにあてはまるところに を付けてください。

- | | | | | |
|-------------------------|-------|------|--------|--------|
| 1. 子育てが楽しく毎日が充実している | よくある | 時々ある | ほとんどない | まったくない |
| 2. 自分は子どもをうまく育てていると思う | よくある | 時々ある | ほとんどない | まったくない |
| 3. 子どもがわずらわしくてイライラしてしまう | よくある | 時々ある | ほとんどない | まったくない |
| 4. 用事がある時に子どもを見てくれる人がいる | いつもいる | 時々いる | いない | |
| 5. 子どものことで話し合える人がいる | いつもいる | 時々いる | いない | |
| 6. 育児について教えてくれる人がいる | いつもいる | 時々いる | いない | |
| 7. あなたの配偶者は育児に協力的である | いつも | 時々 | まったくない | |

Q7 . 以下に示す子育て支援サービスの機能のうち、現在のあなたが必要とする機能があれば、いくつでも を付けてください。

1. 居 場 所 提 供 育児中の親子が集まり、子どもと一緒に遊ばせながら、情報交換をしたり、悩みを相談しあったりする場所を提供するサービス
2. 情 報 提 供 地域にある社会資源や、育児のノウハウなどについての情報を提供するサービス
3. 一時的な保育 育児疲れからのリフレッシュや気分転換のためなど、理由を問わず一時的に利用できる保育サービス
4. 相 談 育児に関する相談や自分自身の悩みについて相談できるサービス
5. そ の 他 ()

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(例：柏市、Q 8 は都市別設問)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	地域子育て支援センター こあらルーム らっくルーム ぼっかぼかなど	お子さんと保護者の交流の場です。子育ての悩みや相談に応じます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
2	子育て広場 子育てサロン	児童センター等で実施している、0～3歳くらいのお子さんと保護者のつどいの場です。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
3	保育園の園庭解放	保育園の園庭で遊んだり、育児相談に応じています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
4	児童センター	親子で遊べる場や保護者同士の情報交換の場を提供。様々な催しを実施しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
5	かしわファミリー・サポート・センター	育児の援助を受けたい人、育児の援助を行いたい人による助け合い制度です。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
6	子ども短期入所 (ショートステイ)	病気などで一時的に養育が困難になった時に預けることができます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
7	一時保育	病気やケガなどで一時的に子どもの保育をできない時に、保育園で預かります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
8	母と子のつどい	お友達づくり、身体測定と育児相談・食事や歯のことについて相談できます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用した 2. たまに利用した 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない

SQ8-1 Q 8 の質問で今後利用したくないという回答があった方は、主な理由をお聞かせください。(例 1 理由：場所が遠くて行きにくい)

理由：
理由：

Q 9 . あなたはお子さんを連れて外出することに積極的な方だと思いますか。

1. とても積極的だ
2. やや積極的だ
3. どちらともいえない
4. あまり積極的ではない
5. 全く積極的ではない

SQ 9-1 それはどのような理由からですか？(いくつでも を)

1. 家の近くに行くところがない	2. 子どもがまだ小さい
3. どんなどころがあるか知らない	4. 一緒に行く友達がいない
5. 行ったことがない所は行きにくい	6. 利用の仕方がわからない
7. 周囲の人たちになじめない	8. 家の中が落ち着く
9. 子どもを連れて外出するのは大変	10. 子どもが泣くと困る
11. その他()	

Q10. 子育て支援サービスを子育て支援センターや保育所などを行う以外に、支援を必要とする方の家庭まで出向いて、子育てに関するアドバイスや家事のお手伝い、産後支援などを行うサービスが広がりつつあります。あなたはこのようなサービスを利用したいと思いますか。該当するものに を付けてください。

1. 自宅で利用できるなら利用したい
2. その時の事情によっては、利用するかもしれない
3. 自宅以外の場所で利用したい
4. 利用したくない 理由をお聞かせください。
(理由:)
5. その他 ()

SQ 10-1 どのようなサービスなら利用したいですか？
(いくつでも を)

1. 相談
2. 産後の家事支援・育児支援
3. 一時的な保育
4. その他 ()

Q11. これまで育児をしていて、誰かの助けが必要だったのにそれがなくて「本当に困った！」と思ったエピソードを一つ書いてください。

ご協力ありがとうございました

ご記入いただいた調査票は、市が実施する1歳6か月健康診査受診会場に、問診票と一緒にをお持ちください。

～インタビュー調査へのご協力のお願い～

「地域の子育て支援サービスの活用に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。県ではアンケートでお答えいただいた内容について、さらに詳しくお話をお聞きするインタビュー調査(11月以降に実施)にご協力いただける方を求めています。(聞き手は、県が調査を委託する専門機関です。連絡先及びお話いただいた内容は本調査研究のみに使用するもので、他の目的に一切使用することはありません。また、お話しいただいた内容については、お名前など個人が特定されないように十分に配慮して取り扱います。)インタビューは、公共機関の施設等で実施し、お一人約40分程度お話を聞かせていただく予定です。お話を聞きする間は、お子さんのお相手をするスタッフを用意します。お子さんと一緒でも結構ですので、協力していただける方は、下記の表に必要事項をお書きください。ご協力をいただく方には、改めてご連絡をさし上げます。

お名前 ふりがな _____ 電話 _____

〒 _____

ご住所 _____

インタビュー調査 協力できる ・ 協力できるかもしれない (いずれかに)

以下に都市別のQ 8の内容を示す。

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(浦安市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	地域子育て支援センター	親子同士が交流できる場や子育てに関する相談・情報の提供をしています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	つどいの広場(堀江・明海)	利用者が相互に楽しく交流し、遊び学び支えあう場所です	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	子育てすこやか広場	公立幼稚園を開放し、子どもや親同士のふれあいの場として、遊びの提供をしています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	児童センター	親子で遊べる場や保護者同士の情報交換の場を提供、様々な催しを実施しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	エンゼルヘルプサービス	保護者の方の出産や病気などに家事・育児などができない時にヘルパーを派遣する制度	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	うらやすファミリー・サポート・センター	育児の援助を受けたい人、育児の援助を行いたい人による助け合い制度	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	一時保育	病気やケガなどで一時的に子どもの保育をできない時に、保育園で預かります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	こどもショートステイ	病気などで一時的に養育が困難になった時に預けることができます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(佐倉市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	保育園の園庭開放	子どもと一緒に遊んだり育児相談をしたり親同士の交流のできる場として園を開放しています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用した 2. たまに利用した 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	佐倉市子育て支援センター(レイクビハウス3階)	親子で遊んだり、子育て仲間と情報交換をしたり育児相談のできる場です	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	児童センター・老幼の館	遊びを通して保護者や地域の方々と楽しい子育て子育てをサポートする施設です	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	さくらファミリーサポートセンター	育児の援助を受けたい人、育児の援助を行いたい人による助け合い制度	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	地域子育て支援センター	保育園・子育て支援センターの電話・来園による育児相談を行っています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	一時保育	母親の病気やケガ、介護、育児疲れのリフレッシュなどのときに一時的保育を受けられます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	保健センター・児童センター主催の母子交流会	主に0歳児のお子さんと保護者を対象とした交流会で、保健師や栄養士による相談を受けられます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	図書館	図書などの閲覧・貸出しをするほか、乳幼児向けの講座・おはなしもあります。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(旭市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	子育て支援センター	育児不安の解消の為に相談、サークル活動支援、青少年の保育体験の実施等の支援を行っています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
2	つどいの広場 ハニカム	子どもと一緒に遊んだり、保護者同士の交流・情報交換、相談ができます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
3	園庭開放	保育園の園庭を解放し、一緒に遊んだり情報交換をする場を提供しています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
4	親子遊び教室	子どもと一緒に遊んだり、育児の情報交換、育児相談を行っています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			参加状況	1. 参加したことがある 2. 参加している 3. 参加したことがない
			今後の参加	1. 参加したい 2. 参加したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
5	子育て学級	楽しく子育てしていけるよう育児のことを学びます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			参加状況	1. 参加したことがある 2. 参加したことがない
			今後の参加	1. 参加したい 2. 参加したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
6	育児サークル	お子さんの年齢に合わせてたくさんのサークルが活動しています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			参加状況	1. 参加したことがある 2. 参加している 3. 参加したことがない
			今後の参加	1. 参加したい 2. 参加したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
7	一時保育	病気やケガ、育児疲れ等の解消の為に一時的保育を受けられます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない
8	図書館 (旭市図書館) (県立東部図書館) 乳幼児室あり	雑誌、図書などを保管し、閲覧や貸し出しする施設で、市立と県立があります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1 へ) 3. 必要ない

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(東金市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つ付けてください	
1	子育て支援センター ぽかぽか	保育園で親子同士が交流できる場や子育てに関する相談・情報の提供をしています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用した 2. たまに利用した 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	つどいの広場のびのびハウス	児童館内にあり利用者が相互に楽しく交流し、遊び学び支えあう場所です。子育てに関する相談・情報の提供もしています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	市立幼稚園 ふれあい広場	未就園児と保護者に園を開放し、遊びや、親同士の交流の場を提供しています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	園開放 にこにこルーム	保育所の園庭で遊んだり育児相談や各種講座を開催しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	東金市児童館	子どもたちや保護者が自由に来て遊ぶことができます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	東金市 ファミリー・ サポート・センター	育児の援助を受けたい人、育児の援助を行いたい人による助け合い制度	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	一時的保育	病気や育児リフレッシュなどで一時的に子どもの保育をできない時に、保育所で預かります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	親業訓練講座	子どもとの毎日の生活における実際のかかわりあいを学ぶ講座です	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. 受講したことがある 2. 受講したことはない
			今後の利用	1. 受講したい 2. 受講したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

Q8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(いすみ市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	子育て支援センター	保育園で、就学前の児童を持つ子育て家庭に対し、子育てに関する相談や情報の提供をしています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	すくすくルーム	主に1歳~保育園に入るまでのお子さんと保護者を対象に、児童館で様々な行事を開催しています。また、保健師による育児相談も受けられます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	保育園の園開放	お家でお子さんを見ているお母さんたちと一緒に保育園に遊びに来ていただく日です。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	児童館	誰でも自由に利用することが出来、年齢の違う子ども達の間で助け合い、交流の輪を広げます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	一時保育	病気やケガなどで一時的に子どもの保育をできない時に、保育園で預かります。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	子育てヘルパー派遣事業	育児や家庭等の支援を必要とする子育て家庭に対しヘルパーを派遣します。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	かるがも相談	保健センターで、専門職から乳幼児の発達相談を受けられます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	お誕生教室	1歳のお誕生日を迎える親子を対象に、児童館で身体測定やパスデーカード作り、栄養士や歯科衛生士によるお話を聞きます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. 利用した 2. 利用しなかった
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(木更津市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	地域子育て支援センター・ゆりかもめ	育児相談、親子の集いの場の提供、育児の援助、一時保育などを行っています	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	つどいの広場「東清分館」	利用者が相互に楽しく交流し、遊び学び支えあう場所です	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	保育園の園庭開放	保育園の園庭で遊んだり、育児相談に応じています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	一時保育	病気やケガ、買い物などのときに、保育園で一時的に保育を受けられます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	子育て短期支援事業(ショートステイ)(トワイライトステイ)	一時的に養育が困難になった時に預けることができます	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	母子健康相談 地区健康相談	保健師・栄養士・歯科衛生士による健康相談や育児相談、子どもの身体測定等を実施しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	1歳児教室	親子で、1歳児の特徴と関わり方、生活リズム、親子遊び等について学びます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用した 2. たまに利用した 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	市立図書館	図書などの閲覧・貸出しをするほか、乳幼児向けの講座・おはなし会もあります。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

Q 8 . 地域にある子育て支援サービスについてお聞きします。(南房総市調査票)

	子育て支援サービス	概要	それぞれの質問について、 を一つつけてください	
1	センター開放 (三芳保健福祉センター) (富山保健福祉センター)	三芳及び富山保健福祉センターでは、親子の交流の場として、開放日を実施しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
2	保育園の園庭開放	保育園の園庭で遊んだり、保育士に育児相談ができます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
3	子育てサロン (とみうら元気倶楽部)	4歳位までのお子さんと保護者を対象に、とみうら元気倶楽部で交流の場を提供しています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
4	一時保育	病気やケガなどで一時的に子どもの保育をできない時に、保育園で預かります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
5	育児相談	各保健福祉センター等で月1回程度育児・発達・生活・栄養など、保健師・栄養士による育児相談を行っています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
6	きらりんクラブ (とみうら元気倶楽部) (千倉保健センター)	主に言葉や発達心配をもつ子と保護者を対象に集まり遊びや保育士、保健師による相談を行っています。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
7	もぐもぐ教室 (千倉保健センター) (三芳保健福祉センター)	栄養士が、準備期～完了期までの離乳食の作り方を講話します。また、離乳食の調理実習もあります	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用した 2. たまに利用した 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない
8	未来っこクラブ (富山保健福祉センター)	幼稚園就園前のお子さんや保護者を対象に、健康教育や遊び等の指導を行うほか、参加者同士の情報交換ができます。	認知	1. 知っている 2. 知らない
			利用経験	1. よく利用する 2. たまに利用する 3. 利用したことはない
			今後の利用	1. 利用したい 2. 利用したくない(SQ8-1へ) 3. 必要ない

**千葉県 児童虐待未然防止のための養育支援
サービスのあり方に関する調査**

事業名：児童虐待防止調査研究事業

結 果 報 告 書

平成21年3月

編集・発行 / 千葉県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会
社会的養護検討部会

児童虐待防止調査研究委員会

調査実施 / 有限会社 エムアンドエムインク
子どもの領域研究所